

No.20 >>> Contents

●提携支援センターから

蚕糸絹文化活性化推進事業を拡充

..... 財団法人 大日本蚕糸会 蚕糸絹文化活性化推進協議会 1

最高級本場結城紬を目指す「風土 31 研究会」

..... 結城紬 風土 31 研究会 事務局 小倉 進吾 6

純国産絹で極める邦楽器絃の音色

..... 絹で奏でる音世界グループ 代表 小篠 敏之 12

純長野県産絹製品で活路を目指す

..... 信州繭ブランド織物振興会 代表 清水 武彦 18

平成 23 年度第 2 次純国産絹マーク使用許諾状況

..... 社団法人 日本絹業協会 22

提携支援センター活動日誌 No. 20 24

●今月の話題

蚕糸業や絹文化の存続に向けて「絹の郷シンポジウム」を開催

..... 群馬県農政部蚕糸園芸課 蚕糸係長 岡 喜久男 25

●国内情報

「きもの文化検定」新たな認定級を設定し実施します

..... 社団法人 全日本きもの振興会 29

群馬の繭でつくった糸を使って純国産ストールを織る（体験談）

..... 日本絹の里 体験教室 受講生 福島 宣行 32

●トピックス

国内産地情報、海外情報（中国） 36

●横浜開港とシルク貿易

関東大震災の復興取組みと大量の焼失生糸問題

..... シルク博物館 元部長 小泉 勝夫 39

●イベント情報

..... 43

●純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

..... 44

●蚕糸関係博物館一覧

..... 47

●蚕糸関係団体ホームページ一覧

..... 48

●統計資料

..... 50

（統計資料の詳細は統計資料目次をご覧ください。）

蚕糸絹文化活性化推進事業を拡充

～蚕糸・絹業提携グループの活動を支援～

財団法人 大日本蚕糸会
蚕糸絹文化活性化推進協議会

大日本蚕糸会では、我が国の蚕糸絹文化の継承発展に資するため、蚕糸絹文化活性化推進事業（以下「活性化事業」といいます。）を実施し、これまで、蚕糸絹に関する生産・利用技術について広くその普及を図るための生産・流通の現場での実証・展示等の推進、蚕糸絹文化に関する諸活動を支援する事業、国産の繭・生糸の特長と希少性を生かした純国産絹製品づくりを支援する事業等を実施しています。

平成23年度においては、大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センターが推進している蚕糸・絹業提携グループの活動を支援するための事業を追加実施するなど、活性化事業の拡充を図りましたので、その概要を紹介します。

1 今回の拡充の内容

（1）先導的養蚕農家等経営安定化事業を「養蚕農家経営支援事業」に改称して、対象農家を拡充しました。

活性化事業により事業実施できる対象農家は、新しい養蚕技術を普及するためのモデル的な先進的養蚕農家（平成3年以降「先進国型養蚕業推進事業」に基づいたモデル養蚕農家。）と、大日本蚕糸会が行った「養蚕新技術を導入する農家や新規養蚕農家等の募集について」に応募して、養蚕経営概況調査への協力を頂いた養蚕農家を対象としてきました。

23年度は、事業名称を「先導的養蚕

農家等経営安定化事業」から「養蚕農家経営支援事業」に改称し、下記「事業採択要件」を満たせば、すべての養蚕農家を対象として桑園の造成・改良、蚕の飼育・上簇・収繭に関する機械・施設の導入等に対して補助します。

「事業採択要件」

- ①今後とも引き続き養蚕経営に取り組む意欲・能力があること。
- ②蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業において承認を受けた提携グループに参加していること。
- ③大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センターの行う養蚕農家概況調査（仮称）

への協力ができること。

- ④都府県推進協議会、農協等による養蚕の技術指導が受けられること。
- ⑤桑園面積が概ね 50a 以上又は繭生産計画が概ね 200kg 以上の養蚕農家であること。（新規養蚕農家は除く。）
- ⑥補助事業費が、原則として概ね 30 万円以上の事業内容であること。（新規養蚕農家が行う事業並びに桑園の造成・改良及び上簇、収繭、選繭等の繭品質改善に関する事業を除く。）

（２）新たに蚕糸・絹業提携グループの活動を支援するため、次の事業を補助対象といたします。

- ①蚕種生産安定化事業（定額補助、事業実施主体：蚕種製造者）

農家で養蚕を行うためには、蚕種製造者による蚕種の製造・供給が必要であり、このため蚕種製造者が蚕種を製造するために購入する種繭代を補助します。

また、はくぎん、蚕太等のように普通蚕品種よりも繭糸繊度が極めて細い、あるいは太い等、特殊な形質を有する蚕品種（特殊蚕品種（別途指定））の製造経費について、補助します。

（注）特殊な形質を有する蚕品種とは、「提携システム確立事業計画書の策定に当たっての各項目の考え方及び留意事項等について」（平成 22 年 5 月 24 日付け平 22 蚕提携第 41 号財団法人日本蚕糸会会頭通知）の別記「普通蚕品種と特殊蚕品種の分類」の 2 の（２）に掲げる蚕品種。

- ②玉繭利用促進事業（定額補助、事業実施主体：玉繭を購入し、玉糸等に加工した者）

玉繭の利用促進を図るため、蚕糸・絹業提携グループへの交付金の対象とならなかった玉繭を一定額以上で購入し、玉糸等に加工しようとする者に玉繭購入費を補助します。

- ③蚕糸・絹業提携グループ活動支援事業（定額補助、事業主体：提携グループ代表者）

蚕糸・絹業提携確立事業を終了した蚕糸・絹業グループ又は蚕糸・絹業提携確立事業を実施中の蚕糸・絹業提携グループの活動の活性化のため、提携グループが使用する繭量に応じて、活動経費（会議費、提携グループ構成員の旅費、川上・川下交流費、試作費、パンフレット作成及び展示会開催経費）を補助します。

平成 23 年度においては、

- a 確立対策事業を終了した提携グループには、

使用繭量が 1,000kg 未満、5,000kg 未満、10,000kg 未満、10,000kg 以上の 4 分類して、それぞれ 100,000 円、200,000 円、300,000 円、500,000 円の定額助成をします。

- b 確立対策事業実施中の提携グループには、

使用繭量による分類は上述の 4 分類と同じとし、助成額は終了グループ（上記「a」）の 1／2 とします。

④遠距離等繭輸送費助成事業（定額補助、事業実施主体：原則として提携グループ代表者）

繭産地から納入先である生糸製造者等までの繭輸送が、県外からの輸送又は保冷車利用による繭輸送になっている蚕糸・絹業提携グループのうち、繭輸送代金の全部若しくは一部を負担しているか又は養蚕農家に対して繭輸送費を補助している蚕糸・絹業提携グループに対して、繭の輸送広域化に伴う繭輸送経費の軽減を図るため、次により繭輸送代について、補助します。

a 県外からの繭輸送の場合（50 円／生繭 1 kg 当たり）

b 保冷車を利用した輸送の場合（県内外を問わず 100 円／生繭 1 kg 当たり）

⑤蚕糸・絹業提携グループ全国協議会助成事業（定額補助、事業実施主体：提携グループ全国協議会事務局）

蚕糸・絹業提携グループ間の情報交流、大日本蚕糸会との連絡調整等を図るための全国協議会を設置し、協議会活動のためのアルバイト賃金、通信運営事務経費に対して補助します。

⑥平成 23 年度承認提携グループへの経営支援（23 年度限り）（定額補助、事業実施主体：23 年度承認の提携グループ）

23 年度に立ち上げた提携グループのうち、23 年度から事業を開始する提携グループに対し、当該提携グループが使

用する繭量に応じて、定額を補助します。

（23 年度に承認された提携グループへの緊急対策事業の交付金は、24 年度からになります。）

補助の単価は 1,300 円／生繭 1 kg で、繭代への使用等緊急対策事業の交付金と同様の使い方ができます。

⑦東日本大震災関連支援対策

蚕糸・絹業提携活動を行うため、23 年 3 月に発生した東日本大震災により被災した養蚕機械・施設の復旧のための支援を行います。

2 活性化事業の全体概要

（1）蚕糸絹文化推進事業

①中央推進事業

大日本蚕糸会が直接実施する事業として、引き続き県協議会等の指導協力によりまとめられた養蚕農家の経営概況等を検討する養蚕成績検討会、先導農家に直接出向いて行う現地指導調査、各県協議会等の行う催事に際しての講師派遣、高度の蚕糸技術を有する専門家から成る課題に応じたワーキンググループの開催及びこれらの専門家による製糸工場等への技術指導等の具体的活動を行います。

②都道府県推進事業

養蚕経営概況調査に協力を頂いている養蚕農家の所在する都道府県及び蚕糸絹業提携グループの繭生産体制強化のため、行政、試験研究、普及指導関係機関、繭・生糸生産関係者を構成員とした協議会等を設置し、研修会・検討会の開催、

情報交流等に必要な活動経費を補助します。

③養蚕経営概況調査事業

蚕糸・絹業提携グループの構築とこの提携グループには養蚕農家がすべて参画していると思込まれること等から大日本蚕糸会提携支援センターにおいては、全国的な養蚕概況を把握するため新設を予定している「蚕糸・絹業提携グループ全国協議会（仮称）」を通じて全養蚕農家を対象とした養蚕農家概況調査を行うことを考えております。

他方、活性協としては、23年3月末現在の調査協力農家66戸のうち、これまでお願いしてきた繭生産費調査農家と、養蚕概況調査として、先進養蚕農家と地域の核となっている実証農家の併せた30戸程度を調査農家として引き続き調査をお願いし、養蚕成績検討会の検討会資料とします。

（2）蚕糸絹文化継承・発展事業

①蚕糸絹利用技術実証事業

ア 蚕糸絹文化関連技術調査開発事業

我が国の蚕糸絹文化の継承・発展のために必要な技術・技能等に関する調査、分析、再現等を行うために必要な経費について補助します。

イ 蚕糸絹文化関連フォーラム等支援事業

蚕糸絹文化に関係するもので、広く市民（消費者）を対象として行う講演会、研修会等に対し補助します。

②蚕糸絹生産技術実証事業

ア 養蚕農家経営支援事業（前述しましたので、省略します。）

イ 地域養蚕関連事業

養蚕地域における稚蚕共同桑園及び稚蚕共同飼育所の関係機械・施設の整備や修理など地域の養蚕を維持する上で必要な事業に対して補助します。

ウ 蚕種生産安定化事業（前述しましたので、省略します。）

エ 玉繭利用促進事業（前述しましたので、省略します。）

オ 製糸業等新技术導入事業

製糸、蚕種製造、製織、糸加工・染色等に関係する新技术・関連機械の導入に補助します。

（3）蚕糸・絹業提携支援緊急対策支援事業

ア 純国産絹製品づくり機械・機材整備事業

蚕糸・絹業提携システム確立対策事業で取り組んだ純国産絹製品づくり条件整備事業（機械・器具の整備）に対し、上乗せ補助します。

イ 蚕糸・絹業提携グループ活動支援事業（前述しましたので、省略します。）

ウ 遠距離等繭輸送費助成事業（前述しましたので、省略します。）

エ 蚕糸・絹業提携グループ全国協議会助成事業（前述しましたので、省略します。）

オ 平成23年度承認提携グループへ

の経営支援（前述しましたので、省略します。）

（４）蚕糸絹生産・利用技術指導等事業

①養蚕産地技術指導事業

地域の実情に応じた優良な稚蚕の生産、優良繭の安定生産に向けた病虫害防除、育蚕・選繭・上簇技術等の高度化を進め、地域全体の養蚕技術水準の向上を図るための活動を補助します。

ア 稚蚕期安定飼育技術指導事業

多様な蚕品種の性状に応じた飼育管理による優良な稚蚕の生産を図るため、飼育実務者に対し、稚蚕の安定飼育技術を指導実証する活動経費を補助します。

イ 壮蚕期高位繭生産技術指導事業

優良繭の安定生産に向けた病虫害防除、育蚕・選繭・上簇技術等の高度化を進め、地域全体の養蚕技術水準の向上を図るための活動経費を補助します。

②繭集出荷等指導事業

優良繭の安定生産及び集繭・出荷に向けた病虫害防除、選繭技術等の高度化を進めるための活動経費を補助します。

③技術指導グループ等支援事業

養蚕農家等が行う活性化事業の実施に向けた具体的計画づくりや必要な書類づくり、事業実施後の検証や、技術指導等を実施していただく蚕糸OB等から成る指導者のグループ化を推進することにしており、これらのグループが必要とする活動経費等を補助します。

大日本蚕糸会が行う活性化事業の概要をご紹介しましたが、この活性化事業は、大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センターが実施している蚕糸・絹業緊急対策事業の確実な推進が図られ、これが純国産絹づくりとその消費拡大、更には我が国絹文化の維持発展に寄与していきたいと考えています。

活性化事業に関することの照会・連絡先
財団法人大日本蚕糸会
蚕糸絹文化活性化推進事業
事務局 安藤俊幸、鈴木浩
電話 03-3214-3411・5777
FAX 03-3214-5778

最高級本場結城紬を目指す「風土 31 研究会」

結城紬 風土 31 研究会

事務局 小倉 進 吾

本場結城紬について

本場結城紬の特徴は軽くて暖かいところですが、その秘密は糸にあります。通常絹織物のほとんどは、製糸工場で機械によって繭から直接糸を引きだし、それを数本撚り合わせたものを一本の糸（生糸）として使っています。しかし本場結城紬は、一度繭を煮て袋真綿にし、袋真綿から手で糸をつむいだ真綿手紬糸を使います。真綿手紬糸は、袋真綿を「つくし」という道具にかけて糸をつむぎますが、このときに撚りを

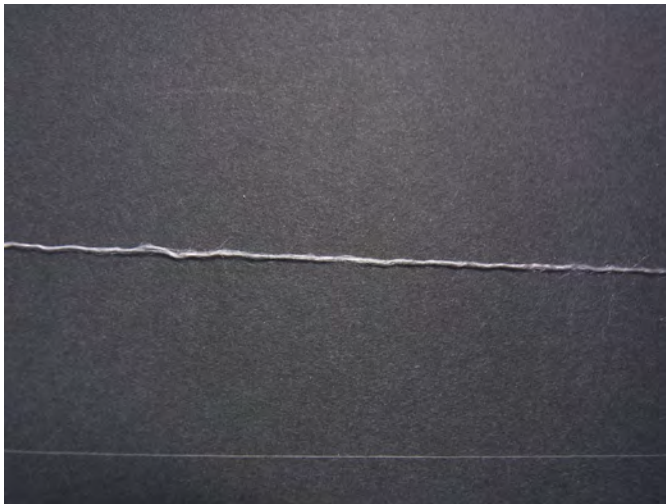
かけないのが特徴です。撚りがかかっていないため、空気をたくさん含み軽くてやわらかい糸になります。

約 90 日以上との時間と手間をかけて一反分の糸をつむぎますが、無撚糸である真綿手紬糸は世界でも類を見ない糸ではないでしょうか。他の絹織物とは光沢感や肌触りがまるで違います。同じ種類の繭でも糸の作り方によって風合いが大きく変わってくるのです。

次に、本場結城紬は、生地が嵩高でしな



〈写真 1〉「朝日×東海」からつくる入金真綿



〈写真2〉手紬糸（上）と生糸（下）

やかであるのが特徴です。それは日本最古の織機と言われている地機^{じばた}で織られているからです。

地機は、経糸^{たていと}を織り手の腰に巻きつけ、まさに人間と織機が一体となって一反を織り上げます。経糸を自分に巻きつけることによって、経糸のテンションを細かに調整できること、また投げ杼（シャトル）の代わりに大きな檜の木でできた杼を使うことで箴と両方とで密に打ち込める事、片口開口^{よこいと}といって上糸のみが上下し経糸と緯糸がしっかり絡み合う事が特徴です。

このように地機は、真綿手紬糸にとっては非常に合理的な仕組みとなっておりますが、最後まで均等に打ち込むことや経糸をしっかり張ることなど、織り手には大変厳しく、そして高度な技術が必要とされます。

真綿手紬糸は、人間の皮膚と同じように湿度や気温に大きく左右されるため、乾燥すると糸が切れ易くなり、湿度が高くなると綿^{わた}ばんでしまう（わた状になる）などコ

ンディションを調整するのに苦労します。

約3ヶ月かけて織り上がりますが、大半の時間は切れた糸をつなぐ、あるいは経糸^{かすり}の拵を揃える、糊の調整などに費やされます。すべてが手作業で非常に手間と技術を要する真綿手紬糸と地機ですので、織りあがると同じものは一反もありません。一反ずつすべてが違います。糸も、織も季節もすべて条件が異なる手づくりだからです。誇るべき最大の共通点は、きものとして大変ご満足をいただいているところです。

優良蚕品種との再会で提携グループを構築

結城紬の産元問屋の株式会社小倉商店では以前から、昔の本場結城紬と現在のものとは何かが違うと感じていました。

真綿手紬糸を使い地機で織る、この原則は今も変わらず守られております。しかし、数十年の間には繭の品種（蚕品種）が変わるなど、糸を作るまでの段階で細かな部分で変化していました。それらがいい方向へ作用してくれればいいのですが、必ずしもそうではないのではないかと考え、長い間さまざまな研究、試作等を試みてきました。

本場結城紬はすべてが手作業であること、分業制であること、作り手の技法の違いなどから反物の良し悪しの原因を特定することが難しいのですが、あるとき蚕品種によって地風が全く異なる反物が出来ることが分かりました。これまでの様々な変化の中でも原料である蚕品種の変更が一番大きな影響を与えていると考えるようになりました。



〈写真3〉糸取り

田中さん：糸をつむいで40年、きっかけはお姑が糸をつむいでおり自然と自分も。昔はみんながつむいでいたが、今では本当に少なくなった。

それ以降は蚕品種を中心とした開発が始まりました。これまで春嶺×鐘月、錦秋×鐘和、笹繭、あけぼの、大鷲などで試作を繰り返してきましたが、コシがある、毛羽立つ、糸が細くなるなど、おのおのに特徴ある製品が出来上がり、原料を吟味することがいかに大切かを痛感しました。農家、JA、真綿商、機屋などを統括し全員が納得し、作業しやすく、製品も上質なものができないか試行錯誤が続きました。

そんな中、ついに一昨年（財）大日本蚕糸会 蚕業技術研究所の紹介で、夢の蚕品種の「朝日×東海」と出会うことになりました。

現存する小倉商店が所有する資料の中でも極上の質感をもっており、我々が目指す極上の本場結城紬ともいえる反物があります。それは約30年前に織られたものですが、歴史をたどると、丁度その頃、結城



〈写真3〉織り手

小柳さん：織りあがった反物が光る瞬間が好きです。単調な仕事ですが、毎日変化する手紬糸相手に飽きることはありません。

地方でも「朝日×東海」が盛んに養蚕されていたのです。当時さまざまな賞をとる優秀な養蚕農家が多く存在した事実があります。その反物にも「朝日×東海」が使われているということは容易に判明しました。

ひきが強く織度が細い「朝日×東海」から作る繭糸は、袋真綿を作る真綿商からは「腕が痛くなる」、真綿から糸取りをする糸屋からは「指が切れる」などの声が聞こえましたが、織り上がった反物をみると、まさに光っているのです。地風もやわらかいのにコシのあるしっかりしたものでした。試作品を着用してみても、発色がよく光沢感があり、最近の本場結城紬とは違う雰囲気をもっていました。

純国産の原料である蚕品種「朝日×東海」を用いて一連の結城紬の生産を始めるうちに、これなら我々の求める最高級本場結城紬がつかれると確信した結果、純国産本場



〈写真5〉純国産結城紬「風土 31」

結城紬の生産・販売グループ「結城紬 風土 31 研究会」を昨年、構築することができました。(別記提携システム全体の体系図参照)

今では風土 31 研究会の核会社として(株)小倉商店は、この「朝日×東海」を原料として生産した純国産結城紬を『風土 31』という商品名をつけ専門店、百貨店などに流通しております。売れ行きはお陰様で好調です。なお、このグループと商品のネーミングの経緯には、結城紬の生産技術が昭和 31 年に国の重要無形文化財に認定されていることから由来しております。

ユネスコ登録を好機に

先ほども申し上げたとおり、ここ数十年の間に多くの部分で材料、道具、技法に変化が見られます。風土 31 研究会では、「朝日×東海」をベースにそれらを一つ一つ検

証しながら細かな部分での改良、修正を進めさらなる本場結城紬を目指しています。

風土 31 研究会の目的は、養蚕農家の保護と発展、そして上質な繭の安定確保等を進めながら究極の純国産本場結城紬をつくることでもあります。しかし、残念ながら本場結城紬全体の生産量は減る一方であり、その中身も無地や縞など比較的簡単なものが主流となっております。

人も技術も減っていく中で結城紬は昭和 31 年に重要無形文化財に認定され、さらに昨年 11 月 16 日ユネスコ世界無形遺産にも登録されました。先人たちの知恵と職人としての意地があってこそだと思います。大変名誉なことですが、これがゴールではなく今後職人と品質そして技術を伝えていくことが我々の使命と考えます。

そこで結城紬及び呉服業界全体の需要の底上げにもつながると信じ、今後は結城紬

を様々な場面で着用していただけるような運動を展開していこうと考えています。

新しい着物文化を創り出す

これまでの長い和文化の歴史の中で、着物には様々な決まりごとが生まれ、守られてきました。しかしながら、そうした決まりごと、一定のルールと考え方は保ちつつも、時代によっては、変遷や立場の逆転現象などがしばしば起こり、現在に至っています。

現代における着物の決まりは、着用目的やシーンに応じて、着物の商品属性や生地の種類を限定するイメージのものが多く、着る人にとってはTPOや格式に応じた理解というよりも、制約のように思われがちです。なぜなら、気に入った色柄の着物を自由に選択することさえ、販売する立場の呉服屋などから否定される現状があるからです。

本来、着物の格式の定義は、製造技法や商品の種類によって決められるものではなく、着用目的や着る人の立場にふさわしい

見栄えのものかどうかで決まります。着る人自身をはじめ、周囲の人の目にも素敵だと判断され、心和ませるものとなるなら、それは立派に着物を着る意義を果たすこととなるのではないのでしょうか。

多種多様な商品が開発され、様々な感性で着こなす人々が増えてきた今日、ただ紬だからという理由だけで、礼装には向かない、パーティーにも不向きだという解釈は、今後の呉服業界の衰退をさらに早めることにもなりかねません。

また、着物の作り手は、いかに着やすく着心地がよい製品を作るか、いかに着る人を引き立てることができるかを常に考え、生地のことや色やデザインを生みだします。着物の魅力は、着る人だけでなく、それを眺める周囲の人にも、日本人であることの喜びや感慨を与えるものです。着る機会を増やし、着物市場を拡大するためにも、結城紬を様々な場面で着用していただき、新しい着物文化を共に創り出して行きたいと当グループ研究会は考えます。

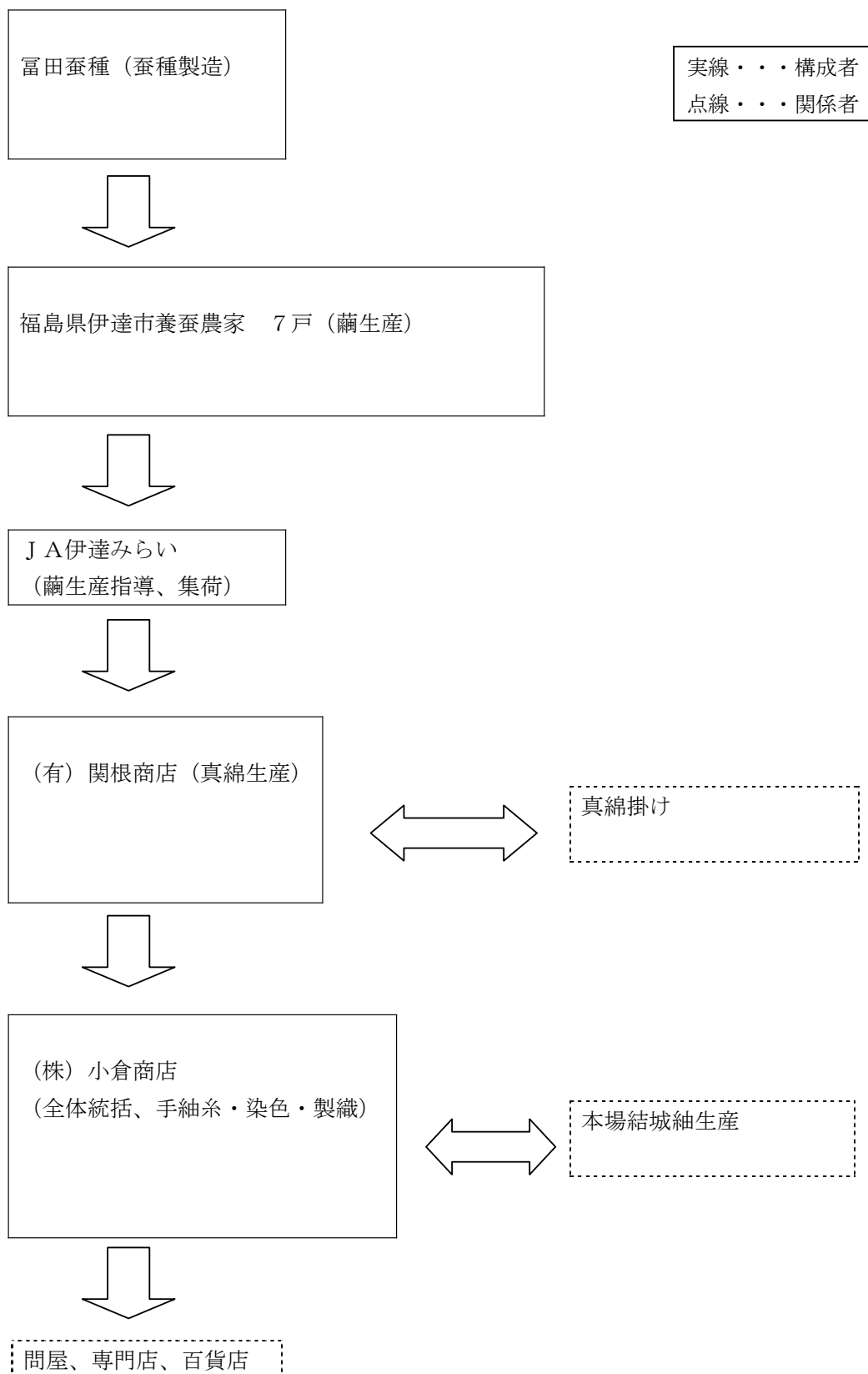
おぐら しんご

結城紬 風土 31 研究会 事務局

純国産結城紬産元 (株)小倉商店

別記

提携システム・結城紬 風土 31 研究会の体系図



純国産絹で極める邦楽器絃の音色

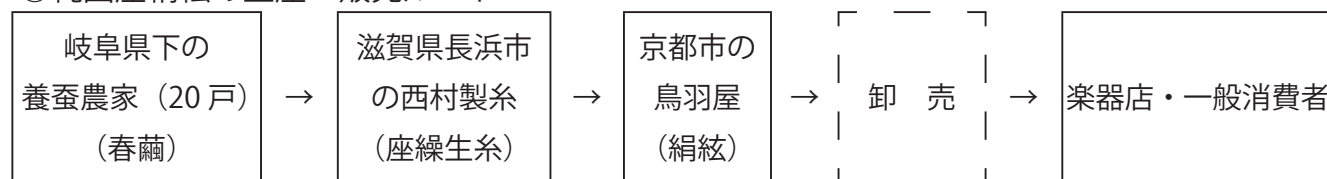
～ 絹糸で奏でる日本人の心 ～

絹で奏でる音世界グループ

代表 小篠 敏之

当グループでは、岐阜県産の^{はるご}春蚕の繭を原料とした絹製品を「養蚕農家」「(財) 岐阜県蚕糸協会」「座繰り製糸」「(株) 鳥羽屋」が、昨年より提携一体となって、楽器店、一般消費者が求める音色の良い純国産絹の邦楽器絃として製造・提案し、全国に販売しております。(下記、生産・販売ルート参照)

○純国産絹絃の生産・販売ルート



製造、販売している絃としての用途は、邦楽器全般にわたっており、特に雅楽器用絹絃は当グループだけが安定供給出来る製品です。従いまして、今回は、これまでどちらかといえは知られる機会が少なく、その存在が見過ごされがちであった多種、多様な邦楽器とこれに使用される絹絃を中心にご紹介いたします。

1. はじめに

グループの全体を総括し、純国産絹絃を製造、販売している鳥羽屋は、京都市上京区、京都御所の西の地で、嘉永2年(1849年)から邦楽器用絃の製造販売をなりわいとしております。明暦年間(1655年～1658年)に、初代小篠長兵衛が、京都伏

見下鳥羽で染物業を始めた頃から数えて、六代目の時でした。そして現在、この分野の唯一人の国の無形文化財選定保存技術保持者である九代目の小篠洋之を経て、十代目の筆者に至っております。

製造品目は前述のとおり邦楽器全般で、大きく分類して雅楽絃、古代絃、琵琶絃、



写真1「店の看板」

箏の絃、三絃、三線絃と多岐にわたります。さらに音楽の種目（三味線の長唄、地歌、浄瑠璃など）や流派による違い、また演奏者の方のこだわりにお応えするために微妙に撚り方や伸ばし方を変えた製品をも数えると、種類はゆうに四百を超えることになります。

鳥羽屋ではこれらの邦楽器絃を、箏の絃と三線絃は化学繊維の使用割合が多いものの、それ以外はすべて純国産の絹糸を原料として製造しております。

ここで特徴のある幾つかの絹絃について述べてみます。

2. 雅楽絃 ～いにしへの昔からの絹絃～

まず「雅楽」について簡単にご説明させていただきますと、雅楽とは宮中をはじめ、神社仏閣に伝わる日本古来の音楽や舞のことです。

千年以上の昔に中国大陆や朝鮮半島から伝わった外来音楽や舞が融合して、日本風に変化し整理されたもので、今日まで伝承されています。現在では日本古来の儀式音楽である『神楽』や『東遊』また

『催馬楽』や『朗詠』などの平安時代に作られた歌曲も含まれています。

これらは現在、主に宮内庁式部職楽部（重要無形文化財団体）により伝承されており、その千二百年以上の歴史は現存する合奏音楽としては世界最古と言われ、音楽的、歴史的価値が高く評価されています。

雅楽に使われる楽器には主に、三管といわれる管楽器の笙、篳篥、龍笛、三鼓といわれる打楽器の鞆鼓、鉦鼓、太鼓、そして絃楽器の楽琵琶、楽箏、和琴があります。鳥羽屋では独自の伝統の技術を駆使し、この三種類の絃楽器の絃の全てを純国産絹糸のみを原料として製造しております。



写真2「楽琵琶」



写真3「楽箏」



写真4「和琴」



写真5「絃三種」

ところで、雅楽は日本古来の音楽と申しましたが、結婚式場や学校の授業などで雅楽を初めて聴いたとき、その言葉に何かしらの違和感を感じるのではないのでしょうか？現代日本の邦楽を聴きなれている人の耳には、日本というよりむしろ、大陸的な感じがいたします。けれども目を閉じ、じっくり聴いていると、その聴きなれないはずのメロディーや独特のリズムから、なんとも心地よくそれでいて時々はっとするような衝撃を感じることもあります。そのうち、なぜか懐かしさが心の奥からこみ上

げ、気持ちが穏やかになってゆくのが分かるはずです。勿論、全ての曲を知っているわけではありません。しかし雅楽には、やはり日本人の心の琴線に触れる何かがあるのではないかと確信します。

現在、雅楽の伝承には難しいことが多々あるかも知れませんが、鳥羽屋は雅楽弦を製造している日本で唯一のメーカーとして、脈々と受け継がれた伝統の技術を守り、造り続けることにより、楽器を演奏する方に、それを聞く方々に感動と満足をお届けすることで、お役に立てればと願っており

ます。そして、日本の心を奏でる雅楽絃には、やはり純国産絹糸が必須であることはいうまでもありません。

3. これからの絹絃

・絹絃に回帰する三線絃^{さんしん}

三線というのは、皆様ご存知のとおり、沖縄の絃楽器ですが、「ハイサイおじさん」、「島唄」、や「涙そうそう」のヒットにより最近幅広く内地でも知られるようになりしました。内地での熱心な演奏者も増えてきたようで、2009年には当時のNHK教育テレビの番組「趣味悠々」で三線が取り上げられたことから、その注目度がよく分かります。

鳥羽屋では、かねてより純国産絹糸を原料とする三線の絃を製造しておりましたが、30数年まえより、ポリエステル製の絃が主流となったため、製造を控えていました。ところが10年位前にご新規の沖縄の業者の方から、是非にとご依頼をいただき、ポリエステル製の絃の製造に踏み切りました。幸いご好評をいただき、沖縄以外の内地の楽器店様などからもご注文をいただくようになり、売り上げも軌道に乗り出した頃、今度は鳥羽屋のwebサイトにある沖縄の演奏家の方からお問い合わせをいただきました。それは「三線には内地の三味線のような絹の絃はありませんか？」という内容で、時を同じくした何件かの同様の問い合わせとご依頼をきっかけに、純国産絹製の絃の製造を再開することになりました。現在、まだまだ普及しているとは

言えませんが、リピート率はほぼ100パーセントと高く、特に沖縄の演奏家の方の間での評判は上々です。しかし、その方々も、三線の絃が以前は絹糸製であったことをご存知なく、申し上げると皆様一様に驚かれます。沖縄の楽器でありながら、沖縄県内で、絃を製造しているメーカーが無いことが影響しているのでしょう。

プロの絃楽器の演奏家の方は、よく、絹糸の絃は「遠音がきく」という言葉を使い、その長所を表現されますが、三線の場合も同様に感じられるようです。丈夫さと手軽さという効率を求め、ポリエステル一辺倒であった時代を経て、昔を知らない方々の間で、今また国内産絹糸製が見直され始めているという流れが、何を意味しているのか。これは三線の持つ、独特の癒しの響きには、やはり国内産絹糸の音色がふさわしいのではと思うに至り、これまでの伝統の技術を生かし、お客様のご意見に耳を傾けながら、今後の更なる改良普及を図りたいと考えております。

・絹絃の関心が高まる七絃琴

琴^{きん}という楽器は古代絃の一つで、古代の中国で誕生しました。その後は現代に至るまで全く変化することなく、伝えられて来たといわれています。現在見られる琴と同一形のものでは、唐代の琴が最も古いものです。絃は七本。一般に見られる、十三絃の箏のような琴柱はなく、左手で絃を押さえ音の高さをかえます。大きさも長さ約120cmと小さく、片手に抱えられるほど



写真6「七絃琴」

の大きさです。ちなみに、一般的な十三絃の箏の長さは約165～175cmです。

源氏物語にもみられるように、平安時代は皇族貴族のたしなみの一つとされており、また江戸中期から幕末にかけて、武士や儒学者の間に広まったようですが、現在の日本ではポピュラーとはいえません。鳥羽屋ではこの七絃琴の絃も、もちろん純国産絹糸を原料として製造しておりますが、日本国内での需要は、かなり限られたものでした。

ところが最近、これもwebサイトに立て続けにアメリカや、香港に住む中国人らしい演奏家の方から、『昔、使っていた本来の絹絃を作っている鳥羽屋というメーカーが日本にあると知り、是非使ってみたい。』という意味の、お問い合わせやご注文をいただくようになりました。中国では七絃琴は日本にくらべると、ポピュラーな楽器ですが、その絃は今や絹絃ではありません。

元々、中国の絃楽器の絃は絹製でしたが、現在、製造されているのは金属絃だけで、全ての絃楽器に金属絃が使われているのが現状です。これまで金属絃の音色を聞いた

経験はないのですが、やはりあの華奢な琴には、金属絃は似合わないのではないかと、感じたことがありましたので、中国の方からのお問い合わせには我が意を得たり、という思いを強くいたしました。

また、最近では、香港や上海の琵琶などの絃楽器の演奏家の方からのお問い合わせや、直接のご来店などもあり、絹絃への関心の高まりを肌で感じ、市場としての中国を意識するようになった次第です。

4. おわりに

以上、純国産絹糸を原料とする絃についてのべてきましたが、私どもが今、注目しているのは、新たな純国産絹需要が見込まれるであろう全く違う2種類の絃との関わりが、どちらもインターネットで始まったという点です。今更ながら、最新のテクノロジーの発達から得られるものの大きさと、意外性に感心し、伝統を守るためにこそ、新しいものを取り入れることの必要性を痛感いたしました。



写真7「三味線の糸色」

そして、このような時期に奇しくも、(財)大日本蚕糸会から、養蚕農家から鳥羽屋のような絁の製造販売業者までの提携グループを作ることのご提案をいただき、安定した供給体制の確立を図ることができましたこと、大変感謝いたしております。正直、今まで知らなかった養蚕農家の方のお名前を一人々確認することや、顔を合わせることも無かった養蚕を指導する岐阜県蚕糸協会の方々と直接お話ができたことによって、互いに新たな責任と協力意識が芽生え、それがより良い製品造りに繋がることは間違いありません。



写真 8 「生繰り座繰絹糸の生産状況」

当グループではこれからも伝統や歴史に甘んじることなく、新しい技術を取り入れ、消費者の方々ご意見、ご要望に耳を傾けながら、純国産絹糸を用いた極上の音色を追求していきたいと思っております。

おわりにあたり、鳥羽屋の九代目が好きでよく引用し、若き日の十代目にも教えてくれている句を記しておきます。

かご 駕籠に乗る人、かつ 担ぐ人
そのまた、わらじ 草鞋を作る人

最後になりましたが、この度の震災で亡くなられたの方々のご冥福と、被災地の一日も早い復興をお祈りいたします。そして、当グループの先陣に立って、これからは、音楽を通じて復興を応援しておられる方々の、よいわらじを作る人、となり、微力ながらお役に立ちたいと考えております。

おざさ としゆき

絹で奏でる音の世界グループ 代表
(株) 鳥羽屋 代表取締役

純長野県産絹製品で活路を目指す

信州繭ブランド織物振興会

代表 清水 武彦

信州繭ブランドのあゆみ

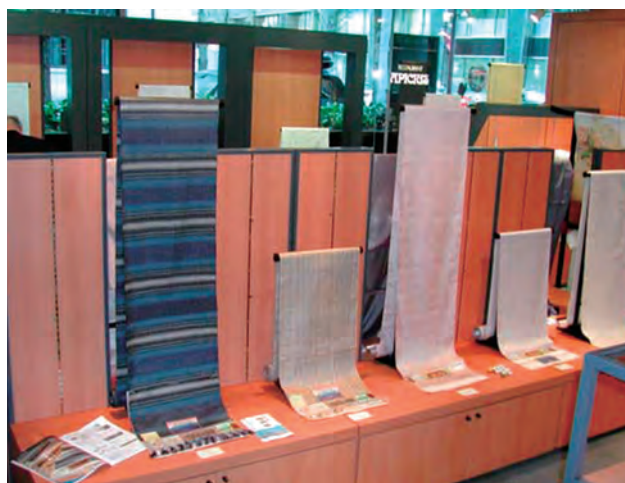
長野県の蚕糸業は古くからの伝統と歴史の中で、蚕種・養蚕・製糸・製織技術について研究や教育、あるいは行政機構などにおいても、他県に誇れるべきものを保持していました。

しかし、日本の蚕糸業の衰退とともに県内の蚕糸業も疲弊して産業としての体をなさないような状況に追い込まれてしまいました。そんな状況を憂いて何とか蚕糸業を生かせることを心から望んでおりました県内の蚕糸業に携わる方々とともに連携し、蚕糸業の活性化、養蚕農家の所得向上、信州繭・絹のイメージアップ、蚕の新たな用途開発等、養蚕から織物までの伝統文化・技術の伝承等に必要なる事業に取り組むことで長野県の蚕糸業の振興や発展を図ることが出来ないかと考え、県の協力を得て、信州繭ブランド・蚕用途開発協議会を立ち上げました。

この会は養蚕の振興を第一として7カ年にわたり現在も活動を行っております。

信州繭ブランド織物振興会は前記の協議会会員の長野市中条地区の養蚕農家と同じ

く会員の県内製糸工場が、信州紬制作織物工場とコラボすることにより、製品開発を行う目的で発会いたしました。当初より多くの展示会への出展、製品開発などの活動してまいりました。



(写真1) ジャパンシルクセンターでの展示会

主な活動は小石丸・黄金繭・黄緑繭など特殊品種の繭生産を行うことでした。また、その繭を県内の(株)宮坂製糸所、松澤製糸所で各製糸の特徴を活かした生糸を生産し、京都市の織物問屋(株)中田勝から提案された信州紬を県内の織物生産者に生産していただきました。

主な商品は小石丸の手織り花織着尺、小石丸後染め白紬、小石丸伊那紬、銀河シル

クによる帯、あけぼののスカーフなどです。これらの多くの商品は現在もリピートで注文をいただき、(株)中田勝を通して消費者へ提供を続けています。



(写真 2) 小石丸後染め白紬



(写真 3) 小石丸天蚕鯉縞紬

提携システムの構築

前述のように長野県においては伝統産業である蚕糸業が細々ではありますが、脈々と継続しております。全国でも数少なくなった蚕種製造から製糸まで生糸を県内の企業で生産が出来る体制が整っております。この流れを最大限利用して伝統産業である信州紬に特色ある生糸を使用した着尺、帯やスカーフなどを県内の蚕糸業者で消費者に提供する事を基本的な考え方で、私共信州繭ブランド織物振興会として昨年(財)大日本蚕糸会へ提携システム構築を申請することを決めました。幸いに同会の支援センターのご指導で認可され、今年の春繭から私共の会は提携システムの一員として2度目のスタートを切り出来ました。



(写真 4) 提携する養蚕農家堀内新也さん(左)と問屋(株)中田勝社長さん(右)

また、長野市中条地区以外の県内繭生産者全員が、農業協同組合、製糸工場、織物業者の協力で、誰一人欠けることなく8グループの提携システムに参加出来ました。県内の養蚕農家が今後も繭生産できる環境作り協力したいと思います。繭や生糸の県

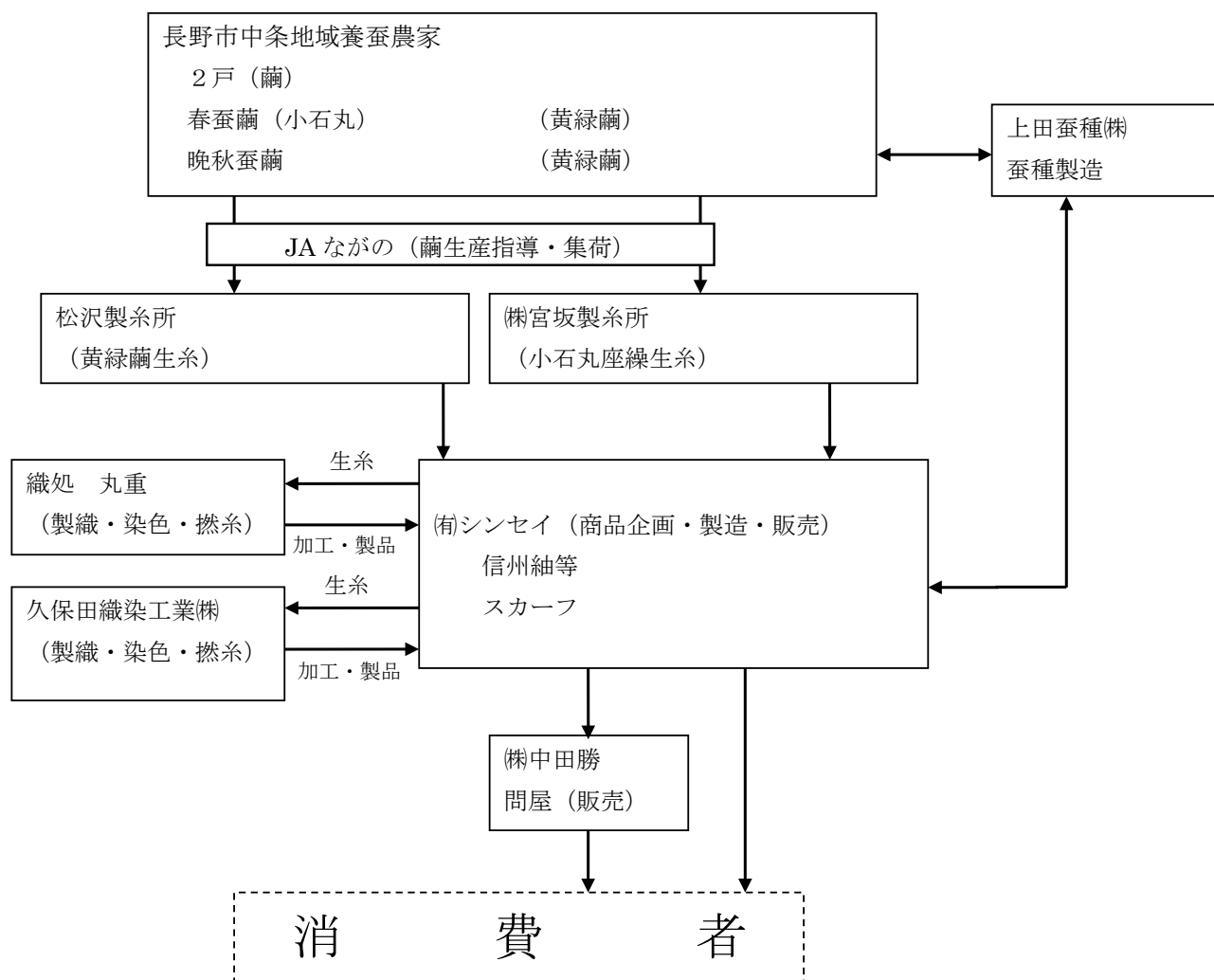
内生産量は、過去の最盛時のころとは比べものにはありませんが、農家の皆さんが喜んで養蚕をする姿、生糸を繰糸する女工さんの姿、機音を聞けることに感動を覚えます。

この感動を長野県から絶やさぬよう、消費者と向き合い蚕糸業に携わる皆が日々努力して、この提携システムが発展継続することを基に活動いたします。（別記体系図参照）



（写真 5）新作紬勉強会の開催

（別記）信州繭ブランド織物振興会の提携システム体系図



今後の課題・目指す方向

原料に関しては今までの伝統に支えられて良い繭や生糸の生産が出来る体制があり心配がないといえます。しかし、川下の消費者に信州紬の特徴や良さが本当に分かっているか疑問符がついています。現在の社会生活の中できものが無くてはならない物ではないという現実を見ると、普段着やおしゃれ着のジャンルの中で信州紬が消費者の支持が得られているのかと言う大問題を抱えております。このことは、私共会員皆が十分分かっていることではありますが、製作者としては自分の商品には自信があり自負もあります。自己満足と言われても致し方ない現状であります。

そんな、井の中の蛙ではいけないと、昨年からは信州紬の一段の前進を目指し外部からデザイナーを招聘して勉強会を行っております。

この勉強会は伝統を生かしながら現代の

生活にマッチした紬とは何かという大問題の解決なしには前進がないという思いで、日々頭を悩ませ、手を動かしたものづくりを行っています。試作品も出来上がりこの秋に向けてプレゼンテーションの方法など前進した話し合いが行われており、近い将来必ずや信州紬がスポットライトを浴びる商品になると確信しております。

まだまだ多くの難しい問題が山積みですが、解決なしには発展ありません。私共の出来る限りの力を出し切り前に進むだけであります。

清々しい信州の風を紬の中に織り込み、新しいデザインを取り入れ、シルクの暖かさを前面に出して年代の垣根を越えた、純長野県産商品を市場に提案することが私どもの会の目指す道ではないかと考えております。

しみず たけひこ

信州繭ブランド織物振興会 代表
(有) シンセイ 代表取締役社長

平成 23 年度第 2 次純国産絹マーク使用許諾状況

社団法人 日本絹業協会

純国産絹マークの平成 23 年度第 2 回審査会を 6 月 30 日（木）に開催しました。今回、9 件（うち、履歴の変更、履歴・数量の追加申請が 1 件、製品・数量の追加申請が 1 件、生産数量の追加申請が 7 件）から申請があり、審査委員会で審査した結果 9 件に対し、7 月 8 日（金）付けで純国産絹マーク使用許諾する旨を通知しました。

今回の純国産絹マーク使用許諾状況は次のとおりです。

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産履歴の変更、生産履歴の追加、生産数量の追加) 株式会社銀座もとじ 代表者名 泉二 弘明 東京都中央区銀座 4-8-12 コチワビル 3 階 (担当者：青江良和) TEL 03-5524-3222 表示者登録番号 0 1 1	結城紬 染織作家作品 (帯地) 白生地 (着尺)	(履歴の変更) 5 反 (履歴の追加) 5 本 (数量の追加) 35 反	蚕品種 プラチナボーイ 繭生産 千葉県、茨城県養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 真綿掛 佐藤米子 糸取り 水野商店 製 織 松本和子、田勇機業（株） 染 織 久保原由佳里
(生産数量の追加) 日本蚕糸絹業開発協同組合 代表者名 小林幸夫 群馬県高崎市問屋町 3-5-3 (担当者：土井芳文) TEL 027-361-2377 表示者登録番号 0 2 1	寝衣（おくるみ）	(数量の追加) 300 枚	制作企画 絹小沢（株） (側) 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 (株)カプト 精練加工 (有) 江島屋染工場 (詰物) 繭生産 福島県内養蚕農家 真綿生産 石川彦太郎商店 縫 製 中里諒子
(生産数量の追加) 株式会社牛島屋 代表者名 武内 保衛 富山県富山市中央通り 1 丁目 6-9 (担当者：武内保衛) TEL 076-420-3450 表示者登録番号 0 8 2	胴裏絹 (酵素精練)	(数量の追加) 300 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発（協） 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 坪金工業（株） 精練加工 (有) 江島屋染工場
(生産数量の追加) 株式会社布屋呉服店 代表者名 小長井 宏員 静岡県富士宮市西町 5 番 21 号 (担当者：小長井宏員) TEL 0544-27-2580 表示者登録番号 1 4 4	胴裏絹 (トルマリン加工)	(数量の追加) 240 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発（協） 蚕品種 ぐんま 200 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 丸進機業（株） 精練加工 (有) 江島屋染工場

純国産絹マーク使用許諾企業名 (表示責任者名)	表示対象 製品名	表示対象 数量	生産履歴の内容 (提携養蚕農家・企業等)
(生産数量の追加) 装いの道株式会社 代表者名 山中 啓嗣 東京都千代田区麹町4丁目4番1号 (担当者：山中啓嗣) TEL 03-3230-3010 表示者登録番号 070	胴裏絹 (トルリン加工) (新小石丸)	(数量の追加) 300 枚 30 枚	制作企画 日本蚕糸絹業開発(協) 蚕品種 ぐんま 200、春嶺鐘月、 ぐんま 200・新小石丸 繭生産 群馬県内養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 丸進機業(株)、(有)長島織物 精練加工 (有)江島屋染工場
(生産数量の追加) 第一衣料株式会社 代表者名 金子 守隆 東京都中央区日本橋富沢町12番20号 (担当者：金子守隆) TEL 03-3664-3231 表示者登録番号 068	後染反物 (色無地)	(数量の追加) 70 反	繭生産 茨城県南地域養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 製 織 三共織物(株) 染 色 (株)中田勝
(生産数量の追加) 西陣織工業組合 代表者名 渡邊 隆夫 京都市上京区西堀川通元誓願寺上る 堅門前町414 (担当者：碓山俊光) TEL 075-432-6131 表示者登録番号 088	マフラー	(数量の追加) 4000 枚	繭生産 群馬県安中市養蚕農家 福島県川俣町養蚕農家 製 糸 碓氷製糸農協 紬 糸 (有)関根商店 染 色 (有)西山染工場 製 織 自組合
(生産数量の追加) 株式会社西陣まいづる 代表者名 舞鶴 一雄 京都市上京区五辻通大宮西入五辻町39 (担当者：舞鶴一雄) TEL 075-441-0001 表示者登録番号 112	袋帯 (金銀糸5%以上)	(数量の追加) 200 本	制作企画 京都きもの友禅(株) 繭生産 上原高好、木村努 製 糸 碓氷製糸農協 染 色 にしき染色(株) 製 織 自社
(製品の追加、生産履歴の追加、生産数量の追加) 株式会社千總 代表者名 西村 總左衛門 京都市中京区三条通烏丸西入る (担当者：俵 武司) TEL 075-211-2531 表示者登録番号 001	(製品の追加) 後染反物 (喪服・色無地) (喪服・色無地) 後染反物 (振袖) (色無地) 後染反物 (振袖) (訪問着・付下) (振袖)	100 枚 100 枚 (数量の追加) 180 枚 120 枚 400 枚 60 枚 40 枚	繭生産 福島県・山形県養蚕農家 宮城県養蚕農家、岩手県養蚕農家 青森県八戸市養蚕農家 製 糸 松岡(株) 製 織 河藤(株)、小熊機業(有) (株)松浦絹織、加賀グンゼ(株) (株)竹林、美雲織物(株) 染色加工 自社

支援センター活動日誌No. 20 (H23.7.1 ~ H23.8.31)

年月日	活 動 内 容 等
23.7.4	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（栃木県）
23.7.7	蚕糸・絹業提携グループ情報連絡会（東京都有楽町 蚕糸会館）
23.7.14	J A 等向け蚕糸・絹業提携グループ情報連絡会 （東京都有楽町 蚕糸会館）
23.7.20 ~ 23.7.21	蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業説明（長野県）
23.7.26 ~ 22.8.1	第 8 回日本の絹展（日本橋高島屋）
23.7.29	蚕糸・絹業提携システム全国推進協議会（東京都有楽町 糖業会館）
23.8.25	（社）日本絹業協会による純国産絹マーク審査委員会 （東京都有楽町 蚕糸会館）



(23.7.7) 蚕糸・絹業提携グループ情報連絡会を開催



養蚕、製糸の紹介（第 8 回日本の絹展にて）

蚕糸業や絹文化の存続に向けて 「絹の郷^{くに}シンポジウム」を開催

群馬県農政部蚕糸園芸課

蚕糸係長 岡 喜久男

明治の文豪「徳富蘆花」は、上州紀行の中で群馬の原風景を「機^{はた}の音、製糸の煙、桑の海」と表してるように、群馬県は古くから蚕糸絹業が盛んで、繭・生糸の主要な産地としての地位を築きました。また、日本は、かつて世界有数の生糸輸出国として国際的に大きな役割を果たし、蚕糸業が日本の経済発展に貢献してきたことは衆目の一致するところですが、気がつけば日本の蚕糸業と絹産業は、その存亡が危ぶまれています。

「絹の郷」を標榜する群馬県では、この

国の英知と資本を結集してきた日本の蚕糸業と絹文化の維持存続を図るべく、全国の蚕糸絹業関係者の情報交換や交流の場として「絹の郷シンポジウム」を開催したので、その概要を紹介します。

3回目を迎えた「絹の郷シンポジウム」

これまでの「絹の郷シンポジウム」では、純国産絹製品づくりの促進や蚕糸・絹業提携グループの形成を目的としていました。

3回目を迎えた今回のシンポジウムは、蚕糸業や絹文化を次世代に引き継ぐ意義や



写真1 富岡製糸場を巡る



写真2 熱気あふれるシンポジウム会場



写真3 日本学士院会員石井寛治氏の基調講演

蚕糸絹業界の活性化策を考える契機となることをねらいとして企画したものです。

なお、「絹の郷シンポジウム」は、7月21日（木）に群馬県立日本絹の里での講演会に始まり、次に会場を伊香保温泉に移して情報交換・交流会を開催。22日（金）には、世界遺産登録を目指す富岡製糸場をはじめ、絹産業遺産群を巡るツアーを実施しました。講演会には、県内外からおおよそ110名の方々に参加いただきました。

シンポジウムの冒頭、茂原瑋男群馬県副知事から、群馬デスティネーションキャンペーン（JR6社と連携した大型観光キャンペーン）の紹介があり、「群馬県は、養蚕・製糸・織物まで全てが揃う全国唯一の県であり、日本の伝統ある蚕糸業と絹産業を経済的に成り立つように全国の蚕糸絹業関係者の工夫と協働により絹文化をしっかりと守っていききたい」と歓迎のあいさつがありました。

活性化方策を探る講演会

基調講演を行った日本学士院会員・東京



写真4 （財）大日本蚕糸会高木会頭の特別講演

大学名誉教授の石井寛治氏は、「富岡製糸場を出発点とする近代日本の製糸業は、世界的な絹文化の大衆化を推し進め、新しい消費文化を生み出す決定的な役割を果たした。そうした歴史の遺産と記録を大事に保管するとともに、将来に向けて、新しい絹文化の発展の拠点を作っていくことが我々に求められている」と語られました。

次に、（財）大日本蚕糸会会頭理事の高木賢氏、西陣織会館副館長の松本里花氏、群馬県農政部蚕糸園芸課絹主監の狩野寿作により特別講演が行われました。

高木会頭理事からは、「蚕糸・絹業提携支援対策事業も折返し地点を迎え、全国で58の提携グループができたが、繭代、品質、安定した生産について、グループの中でしっかり合意しているかどうか重要なポイントとなる。今後の課題は、グループ合意書の着実な実行と純国産絹製品の販売促進であり、大日本蚕糸会ではグループの存続・発展を図るため、きめ細かな応援をしたい」と述べられました。



写真5 西陣産地の活性化を語る松本副館長

松本副館長からは、西陣織の歴史や西陣織会館のPR活動、蚕糸・絹業提携システムの取り組みによる生産履歴が明らかな純国産マフラー制作などが紹介され、「西陣ブランドを高めていくためには、純国産の生糸を使用していくことが必要であると確信しており、提携システムのジャンルを拡げていくことが、西陣が生き残る道であると思っている」と発言されました。



写真6 県蚕糸園芸課の狩野絹主監

狩野絹主監からは、蚕糸業を取り巻く情勢や群馬オリジナル蚕品種の育成など群馬

県蚕糸業の特徴にかかる説明が行われ、「群馬県蚕糸業の活性化方針として、一点目は、自立できる川上・川下提携グループの育成、2点目が遺伝子組換えカイコの実用化推進、3点目が多様な担い手の育成である」とし、蚕糸業の維持存続できるよう指導と支援の要請が行われました。

絹産業遺産群を巡るツアー

シンポジウム2日目、宿泊地である伊香保温泉から富岡製糸場、碓氷峠鉄道遺構、高山社跡を巡るツアーに出発。

各施設とも解説付きで、絹産業遺産の価値について理解を深めていただきました。



写真7 富岡製糸場

富岡製糸場（富岡市）

国史跡・重要文化財。明治5年（1872）、明治政府が設立した官営の器械製糸場。フランス製糸技術を導入し、模範工場として先進的な技術を国内各地に伝播した。近代日本の発祥を記念する遺産として、世界遺産登録の核となる施設。



写真8 碓氷峠鉄道施設

碓氷峠鉄道施設（安中市）

国重要文化財。明治26年に横川・軽井沢間に建設された旧碓氷線の施設。急勾配克服のためアプト式鉄道を採用。レンガ造りの橋梁とトンネルを含む旧路線式、丸山変電所などが残り、遊歩道が整備されている。



写真9 高山社跡

高山社（藤岡市）

国史跡。明治時代、全国標準の養蚕法と言われる「清温育」を創設した高山社（養蚕の教育組織）の発祥地。高山長五郎が清温育を発案した蚕室と江戸期の長屋門などが残る。

蚕糸絹業の持続的発展に向けて

平成20年から開始された蚕糸・絹業提携支援緊急対策事業は、早くも3年が経過しましたが、平成23年3月末には、群馬県内に13の蚕糸・絹業提携グループが立ち上がり、全ての養蚕農家が提携グループの構成員となりました。その一方で、平成22年度で交付金が終了し、提携グループの実質的な自立への第一歩を踏み出すということで、蚕糸業の将来を展望するうえで非常に重要な時期も迎えております。

群馬県では、①蚕糸・絹業提携グループの自立支援、②繭生産基盤の強化、③遺伝子組換えカイコの実用化推進を蚕糸振興の3本柱として施策を実施しています。蚕糸絹業の持続的発展を図るためには、多くの課題もありますが、「富岡製糸場と絹産業遺産群」の世界遺産登録と絡めた活性化や多様な担い手の育成など、新たな施策も展開し、日本の伝統産業である蚕糸絹業をしっかり守っていきたいと考えています。

おか きくお

群馬県農政部蚕糸園芸課 係長

「きもの文化検定」 新たな認定級を設定し実施します

社団法人 全日本きもの振興会

平成 18 年より始まりました「きもの文化検定」は、「きもの」やきものにまつわる「歴史と文化」についての知識の習得を通して、「きもの文化」への理解を深め、もっと「きもの」に親しんでいただくことを目的としています。

検定の実施も本年で 6 回の開催を数えるになり昨年までの受験者の延総数は、約 3 万 4 千名にもなります。ですが「きもの」を取り巻く様々な環境の激変により、第 1 回（平成 18 年）の全国 5 会場で 4・5 級の試験のみで 7,236 人の受験者に対して、全国 16 会場＋学校受験校 8 校で行われた 5～1 級までの昨年（平成 22 年）の受験者数は 4,646 人と減少の傾向であることは現実ではあります。しかし受験者の数は減少しましたが、昨年も受験されている方々は「きもの愛好家」の中でも「真のきもの愛好家」であり、これらの方々の中では一層の定着がなされていると様々な報告が寄せられております。

準 1 級・準 2 級の新たな認定級の設置

ことに、1 級と 2 級の合格率が大変厳しく、1 級では 1 級実施の初年度の平成 21 年度は 3.4 %、2 年度目の平成 22 年度は 6.8 %という難関であり、2 級では平成 22 年度では 44.4 %という結果でした。受験者の皆さんからこの難関に何らかの救済の方法とさらに受験意欲を喚起するための策を考えて欲しいという声が数多く寄せられました。

そこで本会では、これら受験者の皆さん



きもの文化検定受験風景

のご要望に応える具体策をとして、本年より新たな認定級を設定いたしました。

2 級のカテゴリーに於いては、文言選択・記述方式で 90 分の試験時間で 100 問以内の出題にこれまで全回答の 70%以上の正解で合格としていましたが、本年より、これに加えて 60%以上 70%未満の正答者を準 2 級の合格者と認定することとしました。

また、1 級のカテゴリーに於いては、文言（語彙）記述・文章記述方式で 90 分の試験時間で 100 問以内の出題に、これまで全回答の 70%以上の正解で合格としていましたが、本年より、これに加えて 60%以上 70%未満の正答者を準 1 級の合格者と認定することとしました。

「第 6 回きもの文化検定」概要

○「第 6 回きもの文化検定」実施日：平成 23 年 10 月 23 日（日）

○受験申込締切日：平成 23 年 9 月 9 日（金）〔当日消印有効〕

○試験会場：全国 16 都道府県 17 会場

札幌；北翔大学北方圏学術情報センター「ポルト」、仙台；ハーネル仙台、群馬；群馬県職業能力開発協会・技能検定場、東京；昭和女子大学（世田谷区太子堂）・早稲田大学（新宿区大久保）、石川；金沢流通会館、静岡；静岡県産業経済会館、愛知；名古屋女子大学汐路学舎、京都；立命館大学衣笠キャンパス、大阪；関西大学千里山キャンパス、岡山；岡山大学、広島；ホテルチューリッヒ東方 2001、島根；松江商工会議所、香川；サンメッセ香川、福岡；福岡県中小企業振興センター、鹿児島；鹿児島県民交流センター、沖縄；那覇尚学院別館

○ご注意

1 級試験では、受験されている皆さんに、きものにまつわる歴史や文化についての教養を深めていただくため、毎年、文学書から出題しています。本年の課題図書は、講談社文庫「源氏物語巻四」（瀬戸内寂聴訳、講談社刊、¥619（税別）「玉鬘」）です。この形式の問題に対する配点は全体の 5%程度です。

※この書籍は、事務センターでは取り扱っておりませんので、全国の有名書店などでご購入ください。

なお、詳しくは「きもの文化検定事務センター」までお問い合わせください。

電話：075-221-2334（土・日・祝日を除く毎日 9 時から 17 時）

(参考) 皆さんも試してみませんか

模擬試験から

[問題 1] (3 級) 藍染の染料に使われる「菜」の正しい読み方を選びなさい。

(1) きはだ (2) すくも (3) つくし (4) むしろ

[答え 1] (2)

[問題 2] (2 級) ア、イ…に当てはまる文言を下の 1,2…から選びなさい。

「ア」に起源をもつ江戸小紋は、色使いが控えめで渋さや粋さが持ち味で、細かな繰り返し模様の「イ」です。型紙を用いて「ウ」で防染し、現在は「エ」という技法で地色をつけます。

1 : 染料 2 : 武士の袴 3 : 引染め 4 : 糊 5 : しごき 6 : 単色染
7 : 多色染 8 : 町民の小袖 9 : 浸染

「答え 2」 アー 2 イー 6 ウー 4 エー 5



きもの文化検定受験風景

群馬の繭でつくった糸を使って純国産ストールを織る (体験談)

日本絹の里 体験教室

受講生 福島 宣行

「えっ。抽選に当たったの！よかったじゃない。」

抽選に当たることを期待しつつも、半分あきらめていた日本絹の里の体験教室「繭から織物まで」の当選の知らせの葉書が届いたことを妻に告げると、そうやって喜んでくれた。

抽選に当たった知らせも嬉しかったが、体験教室の初日（6月8日）、絹の里を訪れその喜びは更に大きなものとなった。当日、参加して驚かされたことは、体験教室の生徒が6名しかいなかったことである。

「えっ！6名しかいないんですか？」

と訊ねると、日本絹の里から、

「応募は、30人もいたのですが、抽選に当たったのはこの6名だけです。男性は2人の応募があったのですが、当たったのは福島さんだけです。」とのこと。

なんと競争率は5倍という高倍率だったのだ！同じ受講生の小茂田さんは、当日1名キャンセルがあり、当日の朝、当選の知らせがあったとのこと。その話を聞き、『自

分達はなんと幸運なのだろう』と抽選に当たった喜びが何倍にも膨れ上がった。

千葉県成田市の生まれの私は、群馬県に来て32年ほどになるが、それまで実物の蚕や繭をただの一度も見ることがなかった。私が20代後半の時、80代半ばで亡くなった祖母は、養蚕も機織りも経験したことのある人だった。祖父も長い間養蚕に従

事し、良い繭をつくと村でも評判の人であつたと聞いていた。幼い時、祖母が、

「わしが死んだら、棺桶の中に蚕を入れてほしいと思っていたけど、この辺じゃあ、蚕なんか飼っている家は1軒もなくなってしまったなあ。」

と嘆いていたことがあつた。

その私が縁あって群馬県の住人となり、その年の5月か6月、生まれて初めて本物の蚕に出会い、小学校4年の子ども達と養蚕のまねごとをすることになった。最初は私も「毛の生えていない毛虫のようで、なんだか気持ちが悪い生き物」という思いを拭い去ることができなかった。しかし、子ども達と一緒に数日世話をしていると、全く平気で触る事ができるようになり、祖母が言っていた『蚕はひんやり冷たく、肌がなめっこくて気持ちいい』という感覚がわかってきた。

その年以來、教員という仕事の関係で、蚕を育てて繭を取ったり、座繰器で糸を挽いたり、手作りの織機で機織りをしたりという経験はあつたが、それはあくまでも機

織りの「部分」であつて、自分が繭から挽いた糸で機織りをするという一連の流れを経験することなく昨年の3月定年退職した。

したがって、今年の4月、我が家に回ってきた町内会の回覧板についていた「日本絹の里」の体験教室「繭から織物まで」のチラシを見た時、

『30年間待っていた素晴らしい企画にやっと出合えた。』

という思いでいっぱいであつた。

5月1日、数名の友人も誘って応募したが、抽選に当たったのは私だけであつた。それだけに抽選に外れてしまった人達の分まで一生懸命話を聞き、作業に専念しなければと思った。また途中からは、絹の里のボランティアに来てくださっている皆様は、この企画にぜひ参加したいという思いがありながら、一般参加者のために応募を辞退してくださったということを知り、幸運を喜びつつ感謝の気持ちでいっぱいになった。



座繰り



座繰による糸



染色

実際に体験教室が始まってみると、毎日が驚きと発見と感動の日々であった。

初日は、上州座繰器を使つての繭からの糸挽きであった。座繰器を使つて繭から糸を挽くという経験は何度かあったが、それで終わりだったので、それほど難しい作業ではなかった。ところが、挽いた糸で機織りをするとなると、糸の太さに常に注意をしなければならないし、糸が切れたら小枠に巻かれている生糸の糸口を見つけて繋がねばならなかった。この日は、50個の繭から出る糸を1本の糸として挽いたが、50本の糸の太さを維持するという仕事は、実に大変な作業であるということがわかった。また、体験教室の中では、日本絹の里の先生方の指導の丁寧さと「辛抱強さ」にも驚かされた。製糸についての深い知識・理解と職務に対する強い責任感なくしては我々のような素人をとても指導できるものではないと感じた。とりわけ糸口がわからなくなった時や糸が絡まってしまった時は、先生方の手助けと励ましがなければ、ストールを完成させることはできなかったのではないかと思う。また、手織りに入る



染色された緯糸

までの6日間の作業では、易しい言葉で素人にもわかりやすく、時には手をそえて、繰り返しできるようになるまで指導してくださった。

体験教室の様々な段階で犯す私達の失敗や不十分さをそのつど修正・カバーして下さったのも先生方を初め、ボランティアの皆さんであった。また聞くとところによれば、私たちが帰った後も糸張りをして下さったり、糸がよく乾くように面倒を見て下さったりしたとのこと。

ちなみに今回の体験料は8,000円であった（その内訳は材料費5,000円、体験費3,000円）が、この体験料はあまりに安すぎるということを初日の体験学習を行なうだけで理解することができた。（民間の織物教室は、1日10,000円が相場である）



簡易手織り機による製織



製織中の布



房作り



織り上りストール

今回の企画は、「日本絹の里」の歴史の中でも初めての企画とのことで、館長さん初め、職員の皆様の励ましや群馬テレビの取材等もあり、参加者にとっては、感動を与えてくれる純国産ものづくりである体験教室の一日一日が「黄金の日々」であった。

このような企画は、職員の皆様やボランティアの皆様にとって大きな負担となることを承知しておりますが、応募しても抽選に外れてしまった皆様や応募を辞退してくださったボランティアの皆様のためにも、来年度以降も是非続けてくださることを希

望する次第です。最後に、今回の体験教室のように、「日本絹の里」ならではの素晴らしい企画を立ててくださった、村上毅館長さんをはじめ、スタッフの皆様方、また、日本絹の里のボランティアの皆様方には、受講生一同心よりお礼申し上げます。

ふくしま のぶつら

日本絹の里 体験教室 受講生

国内産地情報

絹織物産地の概況（7月）

夏場の不需要期に入り、各織物産地とも苦戦している

<原糸>

原料手当は、中国生糸が7月に入って上げ止まり感が強く、加えて為替の円高により、原料価格は安値気配になっている。ただ日本向け高級品は、中国に在庫がなく、品質も厳しいため、大きな下落にはならないと思われる。各産地では不需要期のため、慎重な対応になっている。在庫は適正な状態である。

<白生地>

- ・丹後の7月の縮緬生産は、前年比99%となり不需要期の中では健闘している。稼動日数は21日で、前年と同日数である。
- ・長浜の生産は、前年比73%で、今年度一番の落ち込みとなった。稼動日数は16日で前年より1日少なかった。
- ・五泉は、生産反数が28.5%の大幅な減産となった。全体に荷動きが悪い。
- ・福島は、羽二重は受注減少に伴い、生産量、操業度共に落ちている。
- ・石川は、玉糸の手織り織物がパリコレクションに採用され話題となっている。
- ・福井は、小幅羽二重が輸入品から国産品へシフトして来ている。
- ・群馬・埼玉は、群馬は昨年実績並み、埼玉は二割程度の減産、高級物の動向が特に悪い。

<先染織物>

- ・西陣の帯は、値頃商品の生産も減産傾向であり各問屋の仕入れも慎重になっている。在庫は増加傾向。
- ・博多は、紋織は袋帯が好調、平織は紗八寸名古屋及び八寸名古屋が好調である。
- ・十日町は、売行きは振袖等が伸び悩んでおり、訪問着と付下げが伸びている。生産量は振袖が伸びており、他は減産となっている。
- ・米沢は、呉服の受注が厳しく、生産調整となっている。輸出物は円高で静かになってしまった。
- ・山梨は、ネクタイは一部に多少の動きがあるが全体的には動かない。服地は震災の影響からか売行きは良くない。特に高額なものが売れない。
- ・西陣のネクタイは、クールビズにより夏場の店頭消化が悪く秋物の発注も例年より少なかった。早くも来春物のサンプル取りに移っている。

*（社）日本生糸問屋協会月報 23.8.11 第750号による。

海外シルク情報

中国

本年第一四半期の中国シルク輸出概況

最新中国海関（税関）統計によれば、本年度 1 ～ 3 月累計のシルク商品輸出状況は、総輸出金額 8.48 億ドルで対前年比 20.9% 増を記録し、中国シルク輸出は、当面、高成長が続いている。

この好調の原因は、一昨年後半以来、国内繭・生糸価格が一貫して値上げが継続してきており、このため生糸などの原料糸類と白生地などの未加工織物の輸出価格が、前年より大幅に上昇しているためである。

品目別に主な特徴点についてみると

- ①生糸等の原料糸類の輸出数量 4,096 トン（68,300 俵、対前年比 0.45% 増加）、同輸出額 1.73 億ドル（対前年比 44.5% 増加）で同平均輸出価格 42.23 ドル/kg（対前年比 44.5% 増加）となった。この中の生糸に関しては、輸出数量 1,325 トン（22,100 俵、対前年比 5.7% 増加）、同輸出金額 6,979 万ドル（対前年比 64.7% 増加）で同平均輸出価格 52.67 ドル/kg（対前年比約 60% 増加）となった。なお、日本向け高格生糸の輸出価格は 61 ～ 2 ドルで推移している。
- ②純絹織物の輸出数量 5,226 万メートル（対前年比 8.3% 減少）、同輸出金額 2.37 億ドル（対前年比 24.1% 増加）でその平均輸出単価は 4.53 ドル/メートル（対前年比 35.1% 増）となった。
- ③シルク服装及び製品類の輸出金額は 4.37 億ドルで対前年比 12.1% 増加となった。

中国、第 4 回国際シルクフォーラムを開催

中国は、2006 年に最初に開催して今回で第 4 回目となる国際シルクフォーラムをシルク協会が主催し、杭州市と全国シルク標準化技術委員会が共催、協力して本年 9 月にこれまでと同様杭州市で開催する。具体的には 9 月 23 ～ 24 日、場所はザ・ファースト・ワールドホテルである。

この中国シルクフォーラムは、中国国内及び海外シルク主要国の要人（著名専門家、学者及び企業代表）が一堂に会し、最近の主要国のシルク発展状況の基調講演からスタートし、今回のテーマ「革新」「発展」「増進」をキーワードとする分科会を開催し、世界のシルク産業を取り巻く環境の中での経済・貿易、技術革新、ブランド化の推進及びシルク消費動向等の各国の報告をもとに鋭意討議し情報交換を行うものであり、特に今回は 2009 年に中国自身が I S O（国際標準化機構）に提案した生糸電子計測試験方法（官能検査項目の機械化の

推進)については、国際標準承認に向けての最終段階を迎えており、これの最終案の検討が予定されている。

この他、同時開催中の中国国際シルク博覧会(23～26日開催)の参観と杭州市近郊の大規模シルク企業の工場見学、大型ファッションショー視察等多彩なイベントが組まれている。

約7年前に国際絹業協会(I S A)が解散して以来、グローバルレベルでのシルクに関する民間国際会議は、このシルクフォーラムが唯一のものになっており、世界の繭・生糸の生産量とシルク貿易量の8割以上を占める中国にとっては、世界のシルク産業をリードし、シルク大国からシルク強国へ移行すべく大いに力を入れるところになっており、多くの関係者から注目されている。

＊(社)日本生糸問屋協会月報 23.7.12 第749号及び 23.8.11 第750号 による。

関東大震災の復興取組みと大量の焼失生糸問題

シルク博物館

元部長 小 泉 勝 夫

1 横浜の惨状

1923（大正 12）年 9 月 1 日午前 11 時 58 分、マグニチュード 7.9 という大地震が、神奈川・東京・千葉・埼玉・山梨などの関東甲信地域と静岡県にわたる広い地域に発生し、大きな被害を出しました。

火気を使用している昼時に発生した大地震のために、火災が起こり、死者・行方不明者 10 万 4,000 余人（統計によっては 10 万 5,000 余人）、重軽傷者 5 万 2,000 余人、罹災世帯 69 万 4,000 余戸にのぼる被害を蒙ってしまいました。

横浜市の場合、被害は全市に及びましたが、特に外国商館のあった山下町（現在の

横浜市中区山下町）や官庁、貿易業者の多い関内地区（現在の横浜市中区）は、レンガや石造りの建築物が多かったために、第 1 回目の強震でほとんどが倒壊してしまいました。

道路は大亀裂を生じ、鉄道の軌道は陥没、水道管破裂、橋梁の落下、埠頭や防波堤は破壊してしまいました。

発生した火災は、たちまちのうちに猛火となり、逃げ場を失った人々が多数犠牲になってしまいました。火災は揮発物貯蔵所や商店貯蔵の揮発物に延焼し、爆発や重油の河川から海への流出と移火による船火災により、乗船者の焼死など生き地獄の様相



写真 21 横浜大橋の被害
（出典：神奈川県震災誌から引用）



写真 22 神奈川県庁周辺の被害
（出典：神奈川県震災誌から引用）



写真 23 横浜市内の地割れ
(出典：神奈川県震災誌から引用)



写真 24 鉄道被害（東海道線）
(出典：神奈川県震災誌から引用)

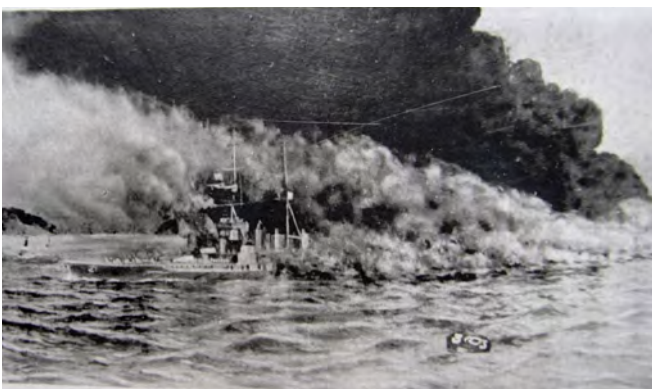


写真 25 横須賀港の海上火災
(出典：神奈川県震災誌から引用)

を呈し、大きな惨事となってしまいました。

政府は震災の翌日 2 日に非常徴発令を発令し、臨時震災事務局官制をひき、内閣総理大臣を総裁として被災者の救済に必要な食糧品、飲料、薪炭・油その他燃料、建築資材と家屋、医薬品や衛生材料、船、車やその他運搬具、電線などの調達を行い、陸軍・海軍などの救援部隊と警察を被災地に送り込み、非常事態の対応を行いました。

2 蚕糸関係の災害復旧に向けての取組

蚕糸業関係もこの震災によって大きな被害を被ってしまいました。

この震災によって横浜の生糸輸出港は破壊され、横浜市内の蚕糸関連施設である倉庫、事務所、関係者の住宅に至るまで、そのほとんどを失ってしまいました。

生糸を輸送する鉄道は、東海道御殿場以東が大破し、中央線・常磐線・東北本線などにも被害がでたため、鉄道に頼っていた地域の生糸輸送は、ストップしてしまいました。横浜は鉄道と道路が破壊されてしまったため、陸路による他の地域との連絡は全くできなくなってしまいました。

灰燼^{かいじん}に帰した横浜を復興させようと蚕糸関係者は、災害から間もない 9 月 7 日横浜公園に集まって、横浜蚕糸貿易振興会を結成し、会長には原富太郎、副会長には渡辺文七、渋沢義一が就任しました。同月 10 日、横浜蚕糸貿易振興会創立総会が開催され、会名を「横浜貿易復興会」と改め、理事長に原富太郎が、理事には渡辺文七、渋沢義一、若尾幾造などが就任し貿易再開に向け

て動きはじめました。

理事長原富太郎らは、翌日から大蔵大臣など政府要人に面会し、横浜復興の要請をするなど精力的に動き出しました。

原らの懇願によって、政府は好意的な協力を約束し、復興資金の調達など復興へ向けての手立てをすすめてくれました。

焼け野原となった横浜にあっては、生糸貿易を行う上で生糸倉庫が必要であり、税関から6万^{こり}梱の収容できる保税倉庫を借用し、ここに横浜貿易復興会の事務所を置き、周囲には問屋輸出商のバラックや荷造り場を臨時に設置し、9月17日から応急的輸出を開始しました。

災害後の生糸輸送については、鉄道省と日本郵船の援助が得られることになり、横浜への生糸輸送が可能になりました。

前橋、高崎以西と甲信地方の生糸は、信越線・中央線で名古屋を経由して清水港に、清水港と横浜の間は鉄道省の貨物船と日本郵船会社の船で輸送を行ってくれました。群馬県新町以東、関東、東北地方の生糸は山手線を経由して東横浜駅（現在のJR桜木町駅近くにあった）に9月21日から輸送されるようになりました。

生糸輸出は、横浜開港以来関東大震災以前までは、主に横浜港1港で行われてきましたが、横浜市の震災の惨状を見た神戸市は、横浜の災害復旧は無理とみて、長い間の願望でもあった神戸港からの生糸輸出を開始することにしました。

神戸で輸出業務を行うには、生糸検査が必要であったので、早速、市立生糸検査所

を設立し、念願の神戸港からの生糸輸出をはじめました。

3 焼失した生糸問題

この震災で横浜市内に保管していた生糸の大部分は、建物の倒壊と火災によって焼失し灰燼に帰してしまいましたが、この焼失量を把握することは簡単ではありませんでした。

それというのも、問屋や輸出商が商略上、生糸数量を秘密にしていたことと、関係帳簿類を焼失してしまいましたので、焼失量を決定するまでに、かなりの時間を要しました。

横浜貿易商組合は12月1日に至って漸く焼失量に近い量を発表しましたが、最終的に決定しました焼失量は、第21表に示したように55,600^{こり}梱余にのぼり、その損害額は6,100万円余になりました。

この大量な焼失生糸の損害負担を、いったい誰が負うのか、簡単には決着がつきませんでした。

焼失した生糸の中では、問屋と銀行による保管中のものが最も多く、全体の約57%を占めておりました。輸出商に買収されなかった焼失生糸は、販売委託をした製糸家と被委託者の問屋の損害でしたが、これを担保に貸し付けた銀行も、巨額の損失を負うことになってしまいました。問屋や銀行の在荷とはいっても、所有権は製糸家であったので、資金力のない製糸家に、全額負担をさせることは到底不可能でした。従って、銀行、問屋、製糸家の3者で負担

第 21 表 関東大震災による横浜市内の生糸焼失量

種 別	焼失量 (梱)	価格 (円)
問屋・銀行に保管中のもの	31,813	34,994,300
輸出商引き込み中のもの	6,548	7,202,800
看貫済みのもの	4,329	4,761,900
輸出商手持ちのもの	11,096	12,205,600
輸送中のもの	1,821	2,003,100
合 計	55,607	61,167,700

出典：「日本蚕糸業史」第 1 巻『生糸貿易史』から作表

をしなければなりませんでした。しかし、利害は相互に反するため、相互の負担割合が大きな問題となりました。特に、輸出商の倉庫にあって焼失した生糸は、売買契約が成立していないため、銀行、問屋、製糸家 3 者の負担割合をどうするか、長い間決着しませんでした。

横浜市内で焼失した生糸の大半は、長野県の製糸家からのものであったので、焼失生糸の善後策は、長野県の製糸家の善後策であったともいわれるほどでした。従って、長野県側の動きも活発で、震災のあった翌月 10 月 12 日、長野市において長野県生糸同業組合の臨時総会を開き、焼失生糸を挙国一致して解決すべきことを決議しました。同月 16 日には長野県生糸同業組合連合会代表が上京して、横浜問屋業者と交渉をはじめました。利害がからむ問題であるだけに、連日のように協議が行われましたが紛糾し、なかなかまとまりませんでした。

協議を重ねた結果、ようやく合意にこぎ

つけることができ、「損害を共同負担する。低利資金を政府に仰ぐ」ということで解決をし、焼失生糸の処理対策が動き始めました。

しかし、この焼失生糸の処理問題は、簡単には解決をみることができず、最終的に妥結をしましたのは、震災から 2 年 9 か月近く過ぎた 1926 (大正 15) 年 5 月のことでした。

この最終調停には、志村源太郎 (蚕糸中央会会長)、牧野忠篤 (大日本蚕糸会会頭)、渋沢栄一が当たりました。

調停内容は、銀行や問屋の保管生糸は製糸家 8 割、問屋 2 割で、輸出商引き込み中のものは製糸家 6 割、問屋 2 割、輸出商 2 割で、輸出成立済みのものは全額輸出商負担ということで関係者の了解を取り付けることができました。

生糸の調停価格は、契約時の価格とは関係なしに、100 斤 (生糸 1 俵) 当たり 2,000 円とし、看貫済みのものは 5 年間に、その他のものは 8 年間に支払うということになりました。

上述の焼失生糸問題とは別に、神奈川県下では、桑園の崩落、養蚕農家の倒壊・半壊、秋蚕の出荷時期であったので、集荷場の倒壊や焼失による出荷繭の汚繭化や焼失、製糸工場の倒壊と火災による原料繭、出荷前の生糸の焼失、蚕種冷蔵庫の倒壊・焼失などにより、大きな損害を蒙ってしまいました。

こいずみ かつお
シルク博物館 元部長

イベント情報

イベント名	企画内容および展示内容	開催期間	場所および主催者
日本絹の里特別展 今に生きる織物産地ー桐生ー	上毛カルタに「桐生は日本の機どころ」と歌われているように、1300年の歴史と伝統に培われた桐生産地の魅力を紹介します。 観覧料: 一般200円(160円)、大高生100円(80円) ()内は20名以上の団体料金 中学生以下及び身体障害者手帳等お持ちの方とその介護者1名様無料	平成23年9月7日(水)～10月17日(月) AM9:30～PM5:00 休館日:毎週火曜日	会場・主催・お問合わせ 群馬県立日本絹の里 〒370-3511 群馬県高崎市金古町888-1 Tel:027-360-6300 Fax:027-360-6301 http://www.nipon-kinuno.sato.or.jp
技と美 日本の絹展 ～経済産業省指定 伝統的工芸品展・群馬県ふるさと伝統工芸品展・群馬の絹展～	絹の美を中心に、群馬、新潟、長野等の伝統的工芸品や群馬のオリジナル絹製品及び群馬県ふるさと伝統工芸品等を一堂に会して展示します。 入場料: 無料(富岡製糸場の見学科別途必要)	平成23年9月16日(金)～18日(日) AM9:00～PM5:00	会場: 富岡製糸場東繭倉庫 主催: 伝統工芸普及協議会、世界遺産劇場実行委員会、群馬県、富岡市等 お問合わせ: 伝統工芸普及協議会((株)SAP内) Tel:03-5226-8537、富岡製糸場 Tel:0274-64-0005
第7回世界遺産大学 「富岡製糸場～ファッションと技術の夢～」	世界遺産候補「富岡製糸場と絹産業遺産群」と絹ファッション及び最先端の技術革新について、各界の第一人者を招き講演会を開催します。 講演: 第一部「絹とファッション」森英恵(ファッションデザイナー) 第二部「未知の夢ー先端技術の苦闘と感動」川口淳一郎(宇宙航空研究開発機構 教授) 会場: 富岡製糸場東繭倉庫 定員: 200人(要事前申込: 9月6日必着) 入場料: 無料 申込先: 往復はがきに必要事項を明記して富岡製糸場へ(〒370-2316富岡市富岡1番地1)	期日: 平成23年9月19日(祝) 開演: 13時(開場12時30分)～15時	主催: 群馬県、富岡市、世界遺産劇場実行委員会、富岡製糸場世界遺産大学等実行委員会、上毛新聞社 お問合わせ: 世界遺産大学等実行委員会 Tel:027-226-2326 富岡製糸場 Tel:0274-64-0005
秋特別展 ー平山郁夫シルクロード美術館コレクションー 「豊穡なる色彩ーウズベキスタンの布と器」	養蚕と絹は中国で発祥し、シルクロードを通して西はアジアやヨーロッパまた東は日本へと伝わり、シルクロードにより東西の様々な文化交流が深まりました。 本展ではシルクロードの要として発展した中央アジアに位置するウズベキスタンの華やかで明るく斬新な染織作品と色彩や模様において多様性を有している伝統ある陶器など平山郁夫シルクロード美術館所蔵作品約50点を展示紹介します。また、平山郁夫画伯のシルクロードへの情熱とその足跡を辿るシルクロードのスケッチ画を併せて紹介します。 入館料: 一般700円(600円)、大高生200円(150円)、65才以上300円(200円)小・中学生100円(50円) ()内は、団体割引(20人以上)の料金	平成23年10月8日(土)～11月6日(日) AM9:00～PM4:30 休館日: 毎週月曜日、但し月曜日が祝日の場合、翌日が休館日	会場・主催・お問合わせ シルク博物館 〒231-0023 神奈川県横浜市中区山下町1番地(シルクセンター2F) (みなとみらい線 日本大通り駅下車3番出口) 後援: ウズベキスタン共和国大使館、神奈川県、横浜市文化観光局、日本絹業協会、東京繊維卸商業組合他
2011丹後きものまつりin天橋立	きもで過ごす秋恒例のイベント(お楽しみ大抽選会、松並木きものパレード、丹後ちりめんファッションショーなど)を開催します。秋の一日をとびっきりのきもの姿でお出かけください。 参加料: 無料 募集人数: 1,200名 応募方法: ハガキ、FAX、インターネット等で実行委員会へ事前申し込みが必要 応募締切: 平成23年10月3日(月)必着	平成23年10月16日(日) (午前10時～午後3時30分)	会場: 日本三景・天橋立周辺(京都府) 主催: 丹後きものまつり実行委員会 構成団体(丹後織物工業組合、京都府、宮津市、宮津商工会議所他) お問い合わせ先: 実行委員会(丹後織物工業組合) Tel:0772-68-5211 fax:0772-68-5300 http://www.tanko.or.jp/

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

純国産絹マーク使用許諾者及び主な絹製品名一覧

平成 23 年 7 月 8 日現在

表示者登録番号	企 業 名	主な絹製品名
1	株式会社 千總	後染反物（訪問着、付下、色無地、振袖、喪服）、胴裏絹
2	株式会社 織匠田歌	先染反物、帯地（染帯）
3	有限会社 ミラノリブ	洋装品（婦人服（トップス、ボトム）、ソックス、ショール、ストール、スカーフ、ネクタイ、ニットタイ、ベスト）
4	株式会社 丸上	後染反物（色無地、小紋、付下、黒紋付）、帯地（後染）
5	株式会社 坂本屋	後染反物（色無地）、胴裏絹（灰汁浸け加工）
6	有限会社 平原	後染反物（色無地、黒紋付）
7	株式会社 信盛堂	後染反物（色無地、黒紋付）
8	株式会社 きものアイ	後染反物（色無地）
9	株式会社 上庵	後染反物（色無地、黒紋付）
10	有限会社 樹	後染反物（色無地、黒紋付）
11	株式会社 銀座もとじ	白生地、後染反物、先染反物（大島紬、結城紬、染織作家製品、御召）、八掛、和装小物（帯締、羽織紐）、帯地
12	河瀬満織物 株式会社	帯地（先染）
13	有限会社 織匠小平	帯地（先染）
14	門倉メリヤス 株式会社	洋装品（紳士靴下、ジャケット、セーター、カーディガン、パンツ、スカート、帽子）
15	株式会社 結華	後染反物（色無地、黒紋付）
16	有限会社 絹回廊	後染反物（色無地）
17	有限会社 琴路屋	後染反物（色無地、黒紋付）
18	有限会社 大善屋呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）、帯地（後染）
19	丸善本店	後染反物（色無地、黒紋付）
20	呉服のささき	後染反物（色無地、黒紋付）
21	日本蚕糸絹業開発協同組合	白生地（世紀 21）、後染反物（作家もの、黒紋付）、胴裏絹（ぐんま羽二重、ぐんまレピア、ぐんま 200（灰汁浸加工、トルマリン加工）、五ツ星（ぐんま 200、よるてび、世紀 21））、長襦袢地、八掛、比翼地、和装小物（襟紗）、裏衣（うぶ着、おくるみ）、帯地（うるし糸 5% 以上）
22	宮階織物 株式会社	先染反物、後染反物
23	21 世紀の絹を考える会	後染反物（色無地、訪問着）、帯地（袋帯（草木染、唐織、先染）
24	碓氷製糸農業協同組合	白生地、洋装品（マフラー）
25	丸幸織物 有限会社	白生地
26	織匠万勝	帯地、先染反物、後染反物
27	有限会社 織道楽塩野屋	洋装品（マフラー、シャツ、ニット（ウォーマー・腹巻、手袋・靴下））
28	株式会社 丸万中尾	後染反物（江戸小紋、色無地、変一越、紋意匠、友禅）、帯地（後染）
29	株式会社 むらかね	後染反物（色無地、黒紋付）
30	株式会社 高島屋	後染反物（振袖、七五三着物、色無地）、長襦袢
31	株式会社 さが美	後染反物（黒紋付（冬用・夏用）、色無地）
32	有限会社 まるけい	後染反物（色無地、黒紋付）
33	有限会社 特選呉服専門店後藤	後染反物（色無地、黒紋付）
34	株式会社 小いけ	後染反物（色無地、黒紋付）
35	株式会社 伊と幸	後染反物（色無地）、白生地（色無地）、胴裏絹、帯地（後染）
36	株式会社 四季のきもの おおにし	後染反物（色無地、黒紋付）帯地（後染）
37	株式会社 和幸	後染反物（色無地、黒紋付）
38	株式会社 栞屋高尾	帯地（袋帯）
39	株式会社 つるや	後染反物（色無地、黒紋付）
40	株式会社 越後屋	後染反物（色無地、黒紋付）
41	株式会社 小倉商店	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）、白生地（結城紬）
42	染織家 柳崇	先染反物、帯地
43	染織家 児玉京子	先染反物
44	草木染工房山村	先染反物、帯地、ストール
45	手織り よおん	先染反物、帯地
46	祝嶺染織研究所	先染反物、帯地
47	株式会社 龍工房	和装小物（組紐）
48	からん工房	先染反物（紋紬、紺）、帯地
49	たわた工房	先染反物、帯地

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
50	山音 株式会社	後染反物（変三越、駒紹）
51	やまと 株式会社	後染反物
52	株式会社 御園織物	先染反物、帯地
53	桜井 株式会社	帯地（先染）
54	有栖川織物 有限会社	帯地（先染）
55	太田和 株式会社	先染反物（結城紬）、帯地（結城紬）
56	株式会社 岩田	帯地（先染）
57	有限会社 神原呉服店	後染反物（色無地、黒紋付）
58	浅山織物 株式会社	帯地（先染）
59	株式会社 やまと	帯地（先染）
60	田中種 株式会社	後染反物（小紋）
61	株式会社 京扇	後染反物（色無地）、胴裏絹（パールトーン加工）
62	株式会社 なごみや	後染反物（色無地、黒紋付）
63	丸池藤井 株式会社	後染反物（色無地）、八掛
64	久保商事 株式会社	和装小物（帯揚げ、半衿）
65	加賀グンゼ 株式会社	胴裏絹
66	千切屋 株式会社	後染反物（訪問着、付下）、帯地
67	荒川 株式会社	和装小物（帯び、帯揚げ）
68	第一衣料 株式会社	後染反物（色無地）
69	株式会社 紅輪	後染反物（色無地）
70	装いの道 株式会社	胴裏絹（トルマリン加工、灰汁浸け加工、ぐんま 200、ぐんまレピア、新小石丸）、 後染反物（本藍染、江戸更紗、京友禅）、白生地、帯地（後染）
71	株式会社 高橋屋	胴裏絹（灰汁浸け加工）
72	おお又 株式会社	胴裏絹（灰汁浸け加工）
73	株式会社 天野屋呉服店	胴裏絹 ぐんま 200（灰汁浸け加工）、白生地
74	株式会社 きもの潮見	胴裏絹（パールトーン加工）
75	株式会社 とみひろ	胴裏絹 ぐんま 200（酵素精練）
76	株式会社 細安	胴裏絹 ぐんま 200（酵素精練）
77	京和きもの 株式会社	胴裏絹 ぐんま 200（酵素精練）
78	株式会社 まるため	胴裏絹（トルマリン加工、パーリー加工）
79	株式会社 小川屋	胴裏絹 ぐんま 200（トルマリン加工、灰汁浸け加工）
80	株式会社 エムラ	胴裏絹（酵素精練）
81	株式会社 荒井呉服店	胴裏絹（酵素精練）
82	株式会社 牛島屋	胴裏絹（酵素精練）
83	株式会社 谷呉服店	胴裏絹（酵素精練）
84	株式会社 登美屋	胴裏絹（パールトーン加工）
85	株式会社 川平屋	胴裏絹（パールトーン加工）
86	丸専第一衣料 株式会社（丸専きもの）	胴裏絹（パールトーン加工）
87	株式会社 大丸松坂屋百貨店	胴裏絹、比翼（振袖用）、長襦袢
88	西陣織工業組合	洋装品（マフラー）
89	株式会社 あきやま	先染反物、洋装品（ショール、マフラー）
90	藤井絞 株式会社	後染反物（色無地）
91	株式会社 川まん	白生地
92	有限会社 結城屋	白生地
93	株式会社 ウメショウ	白生地
94	株式会社 大徳	後染反物（色無地）
95	有限会社 カシワギ	寝具寝装品（冬用・夏用・合用薄絹ふとん、ブランケット）、洋装品（スカーフ、ストール、ネクタイ、シャツ、スーツ）
96	株式会社 北尾織物匠	帯地（袋帯、名古屋帯）
97	株式会社 平田組紐	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）、羽織紐（男物、女物）
98	株式会社 菱健	後染反物（色無地）
99	西野 株式会社	帯締、帯締（金銀糸 5% 以上）
100	京商 株式会社	後染反物（色無地、黒紋付）

表示者登録番号	企業名	主な絹製品名
101	株式会社 猪井	後染反物
102	株式会社 たちばな	後染反物
103	株式会社 丸富美	後染反物（色無地）
104	株式会社 絹もの屋まつなが	後染反物（色無地）
105	株式会社 山正山崎	後染反物（色無地）
106	有限会社 こくぶん呉服店	後染反物（色無地）
107	株式会社 染織近藤	後染反物（色無地）
108	株式会社 宮川呉服店	後染反物（色無地）
109	株式会社 和らいふ	後染反物（色無地）
110	有限会社 きものいなもと	後染反物（色無地）
111	株式会社 世きね	後染反物
112	株式会社 西陣まいづる	帯地（袋帯（金銀糸 5% 以上））
113	奥順 株式会社	先染反物（結城紬）、帯（結城紬）
114	りょうぜん天蚕の会	ショール（天蚕紬糸、天蚕ハイブリット）
115	有限会社 金屋	後染反物（色無地）
116	株式会社 鶴屋百貨店	胴裏絹（酵素精練）
117	黄八丈めゆ工房	先染反物（黄八丈）
118	京屋呉服店	後染反物（色無地）
119	合資会社 車屋呉服店	後染反物（色無地）
120	宮崎 株式会社	結城紬
121	有限会社 内海呉服店きもの千歳屋	白生地
122	長島繊維 株式会社	後染反物（色無地）
123	株式会社 しょう美	後染反物（色無地）
124	合資会社 治田呉服店	後染反物（色無地）
125	株式会社 丸十	後染反物（小紋）
126	株式会社 竹田嘉兵衛商店	胴裏絹（酵素精練）
127	有限会社 樋口屋京染店	白生地（紋意匠）
128	大門屋	白生地（牛首紬）、帯地（牛首紬）
129	株式会社 加藤萬	和装小物（帯揚、半衿）
130	株式会社 しゃらく	後染反物（小紋）
131	合資会社 山中商店	後染反物（小紋）
132	きもの処 あだち	後染反物（小紋）
133	西川産業 株式会社	寝装寝具（掛布団）
134	繭工房 華美	寝衣（長肌着、短肌着）
135	株式会社 青山みとも	胴裏絹（酵素精練）
136	株式会社 和想	後染反物（小紋）
137	株式会社 高島屋呉服店	後染反物（小紋）
138	富岡シルクブランド協議会	和装小物（褌）、洋装品（ネクタイ）
139	株式会社 丸年呉服店	後染反物（小紋）
140	株式会社 染織館	後染反物（小紋）
141	株式会社 京ろまん	後染反物（小紋）
142	五嶋 株式会社	和装小物（帯締）
143	株式会社 わふくや	長襦袢地
144	株式会社 布屋呉服店	胴裏絹（トルマリン加工）、後染反物（小紋）
145	有限会社 明石屋	後染反物（色無地）、帯地（後染）
146	宮井 株式会社	和装小物（風呂敷）
147	株式会社 ナカノ	後染反物（小紋）
148	株式会社 芦田呉服店	後染反物（色無地）

蚕糸関係博物館一覧

名 称	〒	住 所	電 話
蚕糸・織物関連の展示を目的としている施設			
ひころの里「シルク館」	986-0782	宮城県本吉郡南三陸町入谷字桜沢 442	0226-46-4310
米沢織物歴史資料館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 87	0238-22-1325
かわまたおりもの展示館	960-1406	福島県伊達郡川俣町大字鶴沢字東 13 - 1	024-565-4889
群馬県立日本絹の里	370-3511	群馬県高崎市金古町 888 番地の 1	027-360-6300
前橋市蚕糸記念館	371-0036	群馬県前橋市敷島町 262 番地 (敷島公園バラ園内)	027-231-9875
織物参考館 “紫” (ゆかり)	376-0034	群馬県桐生市東 4 丁目 2 番 24 号	0277-45-3111
片倉シルク記念館	360-0815	埼玉県熊谷市本石 2 丁目 135 番地	048-522-4316
きもの芸術館 (財) 日本きもの文化協会	150-0002	東京都渋谷区渋谷 1-6-8 清水学園ビル 6F ~ 8F	03-3400-0286
東京農工大学科学博物館	184-8588	東京都小金井市中町 2-24-16	042-388-7163
文化学園服飾博物館	151-8529	東京都渋谷区代々木 3-22-7	03-3299-2387
絹の道資料館	192-0375	東京都八王子市鎌水 989-2	0426-76-4064
シルク博物館	231-0023	神奈川県横浜市中区山下町 1 番地シルクセンター内	045-641-0841
絹糸紡績資料館	386-0498	長野県上田市上丸子 1078 シナノケンシ (株) 内	0268-41-1800
岡谷蚕糸博物館	394-0028	長野県岡谷市本町 4 丁目 1 番 39 号	0266-22-5854
浦野染織資料博物館	393-0066	長野県諏訪郡下諏訪町曙町 5350	0266-27-8503
常田館 (絹の資料館)	386-0018	長野県上田市常田 1-10-3 笠原工業 (株) 内	0268-22-1230
駒ヶ根シルクミュージアム	399-4321	長野県駒ヶ根市東伊那 482 番地	0265-82-8381
キナーレきもの歴史館	948-0003	新潟県十日町市本町 6 十日町ステージ越後妻有交流館内	0257-52-0117
まゆの資料館	410-3612	静岡県賀茂郡松崎町宮内 263-2	0558-42-3912
石川繊維資料館	400-0886	愛知県豊橋市東小田原町 109-1	0532-52-5265
川島織物セルコン、織物文化館	601-1123	京都府京都市左京区静海市原町 265	075-741-4120
西陣織会館	602-8216	京都府京都市上京区堀川通り今出川南入	075-451-9231
織成館	602-8482	京都府京都市上京区浄福寺通上立売上る大黒町 693 番地	075-431-0020
絹の白生地資料館	604-8176	京都府京都市中京区御池通室町東入る竜池町 448-2 伊と幸ビル	075-254-5884
グンゼ博物館	623-0011	京都府綾部市青野町 グンゼ (株) 周辺敷地内	0773-43-1050
上垣守国養蚕記念館	667-0311	兵庫県養父市大屋町大家市場 117	0796-69-1580
西予市野村シルク博物館	797-1212	愛媛県西予市野村町野村 8 号 177 番地 1	0894-72-3710
蚕糸資料館	781-1301	高知県高岡郡越知町甲 1577 番地	0889-26-1002
展示の一部に蚕糸・織物関連がある施設			
三重中央農協郷土資料館	515-2504	三重県津市一志町高野 1204-1	059-293-0010
佐野市郷土博物館	327-0003	栃木県佐野市大橋町 2047	0283-22-5111
大間々町歴史民俗館	376-0101	群馬県みどり市大間々町大間々 1030	0277-73-4123
羽村市郷土博物館	205-0012	東京都羽村市羽 741	042-558-2561
豊富郷土資料館	400-1513	山梨県中央市大鳥居 1619-1	055-269-3399
日本司法博物館 (松本歴史の里)	390-0852	長野県松本市島立小柴 2196-1	0263-47-4515
長野県立歴史館	387-0007	長野県千曲市大字屋代字清水、科野の里歴史公園内	026-274-2000
須坂市立博物館	382-0028	長野県須坂市臥竜 2 丁目 4 番 1 号臥竜公園内	026-245-0407
上田市丸子郷土博物館	386-0413	長野県上田市東内 2564-1	0268-42-2158
海野宿歴史民俗資料館	389-0518	長野県東御市本海野 1098	0268-64-1000
十日町市博物館	948-0072	新潟県十日町市西本町 1	0257-57-5531
美濃加茂市民ミュージアム	505-0004	岐阜県美濃加茂市蜂屋町上峰屋 3299-1	0574-28-1110
その他関連施設			
原始布・古代織参考館	992-0039	山形県米沢市門東町 1 丁目 1 - 16	0238-22-8141
夕鶴の里資料館	992-0474	山形県南陽市漆山 2025-2	0238-47-5800
松ヶ丘開墾記念館	997-0152	山形県鶴岡市羽黒町松ヶ丘 29	0235-62-3985
結城紬関連施設 (結城市伝統工芸館)	307-0001	茨城県結城市大字結城 3018-1	0296-32-7949
たくみの里木織の家「椽」(つるばみ)	379-1418	群馬県利根郡みなかみ町須川 784	0278-64-1308
おかいこステーション	370-3401	群馬県高崎市倉渕町権田 5344-1235	027-340-6060
調布市郷土博物館	182-0026	東京都調布市小島町 3-26-2	0424-81-7656
相模田名民家資料館	229-1124	神奈川県相模原市田名 4853 番 2 (大杉公園隣り)	042-761-7118
安曇野市天蚕センター	399-8301	長野県安曇野市穂高有明 3618-4	0263-83-3835
上田市立博物館	386-0026	長野県上田市二の丸 3 番 3 号 (上田城跡公園内)	0268-22-1274
塩沢つむぎ記念館 (織の文化館)	949-6408	新潟県南魚沼市塩沢 1227-1	0257-82-4888
手織りの館	947-0028	新潟県小千谷市城内 1-8-25	0258-83-4800
白山工房 (織りの資料館)	920-2501	石川県白山市白峰村又 17	076-259-2859
手おりの里、金剛苑	529-1204	滋賀県愛知郡愛荘町蚊野外 514	0749-37-4131
織元田勇 (田勇機業株式会社)	629-3104	京都府京丹後市網野町浅茂川 112	0772-72-0307
まゆ村	616-8384	京都府京都市右京区嵯峨天龍寺造路町	075-882-0564
シルク染め織り館	699-5216	島根県鹿足郡津和野町池村 1997-4	0856-74-0784

蚕糸関係団体ホームページ一覧

平成 22 年 4 月 22 日現在

【行 政】

農林水産省
経済産業省

<http://www.maff.go.jp>
<http://www.meti.go.jp/>

【蚕糸絹業関係団体】

(財) 大日本蚕糸会
(社) 日本絹業協会 (シヤパ[®]シルクセンター)
(社) 日本生糸問屋協会
(財) 日本真綿協会
丹後織物工業組合
西陣織工業組合
T A F S (東京織物卸商業組合)
K O M S (京都織物卸商業組合)
京都和装産業振興財団
(財) 伝統的工芸品産業振興協会

<http://www.silk.or.jp>
<http://www.silk-center.or.jp>
<http://homepage1.nifty.com/nittonkyo/>
<http://www.mawata.or.jp/>
<http://www.tanko.or.jp/>
<http://www.nishijin.or.jp/>
<http://www.tafts.or.jp/>
<http://www.fashion-kyoto.or.jp/>
<http://www.wasou.or.jp/wasou/index.html>
<http://www.kougei.or.jp/>

【大学・試験研究機関】

(国) 東京大学大学院農学生命科学研究科生産・環境生物学専攻昆虫遺伝研究室

<http://papilio.ab.a.u-tokyo.ac.jp/igb/index-J.html>

(国) 東京農工大学農学部生物生産学科

<http://www.tuat.ac.jp/~aaseisan/>

(国) 東京農工大学工学部生命工学科

<http://www.tuat.ac.jp/~seimei/>

(国) 京都工芸繊維大学工学部応用生物学課程

<http://www.bio.kit.ac.jp/>

(国) 京都工芸繊維大学

<http://www.kit.ac.jp/>

(国) 信州大学繊維学部

<http://www.tex.shinshu-u.ac.jp/>

(国) 名古屋大学農学部

<http://www.agr.nagoya-u.ac.jp>

(国) 北海道大学応用分子生物学講座

http://www.hokudai.ac.jp/agricu/organization/bunya/l_in_bunshi_seibuts.html

(国) 九州大学大学院遺伝育種学講座蚕学研究室

<http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/agpm/sangaku/>

(国) 九州大学大学院遺伝子資源工学専攻

http://www.agr.kyushu-u.ac.jp/grt/igr/new_lab/index.html

(国) 岩手大学農学部生命資源科学コース

<http://www.news7a1.atm.iwate-u.ac.jp/departement/bio/biofunc/index.html>

(国) 山口大学農学部生物資源環境科学科

<http://www.agr.yamaguchi-u.ac.jp/bioenvi/research2.html>

(独) 農業生物資源研究所

<http://www.nias.affrc.go.jp>

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸科学研究所

http://www.silk.or.jp/silk_kagaku/index.html

(財) 大日本蚕糸会 蚕業技術研究所

http://www.silk.or.jp/silk_gijyutu/index.html

群馬県蚕糸技術センター (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>蚕糸技術センター)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=50545

群馬県繊維工業試験場 (群馬県トップページ>産業・労働>試験研究>繊維工業試験場)

http://www.pref.gunma.jp/cts/PortalServlet?DISPLAY_ID=DIRECT&NEXT_DISPLAY_ID=U000004&CONTENTS_ID=59241

京都府織物・機械金属振興センター

<http://www.silk.pref.kyoto.jp/index-sub.html>

京都市産業技術研究所繊維技術センター

<http://www.ktri.city.kyoto.jp/mainpage/sikenjo.html>

【学 会】

日本シルク学会
日本蚕糸学会

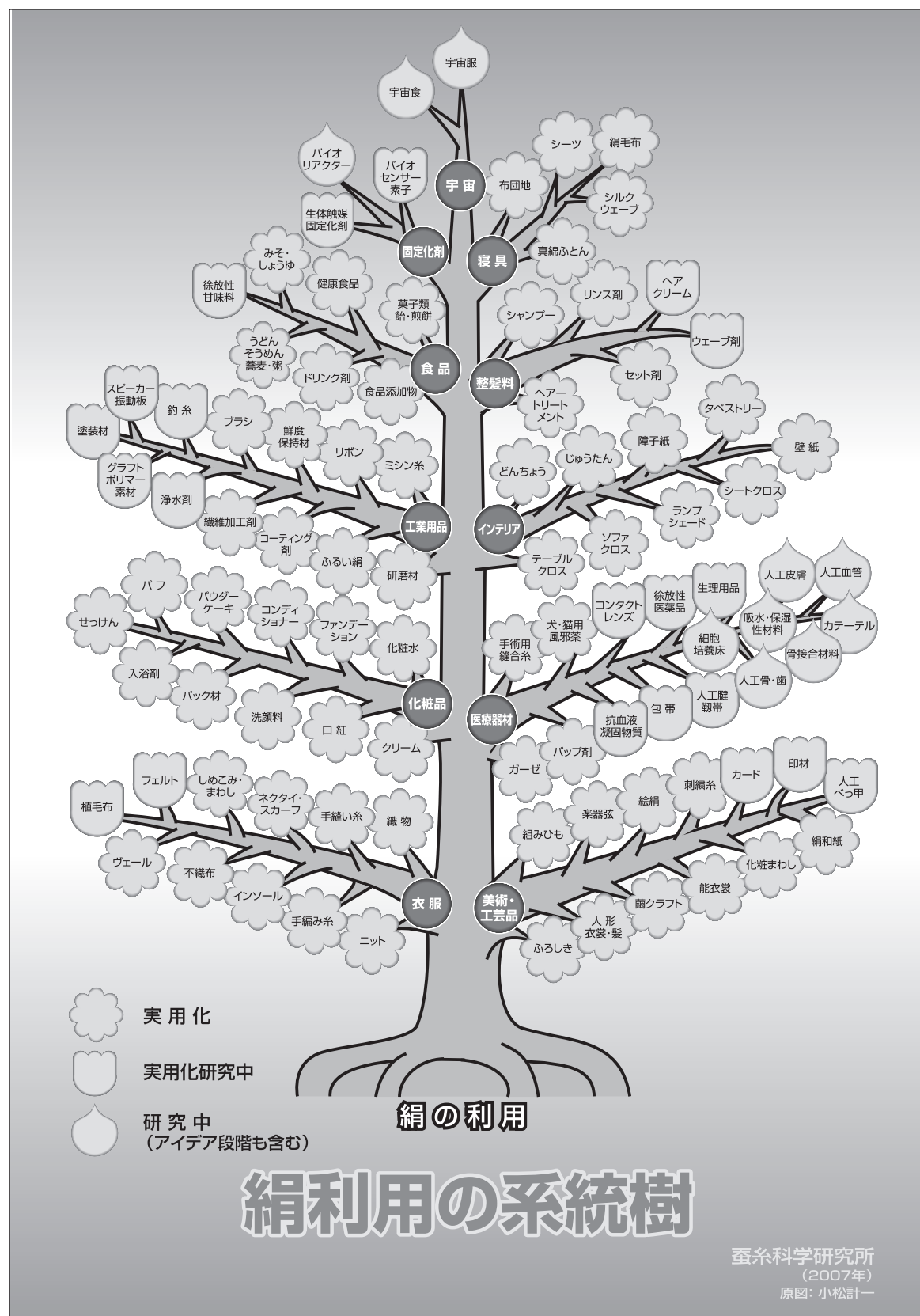
<http://www.silk.or.jp/ssstj/>
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsss2/>

【博物館】

(財) シルクセンター国際貿易観光会館 シルク博物館
群馬県立日本絹の里
東京農工大学科学博物館

<http://www.silkmuseum.or.jp/>
<http://www.nippon-kinunosato.or.jp/>
<http://www.tuat.ac.jp/~museum/index.html>

絹にはこんなにいろいろな使い道があります。



蚕糸科学研究所
(2007年)
原図: 小松計一

統計資料目次

<国内>

(1) 蚕糸絹業の概要	51
(2) 養蚕業の概要	52
(3) 養蚕農家数の推移	53
(4) 収繭量の推移	54
(5) 都府県別養蚕農家数、桑使用面積、収繭量（2008 年）	55
(6) 蚕品種別蚕種製造数量（2008 年）	56
(7) 平成 22 年度蚕期別、都府県別繭生産量	57
(8) 平成 22 年度蚕期別、都府県農家戸数	58
(9) 生糸需給状況及び絹糸、絹織物の輸出入状況	59
(10) 生糸の織度別生産数量の推移	60
(11) 国産生糸価格実態	61
(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）	63
(13) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）	64
(14) 製糸工場の原料繭需給	65
(15) 製糸工場の操業状況	66
(16) 生糸在庫数量の内訳	67
(17) 蚕糸関係品目別輸入状況	68
(18) 生糸原産国別輸入状況	69
(19) 絹糸原産国別輸入状況	70
(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入量と単価	71
(21) 絹織物生産状況	72
(22) 丹後、長浜、西陣の絹織物生産状況	73
(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況	74

<海外>

(1) 世界主要国の家蚕繭生産数量	75
(2) 世界主要国の家蚕生糸生産数量	76
(3) 中国省別家蚕繭生産数量、生糸生産数量、製糸工場数	77
(4) 中国省別家蚕繭生産数量の推移	78
(5) 中国のシルク類（生糸、絹糸、絹織物）の輸出状況	79
(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年比増減率	80
(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及び対前年増減率	81
(8) 中国産業別従業員年平均賃金の推移	82
(9) 中国省別従業員年平均賃金（2009 年）	83
(10) ブラジルの繭、生糸の生産数量の推移	84
(11) ブラジルの繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況	85

-資料・国内-

(1) 蚕糸絹業の概要

Outline of Sericultural, Silk-Reeling, and Silk Fabric Industry in Japan

項目 item 年次 (暦年) Calendar year	養蚕業 Sericultural Industry			製糸業 Silk-Reeling Industry			絹業 Silk Fabric Industry	
	養蚕農家 戸数 Number of Silk- Raising Farmer	収繭量 Cocoon Production	1戸当 収繭量 Cocoon Production per Farmer	生糸 生産量 Raw Silk Production	運転 工場数 Number of Mills	稼働率 Operation ratio	絹人織機 設備台数 (保有台 数) Number of Silk Loom	絹織物 生産量 Silk Fabric Production
	戸 Number	トン t	kg	千俵 1,000 Bale of 60kg	工場 Number	%	千台 1,000	千㎡ 1,000 sq. meters
1992 4年	34,880	15,553	446	84.1	49	75	148.8	72,901
1993 5年	27,180	11,212	412	70.3	45	72	138.1	66,801
1994 6年	19,040	7,724	406	64.5	39	69	102.7	61,653
1995 7年	13,640	5,350	392	53.4	29	63	94.2	54,131
1996 8年	7,890	3,021	383	42.7	26	58	84.7	53,815
1997 9年	6,310	2,516	399	31.5	18	67	81.6	52,031
1998 10年	5,070	1,980	390	18.4	13	76	74.5	38,673
1999 11年	4,030	1,496	371	10.8	8	73	67.4	33,425
2000 12年	3,280	1,244	379	9.3	8	67	62.9	32,275
2001 13年	2,730	1,031	378	7.2	8	63	56.8	29,801
2002 14年	2,360	880	373	6.5	17	68	51.2	26,826
2003 15年	2,070	780	377	4.8	14	64	48.7	23,935
2004 16年	1,850	683	369	4.4	13	62	45.6	21,895
2005 17年	1,591	626	393	2.5	10	62	43.7	19,816
2006 18年	1,345	505	375	2.0	9	82	41.6	18,507
2007 19年	1,169	433	370	1.8	8	83	40.0	15,466
2008 20年	1,021	382	374	1.6	7	80	38.1	14,043
2009 21年	915	327	357	1.2	7	60	33.6	11,472
2010 22年	753	265	352	0.9	7	49	34.9	11,659
前年対比 (%) 2010/09	82.3	81.0	98.6	75.0	100.0	81.7	103.9	101.6

資料 ・平成20年以前の養蚕業及び製糸業は、農林水産省調査によるものである。
 ・平成21年以降の養蚕業は、全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査である。
 ・平成21年以降の製糸業は、中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会調査である。
 ・平成20年以前の絹業は経済産業省調査であり、平成21年以降絹業は(社)日本絹人織機物工業会調査である。
 平成18年以降の絹織物生産量は、絹紡織物を含む。

(注) 製糸業の運転工場数及び稼働率は器械製糸工場の操業状況であるが、平成14年以降はすべての製糸工場のもの
 である。

Source: ・Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (MAFF) (Sericultural and Silk-Reeling, before 2008)
 ・National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The Dainippon Silk Foundation (Sericultural Industry, after 2009)
 ・Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (Silk-Reeling, after 2009)
 ・The Ministry of Economy Trade and Industry (Silk Fabric, before 2008)
 ・Japan Silk & Rayon Weaver's Association (Silk Fabric, after 2009)

Note: The number of operating mills and operation ratio are of machine reeling mills. (After 2002, all reeling mills)

(2) 養蚕業の概要

Outline of Sericultural Industry

項 目 Item	養蚕農家数	桑栽培面積	桑使用面積	蚕種 掃立卵量	1箱当り 収繭量	収繭量	1戸当り 栽培面積	1戸当り 掃立卵量	1戸当り 収繭量
年 次 Year	Farm house- holds raising silk-worm	Growing area of mulberry	Harvested area of mulberry	Silk-worm eggs used	Cocoon production per box of silk-worm eggs used	Cocoon production	Growing area of mulberry per farm household raising silk-worm	Box of silkworm eggs used per farm household raising silk-worm	Cocoon production per farm household raising silk-worm
	戸 number	100ha	100ha	1000箱 1,000cases	kg	t	a	箱 box	kg
1993	27,200	425	239	319	35	11,212	156	12	412
1994	19,000	339	173	228	34	7,724	178	12	406
1995	13,600	263	117	155	35	5,350	193	11	392
1996	7,890	193	66	87	35	3,021	244	11	382
1997	6,310	138	54	74	34	2,516	219	12	399
1998	5,070	103	44	60	33	1,980	203	12	390
1999	4,030	74	33	45	33	1,496	184	11	371
2000	3,280	59	27	37	33	1,244	179	11	379
2001	2,730	48	23	31	34	1,031	174	11	378
2002	2,360	43	22	26	34	880	182	11	373
2003	2,070	38	19	23	33	780	185	11	374
2004	1,850	34	18	21	38	683	186	11	369
2005	1,591	30	16	18	34	626	188	12	396
2006	1,345	27	14	15	34	505	198	11	375
2007	1,169	24	12	13	35	433	202	11	371
2008	1,021	20	10	11	36	382	197	10	374
対前年比 2008/07(%)	87.3	83.3	83.3	84.6	102.9	88.2	97.5	90.9	100.8

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、農林水産省生産局調査（2002年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2002～) .

(3) 養蚕農家数の推移

Farm households raising silk-worm

(単位：戸)
(Unit：number)

年次 Year	項目 Item	年間 Annual total	春蚕 Spring silk-worm	初秋蚕 Early autumn silk-worm	晩秋蚕 Late autumn silk-worm
1993		27,180	24,160	17,450	20,740
1994		19,040	16,790	13,190	14,790
1995		13,640	12,450	9,560	9,580
1996		7,890	6,980	5,000	6,290
1997		6,310	5,650	4,420	5,120
1998		5,070	4,550	3,750	4,120
1999		4,030	3,600	2,710	3,280
2000		3,280	2,970	2,170	2,700
2001		2,730	2,410	1,870	2,270
2002		2,360	1,992	1,720	1,918
2003		2,070	1,875	1,503	1,751
2004		1,850	1,621	1,371	1,551
2005		1,591	1,420	1,061	1,345
2006		1,345	1,215	852	1,102
2007		1,169	1,052	726	988
2008		1,021	929	613	857
対前年比 2008/07 (%)		87.3	88.3	84.4	86.7

資料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source：The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).
National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004).
The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～)。

(4) 収繭量の推移
Cocoon Production

項 目 Item 年 次 Year	年 計 Annual total				1戸当り収繭量 Cocoon production per farm household raising silk-worm				桑使用面積 10a当たり 収繭量（年間）
	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	年 間	春 蚕	初秋蚕	晩秋蚕	Cocoon production per farm harvested area of mulberry
	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	Annual total	Spring silk-worm	early autumn silk-worm	Late autumn silk-worm	
	t	t	t	t	kg	kg	kg	kg	kg/10a
1993	11,212	4,624	3,060	3,529	412	191	175	170	47
1994	7,724	3,036	2,044	2,644	406	181	155	170	46
1995	5,350	2,222	1,477	1,651	392	178	155	172	46
1996	3,021	1,184	747	1,090	382	170	149	173	46
1997	2,516	982	678	857	398	174	153	167	46
1998	1,980	769	588	623	390	169	157	151	45
1999	1,496	596	391	509	371	166	144	155	46
2000	1,244	500	320	424	379	169	148	157	47
2001	1,031	391	275	365	378	162	147	161	47
2002	880	330	231	320	373	166	134	167	40
2003	775	313	210	253	374	167	140	144	40
2004	675	256	176	243	369	158	128	157	38
2005	626	243	165	218	396	171	156	162	40
2006	505	209	122	173	375	172	143	157	36
2007	433	175	110	148	371	166	152	150	37
2008	382	147	96	139	374	158	157	162	39
対前年比 2008/07 (%)	88.2	84.0	87.3	93.9	100.8	95.2	103.3	108.0	105.4
構成比 (%)	100.0	38.5	25.1	36.4					

資 料：農林水産省統計情報部調査（～2001年）、全国農業協同組合連合会調査（2002年～2004年、参考数値）、
農林水産省生産局調査（2005年～）。

Source : The Statistics and Information Department, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2001).

National Federation of Agricultural Co-operative Associations (2002～2004) .

The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (2005～) .

(5) 都府県別養蚕農家数・桑使用面積・収繭量（2008年）

Farm households raising silk-worm, Harvested area of mulberry and Cocoon production by prefectures in 2008

項目 Item 県別 Each Prefecture	年 計			春 繭		初秋繭		晩秋繭	
	Annual total			spring silk-worm		Early autumn silk-worm		late autumn silk-worm	
	養 蚕 農家数	桑使用 面 積	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量	養 蚕 農家数	収繭量
	Farm households raising silk-worm	Harvested area of mulberry	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production	Farm households raising silk-worm	Cocoon production
	number	ha	t	number	t	number	t	number	t
岩 手 Iwate	29	30	11.0	22	2.8	21	4.0	26	4.2
宮 城 Miyagi	39	37	13.0	28	4.6	28	3.8	32	4.5
山 形 Yamagata	15	24	5.6	12	2.2	11	1.3	13	2.2
福 島 Fukushima	104	116	51.3	99	18.1	33	14.2	89	19.1
茨 城 Ibaragi	39	30	14.5	39	5.8	32	3.8	33	5.0
栃 木 Tochigi	50	86	39.4	48	14.8	35	7.4	46	17.2
群 馬 Gunma	417	471	161.2	383	63.2	249	40.9	370	57.2
埼 玉 Saitama	97	75	32.8	93	12.1	74	8.7	83	12.0
千 葉 Chiba	13	6	3.9	12	1.4	6	0.7	10	1.8
神奈川 Kanagawa	12		2.3	11	0.9	9	0.6	12	0.9
山 梨 Yamanashi	34	26	11.7	30	5.6	15	2.3	22	3.8
長 野 Nagano	46	32	13.2	42	5.4	37	3.4	35	4.4
岐 阜 Gifu	28	12	4.4	24	2.1	13	0.5	22	1.7
徳 島 Tokushima	23	10	4.6	22	2.4	13	1.0	16	1.2
愛 媛 Ehime	22	19	7.6	16	2.8	21	2.5	18	2.4
熊 本 Kumamoto	11	4	1.3	11	0.9	6	0.2	7	0.2
その他 Others	42	14	4.0	37	1.6	10	0.7	23	1.3
全国計 Total	1,021	992	381.8	929	146.7	613	96.0	857	139.1

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(6) 蚕品種別蚕種製造数量 (2008年)

Production by Sort of Silk-worm Eggs

	2007年夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		2008春蚕用 for spring rearing		2008夏秋蚕用 for summer & autumn rearing		合 計 Total	
	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate	箱 box	割合 rate
錦 秋 × 鐘 和	2,600	73.5			2,380	67.9	4,980	33.5
春 嶺 1 号 × 鐘 月 1 号			2,390	30.6	360	10.3	2,750	18.5
ぐ ん ま × 200	302	8.5	1,575	20.2	210	6.0	2,087	14.1
錦 秋 1 号 × 鐘 和 1 号			1,910	24.5			1,910	24.5
春 嶺 × 鐘 月			1,100	14.1			1,100	14.1
朝 ・ 日 × つくば・ね			100	1.3	500	14.3	600	4.0
新 小 石 丸	119	3.4	243	3.1			362	2.4
改 良 あ け ぼ の	180	5.1	80	1.0	50	1.4	310	2.1
世 ・ 紀 × 二 ・ 一	108	3.1	99	1.3			207	1.4
上 州 絹 星	101	2.9	101	1.3			202	1.4
ぐ ん ま 黄 金	14	0.4	125	1.6	3	0.1	142	1.0
芙 ・ 蓉 × つくば・ね	100	2.8					100	0.7
蚕 太			41	0.5			41	0.5
新 青 白	11	0.3	23	0.3			34	0.3
小 石 丸			24	0.3			24	0.3
合 計 Total	3,535	23.8	7,811	52.6	3,503	23.6	14,849	100.0

資 料：農林水産省生産局調査。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(7) 平成22年度蚕期別、都府県別繭生産量

Cocoon production by prefectures in 2010.

(全農集計に(財)大日本蚕糸会蚕糸・絹業提携支援センター集計分を加えた数値)

(単位: kg、%) 平成23年1月14日現在

都府県等	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	192.1	0.0	0.0%	153.1	137.4	89.7%	151.1	144.7	95.8%	496.3	282.1	56.8%
岩手県	2,526.0	2,017.6	79.9%	3,305.0	2,783.7	84.2%	3,694.6	3,049.7	82.5%	9,525.6	7,851.0	82.4%
宮城県	3,299.9	2,755.5	83.5%	2,692.3	2,335.9	86.8%	3,757.0	3,046.5	81.1%	9,749.2	8,137.9	83.5%
秋田県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
山形県	2,296.3	1,649.3	71.8%	1,128.3	761.7	67.5%	1,807.6	1,254.4	69.4%	5,232.2	3,665.4	70.1%
福島県	15,188.1	12,488.4	82.2%	14,670.8	11,946.4	81.4%	17,676.8	16,645.2	94.2%	47,535.7	41,080.0	86.4%
茨城県	4,814.0	3,672.0	76.3%	3,541.5	2,653.6	74.9%	4,242.9	3,181.4	75.0%	12,598.4	9,507.0	75.5%
栃木県	12,984.9	12,003.5	92.4%	6,901.5	4,465.3	64.7%	15,963.0	14,350.8	89.9%	35,849.4	30,819.6	86.0%
群馬県	55,127.7	49,138.1	89.1%	34,626.8	23,357.1	67.5%	49,254.0	38,871.7	78.9%	139,008.5	111,366.9	80.1%
埼玉県	9,778.9	9,018.9	92.2%	7,000.2	4,968.6	71.0%	8,475.9	6,903.5	81.4%	25,255.0	20,891.0	82.7%
千葉県	1,347.4	1,263.6	93.8%	976.8	671.7	68.8%	1,390.9	1,310.9	94.2%	3,715.1	3,246.2	87.4%
東京都	539.8	543.1	100.6%	0.0	0.0	—	440.0	342.3	77.8%	979.8	885.4	90.4%
神奈川県	863.9	884.8	102.4%	593.0	584.8	98.6%	735.4	637.9	86.7%	2,192.3	2,107.5	96.1%
山梨県	4,522.1	3,851.7	85.2%	1,824.1	1,170.0	64.1%	2,807.9	2,508.8	89.3%	9,154.1	7,530.5	82.3%
長野県	2,531.4	3,016.2	119.2%	3,116.3	2,212.9	71.0%	2,932.4	2,533.0	86.4%	8,580.1	7,762.1	90.5%
新潟県	0.0	0.0	—	102.3	46.6	—	44.7	51.9	116.1%	147.0	98.5	67.0%
岐阜県	1,978.6	1,351.3	68.3%	391.2	232.8	59.5%	1,170.6	687.4	58.7%	3,540.4	2,271.5	64.2%
静岡県	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—	0.0	0.0	—
愛知県	113.7	120.9	106.3%	0.0	0.0	—	34.9	0.0	—	148.6	120.9	81.4%
兵庫県	92.0	83.5	90.8%	83.6	80.0	95.7%	83.0	66.0	79.5%	258.6	229.5	88.7%
京都府	121.0	102.4	84.6%	74.1	97.5	131.6%	64.6	40.6	62.8%	259.7	240.5	92.6%
徳島県	1,674.6	0.0	0.0%	919.6	0.0	0.0%	1,148.6	0.0	0.0%	3,742.8	0.0	0.0%
愛媛県	2,340.2	2,172.3	92.8%	2,741.0	1,183.1	43.2%	1,937.2	1,671.9	86.3%	7,018.4	5,027.3	71.6%
高知県	344.5	280.4	81.4%	0.0	0.0	—	144.4	128.1	88.7%	488.9	408.5	83.6%
熊本県	817.3	543.4	66.5%	128.3	0.0	0.0%	237.5	271.6	114.4%	1,183.1	815.0	68.9%
宮崎県	165.6	136.6	—	0.0	0.0	—	131.8	62.7	—	297.4	199.3	67.0%
全国計	123,660.0	107,093.5	86.6%	84,969.8	59,689.1	70.2%	118,326.8	97,761.0	82.6%	326,956.6	264,543.6	80.9%

資料:全国農業協同組合連合会及び(財)大日本蚕糸会調査

Source:National Federation of Agricultural Co-operative Associations and The dainippon Silk Foundation

(8) 平成22年度蚕期別、都府県別養蚕農家戸数

Farm households raising silk-worm by prefectures in 2010.

平成22年12月現在、全農調査（単位：戸、％）

都府県名	春 蚕 期			初 秋 蚕 期			晩 秋 蚕 期			年 間		
	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比	21年	22年	前年対比
青森県	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0	1	1	100.0
岩手県	21	15	71.4	23	23	100.0	28	23	82.1	33	27	81.8
秋田県	0	0	—	0	0	—	0	0	—	0	0	—
宮城県	30	21	70.0	23	17	73.9	33	21	63.6	37	28	75.7
山形県	11	10	90.9	10	9	90.0	11	9	81.8	12	11	91.7
福島県	83	71	85.5	72	65	90.3	82	76	92.7	95	83	87.4
茨城県	33	18	54.5	28	20	71.4	24	20	83.3	33	37	112.1
栃木県	43	37	86.0	32	25	78.1	40	38	95.0	47	40	85.1
群馬県	336	288	85.7	290	216	74.5	330	278	84.2	373	310	83.1
埼玉県	72	63	87.5	57	48	84.2	68	59	86.8	79	68	86.1
千葉県	12	10	83.3	9	7	77.8	9	8	88.9	12	11	91.7
東京都	6	6	100.0	0	0	—	7	5	71.4	7	7	100.0
神奈川県	9	9	100.0	10	10	100.0	10	10	100.0	12	12	100.0
新潟県	15	0	—	2	1	50.0	3	1	33.3	15	1	6.7
山梨県	31	24	77.4	14	7	50.0	22	21	95.5	31	27	87.1
長野県	32	28	87.5	26	19	73.1	27	25	92.6	39	31	79.5
岐阜県	25	18	72.0	9	8	88.9	18	17	94.4	27	21	77.8
静岡県	1	0	0.0	1	0	—	1	0	—	1	0	—
愛知県	2	1	50.0	1	0	—	0	0	—	3	1	33.3
兵庫県	1	1	100.0	1	1	100.0	0	1	—	1	1	100.0
島根県	1	0	—	0	0	—	1	0	—	1	0	0.0
徳島県	16	0	—	12	0	0.0	13	0	—	16	0	—
愛媛県	17	17	100.0	19	15	78.9	17	19	111.8	22	19	86.4
高知県	4	4	100.0	0	0	—	3	3	100.0	5	5	100.0
熊本県	10	8	80.0	4	2	50.0	6	4	66.7	10	8	80.0
宮崎県	2	4	200.0	3	0	—	1	2	200.0	3	4	133.3
全国計	814	654	80.3	647	494	76.4	755	641	84.9	915	753	82.3

資料：全国農業協同組合連合会調査

Source: National Federation of Agricultural Co-operative Associations

(9) 生糸需給及び絹糸・絹織物の輸出入状況

Raw Silk Supply / Demand Balance and Import/Export Balance of Silk Yarn and Silk Fabric

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸 Raw Silk					絹 糸 Silk Yarn		絹 織 物 Silk Fabrics	
	生産数量	輸入数量	輸出数量	国内引渡数量	期末在庫数量	輸入数量	輸出数量	輸入数量	輸出数量
	Production (A)	Imports (B)	Exports (C)	Domestic Deliveries (D)	Ending Stocks (E)	Imports (F)	Exports (G)	Imports (H)	Exports (I)
暦 年 Calendar Year	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	俵 Bales of 60kg	1000SM	1000SM
2005	2,508	22,017	4,125	26,429	8,178	32,700	609	15,999	8,252
2006	1,956	19,974	—	20,752	9,356	31,524	568	12,959	7,578
2007	1,747	12,601	—	15,624	7,879	19,439	404	11,355	7,184
2008	1,588	15,031	—	20,115	4,584	22,636	466	11,640	7,126
2009	1,152	12,085	—	13,766	4,055	16,647	388	8,996	6,269
2010	882	12,209	—	13,817	3,329	16,306	324	9,029	6,299
生糸年度 Silk Year									
2004	3,868	20,154	11,500	27,002	7,274	30,204	565	14,130	7,286
2005	2,024	26,365	—	25,737	9,926	36,113	500	16,121	8,655
2006	1,794	13,394	—	16,873	8,241	21,561	534	10,730	7,152
2007	1,762	15,564	—	20,286	5,281	22,936	433	12,255	6,087
2008	1,378	12,137	—	14,638	4,158	18,716	378	10,320	6,806
2009	1,029	12,857	—	14,383	3,661	17,481	366	8,639	6,182
2009 - 12	82	1,771	—	1,526	4,055	1,423	37	715	529
2010 - 1	71	1,061	—	1,239	3,948	1,683	21	781	444
2	78	722	—	930	3,818	1,435	4	563	485
3	87	1,182	—	1,437	3,650	1,051	13	600	618
4	78	612	—	1,111	3,229	1,318	9	710	557
5	77	1,532	—	1,177	3,661	1,192	20	821	511
6	77	919	—	1,115	3,542	1,325	19	745	528
7	76	645	—	1,042	3,221	1,573	54	783	551
8	61	985	—	1,063	3,204	1,303	19	873	482
9	60	1,174	—	1,181	3,257	1,235	32	750	582
10	71	1,070	—	798	3,600	1,254	74	659	555
11	72	1,082	—	1,187	3,567	1,453	36	879	480
12	74	1,223	—	1,535	3,329	1,485	23	836	506
2011 - 1	53	1,448	—	1,521	3,309	1,790	18	976	427
2	69	593	—	823	3,148	982	55	486	559
3	65	1,381	—	1,031	3,563	1,858	15	769	597
4	70	372	—	851	3,154	1,674	15	741	562
5	66	1,280	—	1,501	2,999	1,797	17	910	440

資 料 : (A) (C) (D) (E) 農林水産省生産局調査。(B) 財務省関税局調査、ただし96年1月から08年3月までの輸入は、農畜産業振興機構調査の実需者輸入分と一般者輸入分を合わせた数値。(F) (G) (H) (I) 財務省関税局調査。

備 考 : 1. 国内引渡数量(D) = {前月在庫数量+(A)+(B)} - {(C)+(E)}。

2. kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source : (A) (C) (D) (E) The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries.

(B) The Customs Bureau, Ministry of Finance. But the figures for raw silk imports have been based on date of the Agriculture & Livestock Industries Corporation since Jan. 1996 until Mar. 2008, excluding bonded silk.

(F) (G) (H) (I) The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Domestic deliveries(D) = {Stock at end of the previous month+(A)+(B)} - {(C)+(E)}.

2. Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(10) 生糸の織度別生産数量の推移

Raw Silk Production by Sizes

(単位：60kg俵)

(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	生 糸					
	計	18デニール以下	21デニール	27デニール	31デニール	その他
	Total	17/19or 17/19 finer	20/22	26/28	30/32	Others
暦 年 Calendar Year						
2005	2,508	8	337	834	799	527
2006	1,956	4	240	531	653	523
2007	1,747	5	259	495	514	474
2008	1,588	4	289	421	368	503
2009	1,152	1	243	392	251	262
2010	882	1	179	316	86	300
生糸年度 Silk Year						
2005	2,024	6	261	510	726	518
2006	1,794	4	269	480	562	475
2007	1,762	5	276	443	495	537
2008	1,378	1	291	447	280	360
2009	1,029	0	205	358	208	242
2010 - 4	78	—	31	13	9	25
5	77	—	9	34	9	25
6	77	—	7	36	—	34
7	76	—	11	32	2	31
8	61	—	12	24	1	24
9	60	—	29	9	7	15
10	71	—	12	27	5	27
11	72	1	6	31	—	34
12	74	0	7	24	8	35
2011 - 1	53	—	27	12	4	10
2	69	—	16	23	5	25
3	65	—	18	15	10	22
4	70	—	13	22	7	28
5	66	—	18	18	6	24

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会(2010.4～)。

備 考：kgを60kg俵に換算しているため、各月の計と合計とが一致しない場合がある。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3). Central Raw Silk Association (2010.4～).

Remarks：Monthly volume may not add up the total volume due to round off.

(11) 国産生糸価格実態

Japanese Raw Silk Actual Condition Price

単位：円／k g

(Unit：Yen／k g)

Year & Month \ Size	21d	27d	31d	平均 Average
2005	3,870	3,173	3,107	3,383
2006	4,617	4,267	4,080	4,321
2007	3,961	3,625	3,573	3,720
2008	4,266	3,754	3,489	3,836
2009	4,171	3,598	3,136	3,635
2010	4,152	3,891	3,564	3,864
2009 — 10	4,149	3,450	3,195	3,598
11	4,461	3,547	3,145	3,718
12	3,980	3,581	3,055	3,539
2010 — 1	3,900	3,876	3,643	3,806
2	4,200	3,682	3,281	3,721
3	4,000	3,758	3,327	3,695
4	4,026	3,750	3,100	3,625
5	4,144	3,876	3,314	3,778
6	4,192	3,867	3,729	3,929
7	4,000	3,883	3,600	3,828
8	4,256	3,893	3,814	3,988
9	4,209	3,965	3,625	3,933
10	4,231	4,106	3,833	4,057
11	4,338	4,149	3,942	4,143
12	4,329	4,336	4,002	4,222
2011 — 1	4,267	4,267	4,127	4,220
2	4,763	4,737	5,400	4,967
3	4,800	4,619	4,556	4,658
4	4,942	4,593	4,865	4,800
5	5,188	4,699	4,853	4,913

注：国産生糸価格実態は、調査対象生糸売買業者の平均取引価格である。

資料：（社）日本生糸問屋協会

Remarks：Japan raw silk actual condition price is average trade price among domestic dealers

Source：Japan Raw Silk Dealer's Association

(参考) 中国生糸電子取引値段

China Raw Silk Monthly Prices of Electric Contract Traded

生糸A類(21デニール5A)

Standard Raw Silk:21d 5A

上段単位:元/kg、下段:円/kg
(Upper Sec Unit:Yuan/kg,Lower Sec Unit:Yen/kg)

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
6月中	6月	元	348.84	348.84	348.90	348.90
		円	4,535	4,535	4,536	4,536
	7月	元	349.26	349.26	349.56	349.38
		円	4,540	4,540	4,544	4,542
	8月	元	349.50	349.50	349.80	349.80
		円	4,544	4,544	4,547	4,547
	9月	元	350.16	350.16	350.76	350.76
		円	4,552	4,552	4,560	4,560
	10月	元	349.86	349.86	350.28	350.28
		円	4,548	4,548	4,554	4,554
	11月	元	346.98	346.98	347.40	347.40
		円	4,511	4,511	4,516	4,516
	12月	元	347.70	347.70	347.70	347.70
		円	4,520	4,520	4,520	4,520
	1月	元	346.74	346.74	347.10	347.10
		円	4,508	4,508	4,512	4,512
	3月	元	346.56	346.56	346.98	346.98
		円	4,505	4,505	4,511	4,511
	5月	元	346.32	346.32	346.56	346.56
		円	4,502	4,502	4,505	4,505

	限月 Month	単位	始値 Open	安値 Low	高値 High	終値 Close
7月中	7月	元	350.80	350.80	351.30	351.30
		円	4,560	4,560	4,567	4,567
	8月	元	350.94	350.94	351.06	351.06
		円	4,562	4,562	4,564	4,564
	9月	元	351.78	351.72	351.84	351.78
		円	4,573	4,572	4,574	4,573
	10月	元	351.06	351.00	351.06	351.00
		円	4,564	4,563	4,564	4,563
	11月	元	348.30	348.24	348.36	348.30
		円	4,528	4,527	4,529	4,528
	12月	元	348.06	348.06	348.06	348.06
		円	4,525	4,525	4,525	4,525
	1月	元	347.76	347.76	347.76	347.76
		円	4,521	4,521	4,521	4,521
	3月	元	347.64	347.58	347.70	347.64
		円	4,519	4,519	4,520	4,519
	5月	元	347.16	347.16	347.16	347.16
		円	4,513	4,513	4,513	4,513
	7月	元	347.70	347.70	347.70	347.70
		円	4,520	4,520	4,520	4,520

円換算レートは、1元＝13.00円である。

資料: 中国繭絲綢交易市場(浙江省嘉興)

Remarks: Rate 1Yuan = 13.00Yen

Source: China Silk Exchange (Zhejiang Sheng Jia Xing)

(12) 絹需給の推移（生糸量換算試算）

Silk Supply and Demand Balance (Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)
(Unit: 1,000Bales of 60kg)

項目 Item 曆年 Calendar Year	供給計 Supply Total ①								需要計 Demand Total ②=①-④							期末 在庫
	期初 在庫 Openin g Stocks	生 産 Produ ction	輸 入 Import						輸 出 Export					内 需	Ending Stocks ④	
			計 Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	計 ③ Total	生 糸 Raw Silk	絹 糸 Silk Yarn	織 物 Fabrics	二 次 The Second	Domest ic Demand ②-③			
1990	462	164	95	203	35	16	59	93	290	13	—	0	9	4	277	172
1991	494	172	92	230	46	29	62	93	327	11	0	0	7	4	316	167
1992	460	167	85	208	26	21	60	101	308	11	—	0	7	4	297	152
1993	483	152	71	260	25	38	65	132	345	11	—	0	7	4	334	138
1994	525	138	65	322	26	37	64	195	390	10	—	0	7	3	380	135
1995	515	135	54	326	30	31	61	204	377	11	0	1	8	2	366	138
1996	507	138	43	326	35	49	62	180	374	13	0	0	9	4	361	133
1997	401	133	32	236	34	35	43	124	270	14	0	0	11	3	256	131
1998	345	131	18	196	28	23	28	117	222	13	0	0	11	2	209	123
1999	361	123	11	227	41	28	31	127	242	13	0	0	11	2	229	119
2000	376	119	9	248	39	32	28	149	263	16	0	0	14	2	247	113
2001	350	113	7	230	30	23	25	152	237	17	0	0	15	2	220	113
2002	366	113	7	246	32	28	24	162	261	18	0	0	16	2	243	105
2003	361	105	5	251	31	33	25	162	261	20	2	0	17	1	241	100
2004	353	100	4	249	26	30	25	168	268	30	11	0	18	1	238	85
2005	354	85	3	266	22	33	30	181	270	27	4	1	21	1	243	84
2006	334	84	2	248	20	32	24	172	257	22	0	1	20	1	235	77
2007	293	77	2	214	13	19	21	161	222	21	0	1	18	2	201	71
2008	276	71	2	203	15	23	20	145	213	16	0	0	15	1	197	63
2009	237	63	1	173	12	16	15	130	190	16	0	0	15	1	174	47
2010	225	47	1	177	12	16	16	133	152	16	0	0	15	1	136	43
対前年比 2010/09 (%)	95	75	100	102	100	100	107	102	80	100	—	—	100	100	78	91

資 料：蚕糸業需給・価格動向隔月報・繊維統計月報・日本貿易月報より、農林水産省生産局がとりまとめたものである。

ただし、2000年以降は農林水産省生産局の協力により、(社)日本生糸問屋協会が試算推計したものである。

Source：“Silk balance and price situation monthly”, “Trade Statistics” (arranged by Agricultural Production Bureau, MAFF)

After 2000, estimated by Japan Raw Silk Dealer's Association through collaboration with Agricultural Production Bureau, MAFF.

(13) 品目別・二次製品輸入数量（生糸量換算試算）

Breakdown of Silk Second Products Imports(Raw Silk Value Estimation)

(単位：千俵)

Unit:1,000 Bales of 60kg)

項目 Item		暦年 Calendar Year	2005	2006	2007	2008	2009	2010	前年比% y/y	構成比% ratio
布 は く 製 Product made in cloth	男子用外衣類 Men's upper garments		2.7	3.7	3.9	2.5	1.8	2.8	155.6	2.1
	女子用外衣類 Women's upper garments		59.9	56.6	50.0	40.2	37.1	38.4	103.5	28.9
	うちブラウス Blouse of the inside		3.7	3.5	3.0	3.4	2.8	2.4	85.7	1.8
	男子用下着・寝具衣料 Men's underwear・bedding cloth		5.8	5.7	2.2	1.6	1.1	1.0	90.9	0.8
	女子用下着・寝具衣料 Women's underwear・bedding cloth		16.1	15.1	15.0	16.3	13.5	13.9	103.0	10.5
	ハンカチ Handkerchief		1.9	1.0	0.5	0.5	0.4	0.3	75.0	0.2
	ショール、スカーフ類 Shawl, scarves		3.4	2.7	3.0	2.9	2.5	2.2	88.0	1.7
	ネクタイ類 Ties		25.2	21.4	21.6	20.8	18.2	18.1	99.5	13.6
	メリヤス、クロセス編物 Knit.kurose knitting		19.9	18.5	21.2	19.8	15.9	17.9	112.6	13.5
	その他の洋装類 Other western clothes		26.7	26.3	25.4	23.7	22.0	21.0	95.5	15.8
洋装類計 Western clothes subtotal			161.6	151.0	143.0	128.3	112.4	115.6	102.8	86.9
和装類計 Japanese clothes subtotal			17.4	18.4	15.5	14.7	15.9	14.5	91.2	10.9
	うち絹製の帯小物等 Silk obi accessorys of the inside		14.1	16.0	12.9	12.1	13.9	12.5	89.9	9.4
その他 Others			2.1	2.5	2.5	2.4	1.9	2.9	152.6	2.2
合 計 Total			181.0	171.9	161.0	145.4	130.2	133.0	102.2	100.0

資料：財務省「日本貿易月報」により（社）日本生糸問屋協会で作成したものである。

注）：ラウンドにより合計が一致しないことがある。

Source:The Customs Bureau, Ministry of Finance "Trade Statistics"
(arranged by Raw Silk Dealer's Association)

Note :Total may not added up due to round off.

(14) 製糸工場の原料繭需給

Balance of Cocoons as Raw Materials by Reeling Mills

(単位：生繭. t)

(Unit: Ton by fresh weight)

年 月 Year & Month 項 目 Item	総 計 Grand Total		
	受入数量 Receipts	消費数量 Put in Process	期末在庫数量 Ending Stocks
暦 年 Calendar Year			
2005	866	830	589
2006	600	646	541
2007	548	581	505
2008	393	518	379
2009	308	385	313
2010	241	300	263
生糸年度 Silk Year			
2005	839	673	390
2006	562	599	349
2007	502	583	266
2008	406	452	224
2009	324	337	209
2010	260	281	188
Year Month			
2009 — 8	56	30	292
9	27	32	287
10	9	31	265
11	103	29	340
12	5	26	319
2010 — 1	16	24	312
2	△ 1	26	285
3	△ 1	28	257
4	1	23	235
5	0	26	209
6	54	30	233
7	14	23	224
8	70	19	275
9	0	22	253
10	80	24	309
11	8	24	293
12	1	31	263
2011 — 1	27	17	273
2	5	23	255
3	0	22	233
4	1	24	210
5	0	22	188

資 料：農林水産省生産局調査（～2010. 3）。中央蚕糸協会及び（社）日本生糸問屋協会（2010. 4～）。

備 考：1. 本表は上繭及び玉屑繭の合計である。

2. 受入数量=本月末在庫数量+消費数量-前月末在庫数量。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries (～2010. 3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association (2010. 4～).

Remarks : 1. This table includes reelable, doupion and waste cocoons.

(15) 製糸工場の操業状況

Activities of Reeling Mills

項 目 Item 年 月 Year & Month	運転工場数 Operating Reeling Mills	設 備 数(台) Reeling Machines		運 転 率 (%) Operating Ratio	操業日数 Days Operated	従業者数 Number of Workers	
		運転可能 Operable	運 転 Operating				
暦 年 Calendar Year							
2005	10	203	126	62	269	111	
2006	9	114	94	82	266	103	
2007	8	112	93	83	266	100	
2008	7	112	90	80	266	90	
2009	7	118	71	60	259	82	
2010	7	118	58	49	247	73	
2009 —	5	7	118	77	65	20	80
	6	7	118	77	65	23	83
	7	7	118	72	61	23	83
	8	7	118	75	64	20	82
	9	7	118	77	65	22	82
	10	7	118	77	65	24	82
	11	7	118	74	63	21	81
	12	7	118	71	60	21	82
2010 —	1	7	118	79	67	20	81
	2	7	118	77	65	21	80
	3	7	118	80	68	22	80
	4	7	118	79	67	20	90
	5	7	118	75	64	21	91
	6	7	118	74	63	22	84
	7	7	118	75	64	17	84
	8	7	118	76	64	18	79
	9	7	118	72	61	22	79
	10	7	118	76	64	22	79
	11	7	118	73	62	21	79
	12	7	118	58	49	21	73
2011 —	1	7	118	58	49	20	67
	2	7	118	58	49	21	63
	3	7	118	60	51	23	62
	4	7	118	55	47	21	66
	5	7	110	55	50	20	64

資 料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

備 考：1. 設備数中の運転可能及び運転台数は毎月の算術平均である。

2. 運転率は運転可能台数に対する運転台数の比率である。

3. 従業者数は期末現在の在籍従業員数である。

Source : The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3).
Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～).

Remarks : 1. The number of operable and operating reeling machines is arithmetic means of monthly figures.

2. Operating ratio means ratio of operating machines in operable machines.

3. Number of workers are those on payroll as of end of period.

(16) 生糸在庫数量の内訳

Breakdown of Raw Silk Stocks

(単位：60kg俵)
(Unit: Bales of 60kg)

項目 Item 年月 Year & Month	総計 Grand Total	一般在庫 Stock in markets					農畜産業振興機構 Stock of Agriculture & Livestock Industries Corporation		
		計	製糸工場	生糸市場	生糸市場外	生糸輸出	受入	引渡	在庫数量
		Total	Filatures Mills	Dealers	Domestic Dealers	Ex and Importers	Accepts	Deliveries	Ending Stocks
暦年									
Calendar Year									
2005	8,178	8,178	721	139	7,008	310	22,017	26,142	—
2006	9,356	9,356	446	50	8,606	254	19,974	19,974	—
2007	8,080	8,080	359	20	7,358	343	12,601	12,601	—
2008	4,584	4,584	310	15	3,536	723	1,459	1,459	—
2009	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
生糸年度									
Silk Year									
2005	9,926	9,926	373	170	8,923	460	26,365	26,365	—
2006	8,241	8,241	473	20	7,564	184	13,394	13,394	—
2007	5,281	5,281	305	15	4,241	720			
2008	4,158	4,158	376	15	3,266	515			
2009	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
2010	2,999	2,999	285	0	2,014	700			
2009 — 12	4,055	4,055	355	10	3,162	528			
2010 — 1	3,948	3,948	355	10	2,995	588			
2	3,818	3,818	351	10	2,961	496			
3	3,650	3,650	342	0	2,863	445			
4	3,229	3,229	355	0	2,478	396			
5	3,661	3,661	358	0	2,795	508			
6	3,542	3,542	343	0	2,644	555			
7	3,221	3,221	334	0	2,441	446			
8	3,204	3,204	340	0	2,365	499			
9	3,257	3,257	331	0	2,422	504			
10	3,600	3,600	328	0	2,646	626			
11	3,567	3,567	331	0	2,628	608			
12	3,329	3,329	319	0	2,354	656			
2011 — 1	3,309	3,309	292	0	2,388	629			
2	3,148	3,148	284	0	2,219	645			
3	3,563	3,563	288	0	2,511	764			
4	3,154	3,154	288	0	2,182	684			
5	2,999	2,999	285	0	2,014	700			

資料：農林水産省生産局調査(～2010.3)。中央蚕糸協会及び(社)日本生糸問屋協会(2010.4～)。

Source：The Agricultural Production Bureau, Ministry of Agriculture, Forestry and Fisheries(～2010.3)。

Central Raw Silk Association and Japan Raw Silk Dealer's Association(2010.4～)。

(17) 蚕糸関係品目別輸入状況 (平成18年～23年5月)

Breakdown of Silk-Related Products Imports (2006～May. 2011)

	単位 Unit	平成23年 (2011)		平成22年 (2010)	平成21年 (2009)	平成20年 (2008)	平成19年 (2007)	平成18年 (2006)	22年/21年 2010/09 (%)
		(5月) May	(累計) Accumulated Total						
生糸・玉糸計 Raw Silk and Doupion Silk	俵 Bales of 60kg	1,280	5,074	12,209	12,085	15,242	12,858	21,148	101.0
絹糸 Silk Yarn	俵 Bales of 60kg	1,797	8,101	16,306	16,647	22,636	19,439	31,524	98.0
野蚕糸 Wild Raw Silk	俵 Bales of 60kg	—	—	82	149	317	333	430	55.0
繭 Cocoon	kg	—	2,000	13,158	9,800	4,000	13,750	18,565	134.3
真綿 Floss Silk	kg	—	—	—	—	29,071	28,660	34,176	—
ペニール Peigne	kg	—	—	—	35,331	2,770	6,336	19,760	—
くず繭 Waste Cocoon	kg	1,702	2,404	9,395	33,450	23,770	17,184	1,020	28.1
絹ノイル Silk Noil	kg	—	—	—	—	202,220	242,082	234,894	—
その他の絹 くず Other Silk Waste	kg	8,045	40,438	134,852	103,122	193,125	238,507	255,951	130.8
絹のくず計 Silk Waste Total	kg	9,747	42,842	144,247	171,903	450,956	532,769	545,801	83.9
絹紡糸 Spun silk yarn from silk waste other than noil	kg	35,375	179,070	451,219	335,710	526,662	608,270	756,065	134.4
絹紡細糸 Spun silk yarn from noil silk	kg	15,029	50,432	104,374	97,554	143,585	117,265	208,913	107.0
絹織物 Silk Fabrics	m ²	910,449	3,882,544	9,029,003	8,996,010	11,540,335	11,355,333	12,989,059	100.4

資料：財務省関税局

備考：絹ノイルと真綿の統計は、平成21年1月より廃止された。

Source: The Customs Bureau, Ministry of Finance

(18) 生糸の原産国別輸入数量
Raw Silk Imports

(単位 : 60 k g 俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 Country	計	中国	ブラジル	ベトナム	タイ	その他
年 月 Year & Month	Total	China	Brazil	Vietnam	Thailand	Others
暦年 Calendar Year						
2008	15,242 (137)	11,024 (102)	4,101 (35)	-	117 (-)	-
2009	12,085 (72)	8,169 (51)	3,855 (21)	11 (-)	50 (-)	-
2010	12,209 (65)	8,411 (40)	3,706 (25)	0	77	-
生糸年度 Silk Year						
2008	12,138 (103)	8,572 (89)	3,435 (14)	11	122	-
2009	12,857 (66)	8,787 (38)	3,896 (28)	11	73	-
2010	12,172 (79)	9,062 (65)	3,068 (14)	1	39	-
2009 - 6	800	636	162	-	2	-
7	927	842	79	-	6	-
8	921 (10)	819 (10)	96	-	7	-
9	1,174	890	284	-	-	-
10	1,083 (15)	776 (2)	299 (13)	-	7	-
11	1,060 (16)	500 (16)	553	-	7	-
12	1,771	807	954	-	10	-
2010 - 1	1,061	857	205	-	-	-
2	722	490	229	-	3	-
3	1,182 (5)	639	512 (5)	-	31	-
4	612	449	163	-	-	-
5	1,532 (20)	1,082 (10)	450 (10)	-	-	-
6	919 (4)	681	237 (4)	-	1	-
7	645 (5)	396 (5)	246	-	2	-
8	985 (15)	790 (15)	176	-	19	-
9	1,174	892	282	-	-	-
10	1,070 (16)	670 (10)	400 (6)	-	-	-
11	1,082	843	234	1	5	-
12	1,223	651	572	-	-	-
2011 - 1	1,448 (13)	1,168 (10)	274 (3)	-	6	-
2	593	521	72	-	-	-
3	1,381 (15)	1,052 (10)	321 (5)	-	6	-
4	372	316	56	-	-	-
5	1,280 (11)	1,082 (11)	198	-	-	-

資料 : 財務省関税局調査

備考 : 1. kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

2. () 書きは、玉糸の輸入数量で内数である。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : 1. Country volume may not add up the total volume due to round off.

2. Figures in parenthesis indicate the break down for doupion silk imports.

(19) 絹糸の原産国別輸入数量
Silk Yarn Imports

(単位 : 60kg俵)
(Unit : Bales of 60kg)

国名 年月 Year & Month	計 Total	韓 国 S Korea	中 国 China	ベトナム Vietnam	イタリア Italy	アメリカ USA	ブラジル Brazil	その他 Others
暦 年 Calendar Year								
2008	22,636	30	12,513	6,865	12	—	3,204	12
2009	16,647	—	9,655	5,096	10	—	1,742	144
2010	16,306	—	9,675	4,694	16	—	1,716	205
生糸年度 Silk Year								
2008	18,716	23	10,677	5,700	11	—	2,242	64
2009	17,481	—	9,940	5,065	7	—	1,953	186
2009 — 6	1,363	—	768	489	—	—	106	—
7	1,656	—	1,046	438	—	—	171	—
8	1,646	—	842	664	—	—	140	—
9	1,525	—	911	447	4	—	106	58
10	1,664	—	808	563	0	—	293	—
11	1,525	—	800	604	—	—	120	0
12	1,423	—	1,021	170	—	—	202	30
2010 — 1	1,683	—	1,086	478	—	—	118	1
2	1,435	—	713	491	2	—	230	—
3	1,051	—	506	343	1	—	132	68
4	1,318	—	747	363	—	—	178	29
5	1,192	—	692	342	—	—	157	—
6	1,325	—	889	296	—	—	135	4
7	1,573	—	1,026	352	—	—	144	50
8	1,303	—	784	382	—	—	137	0
9	1,235	—	811	302	—	—	121	1
10	1,254	—	754	366	2	—	132	—
11	1,453	—	790	526	—	—	81	56
12	1,485	—	877	465	1	—	141	1
2011 — 1	1,790	—	1,108	543	—	—	139	—
2	982	—	559	312	—	—	110	—
3	1,858	—	1,244	467	2	—	134	10
4	1,674	—	1,124	448	2	—	99	1
5	1,797	—	1,151	468	1	—	109	68

資 料 : 財務省関税局調査。

備 考 : kgを60kg俵単位に換算してあるので、国別の計と合計が一致しない場合がある。

Source : The Customs Bureau, Ministry of Finance.

Remarks : Country volume may not add up the total volume due to round off.

(20) 生糸・絹糸の主要輸入国からの輸入量と単価

Raw Silk and Silk Yarn Imports in Major Countries

単位：俵, Kg/円

項 目 Item	輸入生糸（通関ベース） Raw Silk Imprt				輸入絹糸（通関ベース） Silk Yarn Import					
	中国 China		ブラジル Brazil		中国 China		ブラジル Brazil		ベトナム Vietnam	
	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price	俵 bales	単価 a unit price
年 月 Year & Month										
暦 年 Calendar Year										
1999	27,446	2,439	14,602	3,026	11,729	2,979	6,069	3,706	2,886	3,277
2000	30,147	2,655	11,772	3,340	13,769	2,789	5,712	3,543	6,255	3,168
2001	22,018	2,824	8,339	3,713	10,303	3,149	5,130	3,790	6,607	3,688
2002	24,521	2,241	7,909	3,192	13,256	2,556	6,097	3,299	7,122	3,053
2003	24,074	1,988	7,260	2,436	17,408	2,182	6,223	2,740	7,167	2,499
2004	18,016	2,435	7,387	3,631	13,280	2,576	7,444	3,038	7,076	2,624
2005	17,327	2,638	5,308	2,903	18,977	3,105	5,767	3,301	7,550	2,933
2006	14,739	3,736	6,181	4,188	17,019	4,172	5,675	4,543	8,706	3,643
2007	8,793	3,321	3,846	3,778	11,726	3,586	2,930	4,305	4,744	3,972
2008	12,190	3,104	4,153	3,490	12,513	3,361	3,204	3,989	6,865	3,220
2009	8,169	2,740	3,855	3,059	9,655	2,840	1,742	3,611	5,096	3,034
2010	8,411	3,667	3,705	3,773	9,675	3,730	1,706	4,161	4,694	3,411
2010 - 5	1,082	3,540	450	3,693	692	3,717	157	4,170	342	3,424
6	681	3,639	237	3,877	889	3,679	135	4,208	296	3,408
7	396	3,572	246	3,811	1,026	3,729	144	4,221	352	3,468
8	790	3,599	176	3,632	784	3,747	137	4,048	382	3,376
9	892	3,696	282	3,866	811	3,760	121	4,405	302	3,517
10	670	3,834	400	3,620	754	3,928	132	4,317	366	3,507
11	843	3,983	234	3,650	790	3,984	81	4,161	526	3,478
12	651	4,225	572	3,906	877	4,277	141	4,503	465	3,918
2011 - 1	1,168	4,370	274	4,055	1,108	4,372	139	4,519	543	3,901
2	521	4,626	72	4,293	559	4,578	110	4,465	312	3,890
3	1,052	4,729	321	4,196	1,244	4,723	134	4,882	467	4,031
4	316	4,661	56	4,604	1,124	4,846	99	4,972	448	4,260
5	1,082	4,767	198	4,505	1,151	4,946	109	5,022	468	4,040

資 料：財務省調査。通関統計による、単価はC I F 価格である。

Source：The customs Bureau, Ministry of Finance

Remarks：A unit price is CIF price.

(21) 絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics

(単位：1,000㎡)
(Unit: 1,000sq. meters)

品 種 Type of Fabrics 年 月 Year & Month	総 数 Grand Total	絹・絹紡織物 Silk and Spun Silk Fabrics							
		広 巾 織 物 Double Width				小 巾 織 物 Single Width			その他の 後練(後染) Other Piece Dyed Silk Fabrics
		計 Total	羽二重類 Habutae	クレープ類 Crepe	先 練 (先染) Dyed Yarn	計 Total	ちりめん類 Silk crape	先 練 (先染) Dyed Yarn	
暦 年 Calendar Year									
2005	19,816	6,669	2,965	1,903	1,801	10,248	6,930	3,318	2,849
2006	18,507	6,105	2,732	1,727	1,646	9,311	5,966	3,345	3,090
2007	15,466	5,215	2,276	1,547	1,392	7,709	4,671	3,038	2,542
2008	14,043	4,887	2,061	1,419	1,407	6,929	4,263	2,666	2,228
2009	11,472	3,733	1,445	1,205	1,083	6,094	3,966	2,128	1,645
2010	11,659	3,790	1,471	1,224	1,095	6,201	4,034	2,167	1,668
2010 — 5	980	319	124	103	92	521	339	182	140
6	1,103	358	139	116	104	587	382	205	158
7	1,014	330	128	106	95	539	351	188	145
8	901	293	114	95	85	479	312	167	129
9	962	313	121	101	90	511	333	178	138
10	995	323	125	104	93	530	344	186	142
11	1,004	326	127	105	94	534	347	187	144
12	966	314	122	101	91	514	334	180	138
2011 — 1	814	311	196	15	99	347	142	205	156
2	873	333	210	16	106	372	152	219	168
3	902	345	217	16	110	384	157	226	173
4	989	378	238	18	121	421	172	248	190
5	840	321	202	15	102	358	146	211	161

資 料：(社)日本絹人織織物工業会。

備 考：絹紡と交織を含む。単位以下四捨五入。

Source：Japan Silk & Rayon Weaver's Association.

Remarks：Spun and mixed fabrics included.

Fractions of 0.5 and over counted as a whole number and the rest disregarded.

(22) 丹後・長浜・西陣の絹織物生産数量

Production of Silk Fabrics in Tango , Nagahama and Nishijin

項 目 Item 年 月 Year & Month	絹織物生産数量 Silk Fabrics Production		丹 後 Tango (白生地) (White Fabrics)		長 浜 Nagahama (白生地) (White Fabrics)		西 陣 Nishijin (帯) (Sash)	
	数 量 Quantity (千㎡) (1,000㎡)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	生産数量 Production (反) (Roll)	前年(月)比 Ratio to previous year	推定出荷数量 Estimated Shipments (本)	前年(月)比 Ratio to previous year
暦 年 Calendar Year								
2005	19,816	90.3	1,058,571	94.5	170,061	89.8	691,780	88.7
2006	18,507	90.6	912,027	86.2	132,448	77.9	598,040	86.4
2007	15,466	83.6	712,560	78.1	97,204	73.4	977,719	163.5
2008	14,043	90.8	656,919	92.2	82,020	90.9	867,490	88.7
2009	11,472	81.7	503,365	76.6	73,681	83.3	746,538	86.1
2010	11,659	101.6	515,721	102.5	80,701	109.5	859,244	115.1
2008 — 7	1,184	91.4	53,644	86.7	7,548	104.3	84,867	95.5
8	1,028	91.2	46,770	97.9	5,302	87.2	66,629	74.4
9	1,156	86.7	54,846	79.4	7,416	87.8	100,298	142.6
10	1,123	86.9	49,981	85.2	7,817	83.2	62,123	101.9
11	1,127	85.7	53,365	84.4	7,973	97.1	69,923	89.7
12	1,078	83.2	49,096	79.0	5,890	72.7	55,604	82.4
2009 — 1	876	79.5	27,931	71.7	5,428	72.3	70,227	123.9
2	1,033	79.5	48,523	73.7	5,994	82.2	80,196	85.9
3	999	77.9	43,968	67.2	6,664	83.7	70,816	90.2
4	987	82.2	43,957	76.6	6,766	85.0	70,733	95.1
5	935	77.8	39,715	71.2	5,162	80.9	49,997	86.9
6	1,009	79.9	45,800	69.5	6,492	69.4	59,496	103.4
7	958	80.9	40,343	75.2	6,448	85.4	62,673	73.8
8	853	83.0	37,632	80.5	5,642	106.4	42,766	64.2
9	963	83.3	44,281	80.7	6,077	81.9	53,568	53.4
10	944	84.1	40,356	80.7	6,027	77.1	57,802	93.0
11	978	86.8	47,618	89.2	6,920	86.8	66,104	94.5
12	937	86.9	43,241	88.1	6,061	102.9	61,841	111.2
2010 — 1	834	95.2	31,911	114.2	5,989	110.3	64,521	91.9
2	939	90.9	46,194	95.2	6,366	106.2	68,288	85.2
3	965	96.6	43,859	99.8	7,813	117.2	75,704	106.9
4	997	101.0	44,458	101.1	7,506	110.9	86,802	122.7
5	981	104.9	42,508	107.0	6,642	128.7	70,454	140.9
6	1,103	109.3	44,160	96.4	7,316	112.7	72,395	121.7
7	1,014	105.8	44,163	109.5	7,146	110.8	63,858	101.9
8	901	105.6	39,856	105.9	7,022	124.4	60,415	141.3
9	962	99.9	41,925	94.7	6,925	114.0	64,965	121.3
10	995	105.4	46,366	114.9	5,807	96.3	78,060	135.0
11	1,004	102.7	45,283	95.1	6,553	94.7	68,940	104.3
12	966	103.1	45,018	104.1	5,616	92.7	68,067	110.1
2011 — 1	814	97.6	32,734	102.6	5,452	91.0	61,923	96.0
2	873	93.0	42,369	91.7	5,799	91.1	60,552	88.7
3	902	93.5	41,784	95.3	6,688	85.6	56,128	74.1
4	989	99.2	44,774	100.7	6,276	83.6	59,998	69.1
5	840	85.6	39,714	93.4	5,933	89.3	62,260	88.4
6			41,785	94.6	5,797	79.2		
7			43,509	98.5	5,211	74.2		

資 料：絹織物生産数量は(社)日本絹人織織物工業会調査。主要3産地の生産量、出荷数量は社団法人日本生糸問屋協会調査。

備 考：2006年1月以降の西陣の帯生産数量には、帯裏地等を含む。

Source : Japan Silk & Rayon Weaver's Association and Japan Raw Silk Dealer's Association.

Remarks : Since Jan. 2006, sash livings are included in sash production.

(23) 全国全世帯被服類品目別消費支出状況

Consumption Expenditures of Total Households

項目 Item 年月 Year & Month	消費支出総額 Total		被服及び履物 Clothing&footwear		和服 Japanese clothing		洋服 Clothing		シャツ・セーター Shirts & sweaters		下着類 Underwear	
	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)	(円) Yen	前年比 (%)
暦年Calendar Year												
2004	304,203	0.5	13,572	▲ 2.8	559	10.5	5,257	▲ 3.5	2,936	0.9	1,213	▲ 4.7
2005	300,903	▲ 1.1	13,440	▲ 1.0	440	▲ 7.8	5,122	▲ 2.6	2,911	▲ 0.9	1,260	3.9
2006	294,943	▲ 2.0	12,776	▲ 1.0	342	▲ 7.8	5,007	▲ 2.6	2,694	▲ 0.9	1,184	3.9
2007	297,782	1.0	12,933	1.2	345	0.9	5,066	1.2	2,727	1.2	1,164	▲ 1.7
2008	296,932	▲ 0.3	12,523	▲ 3.2	299	▲ 13.3	4,890	▲ 3.5	2,598	▲ 4.7	1,133	▲ 2.7
2009	291,737	▲ 0.2	11,994	▲ 3.3	261	▲ 12.0	4,622	▲ 4.2	2,468	▲ 4.0	1,098	▲ 2.9
2010	290,244	0.3	11,499	▲ 2.9	245	▲ 6.0	4,459	▲ 2.3	2,353	▲ 3.8	1,069	▲ 1.0
2008 - 9	281,433	▲ 2.3	10,021	1.2	221	10.9	3,667	1.6	2,094	▲ 0.6	904	▲ 7.9
10	291,504	▲ 3.8	12,755	▲ 6.0	393	61.9	4,807	▲ 8.5	2,697	▲ 8.2	1,120	▲ 14.6
11	284,762	▲ 0.5	14,547	1.3	158	▲ 68.5	6,205	7.3	2,646	▲ 1.9	1,490	2.1
12	336,976	▲ 4.6	13,644	▲ 8.4	346	168.6	5,429	▲ 12.2	2,449	▲ 14.7	1,558	▲ 0.5
2009 - 1	291,440	▲ 5.9	13,679	▲ 1.4	337	▲ 32.6	6,371	4.0	2,528	▲ 7.1	1,034	▲ 4.4
2	266,044	▲ 3.5	8,879	▲ 12.9	165	▲ 45.8	3,883	▲ 10.7	1,669	▲ 9.5	704	▲ 21.4
3	310,680	▲ 0.4	13,466	▲ 3.6	526	314.6	6,307	▲ 1.4	2,027	▲ 16.8	849	▲ 11.4
4	306,340	▲ 1.3	12,533	▲ 1.6	360	324.5	4,569	▲ 7.4	2,451	▲ 1.9	976	▲ 1.0
5	285,530	0.3	12,623	▲ 1.0	181	▲ 13.2	4,451	▲ 3.6	2,755	▲ 2.7	1,060	▲ 6.0
6	277,237	0.2	11,815	▲ 0.3	117	▲ 3.5	3,929	▲ 6.0	2,935	0.9	1,143	5.5
7	285,078	▲ 2.0	11,873	▲ 12.7	209	▲ 38.1	3,871	▲ 15.6	3,029	▲ 15.8	1,299	▲ 3.3
8	290,972	2.6	8,882	▲ 10.2	368	▲ 51.7	2,820	▲ 9.2	2,185	▲ 2.2	907	▲ 14.1
9	277,110	1.0	9,651	▲ 2.5	215	▲ 2.4	3,273	▲ 8.4	2,141	2.1	932	3.3
10	287,789	1.6	12,287	▲ 2.3	75	▲ 80.8	4,685	0.1	2,705	1.0	1,220	9.3
11	284,740	2.2	13,698	▲ 4.3	236	50.0	5,558	▲ 7.8	2,512	▲ 4.3	1,392	▲ 6.0
12	337,887	2.1	14,546	8.7	344	▲ 0.3	5,750	9.2	2,678	11.0	1,656	7.7
2010 - 1	291,918	1.7	12,997	▲ 3.7	102	▲ 69.3	5,969	▲ 3.4	2,383	▲ 6.2	1,045	2.4
2010 - 2	261,918	▲ 0.5	9,325	6.1	440	167.8	4,012	4.9	1,678	0.1	717	3.4
3	319,991	4.4	13,147	▲ 1.1	235	▲ 55.3	6,289	1.3	2,116	4.9	860	3.2
4	299,996	▲ 0.7	10,703	▲ 13.1	116	▲ 67.9	4,110	▲ 8.2	2,123	▲ 12.3	817	▲ 14.7
5	280,714	▲ 0.7	12,049	▲ 2.7	124	▲ 31.6	4,097	▲ 5.7	2,834	4.1	1,079	4.0
6	276,494	0.5	11,514	▲ 0.9	77	▲ 34.5	3,902	1.2	2,746	▲ 4.8	1,112	▲ 0.9
7	285,274	1.1	12,273	4.4	755	261.6	3,878	1.2	3,022	0.3	1,266	▲ 0.8
8	293,361	1.7	8,718	▲ 1.0	174	▲ 52.6	2,946	5.0	2,094	▲ 3.3	960	7.5
9	275,367	0.0	9,165	▲ 4.1	395	84.4	3,074	▲ 5.9	1,915	▲ 9.4	916	0.4
10	287,433	▲ 0.4	12,763	5.1	238	215.7	5,000	7.5	2,642	▲ 0.9	1,305	9.3
11	284,212	▲ 0.4	12,530	▲ 7.8	221	▲ 6.7	5,025	▲ 9.6	2,385	▲ 3.4	1,310	▲ 5.1
12	327,006	▲ 3.3	12,802	▲ 11.3	69	▲ 79.9	5,205	▲ 9.5	2,280	▲ 13.2	1,435	▲ 12.8
2011 - 1	289,191	▲ 1.0	12,521	▲ 3.7	120	17.2	5,405	▲ 10.8	2,749	6.1	1,135	9.3
2	260,793	▲ 0.2	8,720	▲ 6.7	282	▲ 36.0	3,802	▲ 6.9	1,445	▲ 12.3	735	2.5
3	291,900	▲ 8.2	11,013	▲ 16.0	451	92.1	5,014	▲ 20.8	1,772	▲ 15.4	773	▲ 10.2
4	292,559	▲ 3.0	11,212	5.0	92	▲ 20.2	4,183	1.3	2,398	14.0	900	10.0
5	276,159	▲ 1.9	11,906	▲ 1.1	49	▲ 60.3	4,099	▲ 0.5	2,789	▲ 0.9	1,158	7.2

資料:総務省統計局「家計調査報告」。2人以上で構成される8,000世帯を集計。

備考:「被服及び履物」は右に並ぶ内訳4費目以外の費目も含む。年数値は月平均。

Source: Family Income and Expenditure Survey by Statistics Bureau, MIC.

Added up 8,000 two-or-more-person households.

Remarks: Clothing&footwear includes japanese clothing ,clothing ,shirts&sweaters and other items.

Year value is mean of the each month.

(1)世界主要国の家蚕繭生産数量

Domesticated Silkworm Cocoon Production in Major Countries

区 分		2004年	2005年	2006年
		トン	トン	トン
日本	Japan	683	626	505
中国	China	547,091	621,461	739,715
インド	India	120,000	126,000	135,000
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,005	7,146	8,051
タイ	Thailand	10,650	10,650	10,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	20,000	20,000
イラン	Iran	3,200	2,543	2,104
トルコ	Turkey	169	170	350
ブルガリア	Bulgaria	20	42	65
ギリシャ	Greece	70	70	100
フィリピン	Philippines	22	14.4	16
シリア	Syria	11.5	5.5	3
主要国の計	Total	730,922	809,728	937,009

区 分		2007年	2008年	2009年
		トン	トン	トン
日本	Japan	433	382	327
中国	China	779,261	683,387	575,299
インド	India	150,000	133,316	131,661
ベトナム	Vietnam	21,000	21,000	21,000
ブラジル	Brazil	8,617	6,266	4,835
タイ	Thailand	1,785	7,700	4,655
ウズベキスタン	Uzbekistan	20,000	25,760	25,896
イラン	Iran	1,665	1,185	1,185
トルコ	Turkey	130	126	140
ブルガリア	Bulgaria	55	48	51
ギリシャ	Greece	104	0	100
フィリピン	Philippines	9	6	4
シリア	Syria	2.5	3	4
主要国の計	Total	983,062	879,179	765,157

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会 (ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(2)世界主要国の家蚕生糸生産数量

Domesticated Raw Silk Production in Major Countries

区 分		2004年		2005年		2006年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	263	4,400	151	2,500	119	2,000
中国	China	80,231	1,337,200	87,761	1,462,700	93,105	1,552,000
インド	India	14,620	243,700	15,445	257,400	16,525	275,400
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,512	25,200	1,285	21,400	1,387	23,100
タイ	Thailand	1,420	23,700	1,420	23,700	1,080	18,000
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,100	18,300	1,100	18,300
イラン	Iran	500	8,300	395	6,600	324	5,400
トルコ	Turkey	28	500	30	500	25	400
ブルガリア	Bulgaria	3	100	6	100	5	100
ギリシャ	Greece	4.5	100	4	100	4	100
フィリピン	Philippines	3	100	1.1	0	1.6	0
シリア	Syria	1.5	0	0.7	0	0.5	0
主要国の計	Total	101,936	1,699,100	109,849	1,830,800	115,926	1,932,300

区 分		2007年		2008年		2009年	
		トン	俵	トン	俵	トン	俵
日本	Japan	105	1,800	95	1,600	69	1,200
中国	China	108,420	1,807,000	98,620	1,643,700	92,455	1,540,900
インド	India	18,320	305,300	18,370	306,200	19,600	326,700
ベトナム	Vietnam	2,250	37,500	2,250	37,500	2,250	37,500
ブラジル	Brazil	1,220	20,300	1,177	19,600	811	13,500
タイ	Thailand	760	12,700	1,100	18,300	665	11,100
ウズベキスタン	Uzbekistan	1,100	18,300	1,417	23,600	2,447	40,800
イラン	Iran	253	4,200	180	3,000	180	3,000
トルコ	Turkey	20	300	15	300	20	300
ブルガリア	Bulgaria	7.5	100	7.5	100	6.3	100
ギリシャ	Greece	0	0	0	0	4	100
フィリピン	Philippines	1	0	1	0	1	0
シリア	Syria	0	0	0.4	0	0.6	0
主要国の計	Total	132,457	2,207,500	123,233	2,053,900	118,509	1,975,200

注1 日本は農林水産省生産局、中国は中国絲綢(シルク)協会、インドはインド繊維省中央蚕糸局(CSB)、ブラジルはブラジル製糸協会 (ABRASSED)の統計値をそれぞれ使用、それ以外の国は国際養蚕委員会(ISC)の統計値を使用した。

注2 不明な数値は空欄とした。ただし、シェアの大きいベトナムは、2004年以降を不明年の前年と同数量の数値とした。

Note:1 Figures of Japan are based on the data of the Agricultural Production Bureau, MAFF.

Figures of China are based on the data of the China Silk Association.

Figures of India are based on the data of the Central Silk Board (CSB), Ministry of Textiles in India.

Figures of Brazil are based on the data of the Brazil Filature Association (ABRASSED).

Others than these countries, based on the data of International Sericulture Commission (ISC).

2 As the figures of Vietnam (since 2004) is not reported, that is taken as the same amount as previous year because that constitute high proportion of total.

(3)中国省別家蚕繭生産量・生糸生産量・製糸工場数

Domesticated Cocoon Production,Raw Silk Production, and Number of Filatures in China

省 Province	区分	家蚕繭生産量 Domesticated Cocoon Production (トン、%)(MT, %)			生糸生産量 Raw silk Production (トン、%)(MT, %)		
		2007	2008	対前年比 2008/07	2007	2008	対前年比 2008/07
山西	Shanxi	5,800	6,033	104	130	64	49
河北	Hebei	1,020	1,000	-	-	-	-
江蘇	Jiangsu	104,119	95,476	92	22,000	20,450	93
浙江	Zhejiang	83,900	64,319	77	18,500	17,950	97
安徽	Anhui	38,100	33,400	88	5,200	5,500	106
江西	Jiangxi	12,400	10,015	81	2,500	2,570	103
山東	Shandong	40,500	34,530	85	7,200	5,530	77
河南	Henan	13,700	11,641	85	3,300	2,800	85
湖北	Hubei	15,800	21,200	134	470	332	71
湖南	Hunan	4,200	4,300	102	60	58	97
広東	Guangdong	81,127	70,693	87	1,400	1,513	108
広西	Guangxi	205,163	170,900	83	11,000	14,069	128
重慶	Chongqing	24,800	22,110	89	7,800	5,497	70
四川	Sichuan	83,700	68,576	82	24,700	16,400	66
貴州	Guizhou	2,532	3,626	143	-	23	-
雲南	Yunnan	36,600	40,348	110	1,640	2,871	175
陝西	Shaanxi	24,600	23,800	97	2,300	2,868	125
甘肅	Gansu	500	420	84	-	-	-
寧夏	Ningxia	500	520	104	50	30	60
新疆	Xinjiang	200	480	240	-	30	-
内 蒙 古	Inner Monglia	-	-	-	60	65	108.33
合 計	Total	779,261	683,387	88	108,310	98,620	91

製糸工場数 (件) Number of Filatures		
2006	2008	前年比 2008/06
702	682	97

資料：中国絲綢協会資料による

注：合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

(4) 中国省別家蚕繭生産量の推移 Domesticated Cocoon Production in China (1997年～2008年)

(単位：万トン) (Unit: 10,000ton)

地域	Area	1997年	1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	前年比 08/07(%)
北 京	Beijing													
天 津	Tianjin													
河 北	Hebei		0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1				0.1	0.1	100.0
山 西	Shanxi	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	0.3	0.4	0.6	0.6	0.6	100.0
内 蒙 古	Inner Mongolia													
遼 寧	Liaoning													
吉 林	Jilin													
黒 龍 江	Heilongjiang													
上 海	Shanghai								0.0	0.0				
江 蘇	Jiangsu	8.6	8.5	8.2	9.0	10.1	11.9	10.7	11.1	10.1	11.8	10.4	9.5	91.3
浙 江	Zhejiang	9.5	10.4	9.4	9.5	11.0	9.9	7.9	7.6	7.5	8.5	8.4	6.4	76.2
安 徽	Anhui	2.4	2.5	2.1	2.5	2.7	2.8	2.6	2.7	3.4	3.8	3.8	3.3	86.8
福 建	Fujian													
江 西	Jiangxi	0.5	0.4	0.3	0.3	0.5	0.7	0.8	1.0	1.1	1.2	1.2	1.0	83.3
山 東	Shandong	3.4	4.2	4.2	5.3	6.9	6.9	6.7	3.5	3.7	4.0	4.0	3.5	87.5
河 南	Henan	1.3	0.6	1.2	1.3	1.5	1.7	1.1	0.7	0.9	1.3	1.4	1.2	85.7
湖 北	Hubei	1.2	1.4	1.4	1.2	1.2	1.3	1.2	1.1	1.4	1.6	1.6	2.1	131.3
湖 南	Hunan	0.1	0.1			0.1	0.1	0.2	0.4	0.4	0.4	0.4	0.4	100.0
広 東	Guangdong	2.1	2.1	2.3	3.1	4.5	5.3	5.2	2.7	3.4	6.9	8.1	7.1	87.7
広 西	Guangxi	1.5	1.8	1.9	3.0	5.6	7.4	8.7	9.2	14.8	18.5	20.5	17.1	83.4
海 南	Hainan													
重 慶	Chongqing		2.9	2.4	3.0	3.2	3.4	2.8	2.6	3.1	2.4	2.5	2.2	88.0
四 川	Sichuan	8.5	9.3	8.1	8.7	9.2	9.3	9.3	8.3	7.8	7.8	8.4	6.9	82.1
貴 州	Guizhou	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2	0.1	0.2	0.1	0.1	0.2	0.4	200.0
雲 南	Yunnan	0.7	0.7	0.7	0.7	0.9	1.1	1.3	1.9	2.0	3.1	3.7	4.0	108.1
チベット	Tibet													
陝 西	Shaanxi	1.4	1.6	1.5	1.5	1.6	1.7	1.9	1.6	2.0	1.8	2.5	2.4	96.0
甘 肅	Gansu								0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	
青 海	Qinghai													
寧 夏	Ningxia								0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	
新 疆	Xinjiang	0.3	0.4	0.3	0.3	0.3	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	
合 計	Total	42.3	47.5	44.7	50.1	60.2	64.5	61.1	55.0	62.2	73.9	77.9	68.3	87.7

資料：2003年までは中国国家统计局「中国統計年鑑」、2004年以降は中国絲綢協会資料による。

合計はラウンドの関係で一致していない。

Source: Until 2003, "China Statistical Yearbook" National Bureau of Statistics of China

Since 2004, China Silk Association

Note: Total may not add up due to round off.

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2010年1月～12月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	5,316,040	80.92	210.292	124.18
2 ベトナム	Vietnam	687,800	183.10	27.625	256.92
3 韓国	South Korea	524,545	97.95	21.201	138.58
4 ルーマニア	Romania	508,559	198.80	20.229	281.97
5 日本	Japan	483,704	107.01	20.302	155.15
6 イタリア	Italy	347,761	135.80	14.853	195.92
7 バングラデッシュ	Bangladesh	166,676	109.79	6.230	164.02
8 パキスタン	Pakistan	85,423	48.10	3.128	68.19
9 ミャンマー	Myanmar	78,785	119.99	3.028	189.93
10 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	66,758	229.30	2.502	279.12
11 その他	Others	242,599	59.43	9.458	100.53
合計	Total	8,508,650	92.21	338.848	139.15

中国のシルク類の輸出状況
Silk Exports of China
(2011年1月～6月)

相手国	Country	生糸(柞蚕糸、野蚕生糸を含む) Raw Silk (tussah silk and wild raw silk included)			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	2,089,554	84.54	114.942	132.43
2 ベトナム	Vietnam	273,671	99.59	14.517	154.80
3 ルーマニア	Romania	264,159	132.45	13.976	195.03
4 日本	Japan	246,749	110.54	13.995	166.68
5 韓国	South Korea	244,880	111.88	13.349	171.44
6 イタリア	Italy	153,076	132.26	8.536	198.06
7 ミャンマー	Myanmar	33,632	74.61	1.861	125.73
8 バングラデッシュ	Bangladesh	28,811	29.31	1.543	46.22
9 ブラジル	Brazil	27,953	0.00	1.556	0.00
10 ドイツ	Germany	23,633	139.00	1.317	211.25
11 その他	Others	90,681	42.27	4.966	67.39
合計	Total	3,476,799	89.64	190.558	139.46

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	1,697,386	68.52	68.000	106.57
2 日本	Japan	632,473	106.00	26.847	146.56
3 イタリア	Italy	534,502	129.60	22.832	182.77
4 パキスタン	Pakistan	476,671	102.63	19.600	148.45
5 ドイツ	Germany	202,213	68.30	7.535	80.81
6 韓国	South Korea	189,531	93.82	7.847	132.48
7 タイ	Thailand	150,802	171.12	6.384	241.18
8 シリア	Syria	87,563	516.50	0.376	564.61
9 インドネシア	Indonesia	86,871	110.16	3.364	160.01
10 ベトナム	Vietnam	55,208	97.92	2.225	157.13
11 その他	Others	258,693	108.99	10.760	155.24
合計	Total	4,371,913	88.74	175.770	129.03

相手国	Country	絹糸 Spun Silk Yarn			
		数量 Quantity (Kg)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 インド	India	470,855	61.68	25.640	93.82
2 日本	Japan	369,905	125.86	21.109	182.34
3 イタリア	Italy	325,125	140.17	18.733	213.57
4 パキスタン	Pakistan	108,363	45.13	6.142	68.13
5 ドイツ	Germany	91,635	77.83	4.331	102.49
6 韓国	South Korea	87,118	94.44	4.736	135.28
7 タイ	Thailand	82,319	119.60	4.791	178.86
8 インドネシア	Indonesia	48,963	87.04	2.654	129.74
9 マレーシア	Malaysia	28,117	32,694.19	1.466	57,326.31
10 ベトナム	Vietnam	20,119	82.84	1.029	121.66
11 その他	Others	69,907	50.77	3.536	92.13
合計	Total	1,702,426	84.01	94.167	127.55

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2010年実績	10/09(%)	2010年実績	10/09(%)
1 インド	India	56,715,405	86.28	194.688	121.16
2 パキスタン	Pakistan	52,802,642	116.96	133.167	149.68
3 イタリア	Italy	49,555,469	136.42	173.431	164.48
4 香港	Hong Kong	17,082,170	99.57	90.484	120.59
5 韓国	South Korea	15,521,720	91.28	70.217	110.96
6 日本	Japan	11,648,919	102.17	39.907	133.54
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	8,469,624	92.62	31.330	109.83
8 マレーシア	Malaysia	7,832,855	85.90	38.012	125.04
9 シンガポール	Singapore	7,482,141	72.13	30.155	82.34
10 アメリカ	United States	6,024,523	110.33	35.272	117.48
11 その他	Others	40,723,405	115.50	155.883	133.41
合計	Total	273,858,873	104.48	992.546	129.62

相手国	Country	絹織物 Silk Fabrics			
		数量 Quantity (メートル)(meter)		金額 Amount (百万USDドル) (USD1,000,000)	
		2011年実績	11/10(%)	2011年実績	11/10(%)
1 イタリア	Italy	20,607,923	75.30	106.738	124.30
2 パキスタン	Pakistan	19,932,108	114.63	64.428	154.71
3 インド	India	16,148,293	59.87	71.730	87.82
4 韓国	South Korea	7,276,173	87.37	43.113	123.32
5 香港	Hong Kong	6,436,744	78.66	42.885	108.42
6 日本	Japan	5,843,511	104.67	25.010	141.59
7 アラブ首長国連邦	United Arab Emirates	3,992,056	94.84	18.565	131.96
8 マレーシア	Malaysia	3,411,862	89.41	20.929	126.46
9 シンガポール	Singapore	3,229,127	95.62	13.375	92.92
10 トルコ	Turkey	3,162,286	101.96	16.154	135.40
11 その他	Others	19,429,456	94.21	100.204	126.61
合計	Total	109,469,539	84.89	523.131	119.58

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

資料: 中国税関
Source: Customs General Administration in China

(6) 中国企業別従業員年間賃金総額及び対前年増減率

Total Wage Bill of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	賃金総額（億元） Wage Bill (100million yuan)				対前年増減率（%） Indices (preceding year=100)			
	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体 Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective-owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	8,255.8	6,173	1,210.6	672.7	21.8	17.4	15.6	42.2
1996年	9,249.4	6,893	1,269.4	801.7	12.0	11.7	4.9	19.2
1997年	9,602.4	7,324	1,283.9	994.5	3.8	6.2	1.1	24.0
1998年	9,540.2	6,935	1,054.9	1,550.7	▲ 0.6	▲ 5.3	▲ 17.8	55.9
1999年	10,155.9	7,290	995.8	1,870.1	6.5	5.1	▲ 5.6	20.6
2000年	10,954.7	7,745	950.7	2,259.1	7.9	6.2	▲ 4.5	20.8
2001年	12,205.4	8,515	898.5	2,791.7	11.4	9.9	▲ 5.5	23.6
2002年	13,638.1	9,138	863.9	3,636.2	11.7	7.3	▲ 3.9	30.3
2003年	15,329.6	9,912	867.1	4,550.6	12.4	8.5	0.4	25.1
2004年	17,615.0	11,038	876.2	5,700.6	14.9	11.4	1.0	25.3
2005年	20,627.1	12,292	906.4	7,429.0	17.1	11.4	3.4	30.3
2006年	24,262.3	13,921	983.8	9,357.9	17.6	13.3	8.5	26.0
2007年	29,471.5	16,689	1,108.1	11,674.3	21.5	19.9	12.6	24.8
2008年	35,289.5	19,488	1,203.2	14,598.4	19.7	16.8	8.6	25.0
2009年	40,288.2	21,863	1,273.3	17,152.1	14.2	12.2	5.8	17.5

資料：中国統計年鑑(2010)

Source: China Statistical Yearbook 2010

(7) 中国企業別従業員年間平均賃金及びその対前年増減率

Average Wage of Employed Persons in Urban Units and Related Indices

年次 Year	年平均賃金（元） Average Wage (yuan)				対 前 年 増 減 率（%）Indices(preceding year=100)							
					名 目 賃 金Average Wage				実 質 賃 金Average Real Wage			
	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership	全体Total	国有企業 State-owned Units	集団企業 Urban Collective- owned Units	その他企業 Units of Other Types of Ownership
1995年	5,348	5,553	3,934	7,728	18.9	17.3	21.1	19.9	1.8	0.4	3.7	2.6
1996年	5,980	6,207	4,312	8,521	11.8	11.8	9.6	10.3	2.8	2.7	0.7	1.3
1997年	6,444	6,679	4,516	9,092	7.8	7.6	4.7	6.7	4.5	4.4	1.6	3.5
1998年	7,446	7,579	5,314	9,241	15.5	13.5	17.7	1.6	16.2	14.2	18.4	2.3
1999年	8,319	8,443	5,758	10,142	11.7	11.4	8.4	9.8	13.2	12.9	9.8	11.2
2000年	9,333	9,441	6,241	11,238	12.2	11.8	8.4	10.8	11.3	10.9	7.5	9.9
2001年	10,834	11,045	6,851	12,437	16.1	17.0	9.8	10.7	15.3	16.2	9.0	9.9
2002年	12,373	12,701	7,636	13,486	14.2	15.0	11.5	8.4	15.4	16.2	12.6	9.5
2003年	13,969	14,358	8,627	14,843	12.9	13.0	13.0	10.1	11.9	12.0	12.0	9.1
2004年	15,920	16,445	9,723	16,519	14.0	14.5	12.7	11.3	10.3	10.9	9.1	7.7
2005年	18,200	18,978	11,176	18,362	14.3	15.4	14.9	11.2	12.5	13.6	13.1	9.4
2006年	20,856	21,706	12,866	21,004	14.6	14.4	15.1	14.4	12.9	12.7	13.4	12.7
2007年	24,721	26,100	15,444	24,271	18.5	20.2	20.0	15.6	13.4	15.0	14.8	10.6
2008年	28,898	30,287	18,103	28,552	16.9	16.0	17.2	17.6	10.7	9.8	11.0	11.4
2009年	32,244	34,130	20,607	31,350	11.6	12.7	13.8	9.8	12.6	13.7	14.8	10.8

資料：中国統計年鑑2010 Source:China Statiscal Yearbook 2010

(8)中国産業別従業員年平均賃金の推移

Average Wage of Employed Persons in Urban Units by Sector

(単位:元)(yuan)

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
農、林、牧、漁業 Agriculture, Forestry, Fishery	6,884	7,498	8,207	9,269	10,847	12,560	14,356
採掘業 Mining	13,627	16,774	20,449	24,125	28,185	34,233	38,038
製造業 Manufacturing	12,671	14,251	15,934	18,225	21,144	24,404	26,810
電力、ガス、水道業 Production/Distribution of Electricity, Gas and Water	18,574	21,543	24,750	28,424	33,470	38,515	41,869
建築業 Construction	11,328	12,578	14,112	16,164	18,482	21,223	24,161
交通、運輸、倉庫、郵便業 Transport, Storage and Post	15,753	18,071	20,911	24,111	27,903	32,041	35,315
情報通信コンピューターサービス Information Transmission, Computer Service and Software	30,897	33,449	38,799	43,435	47,700	54,906	58,154
卸売、小売業 Wholesale and Retail Trades	10,894	13,012	15,256	17,796	21,074	25,818	29,139
ホテル、飲食業 Hotels and Catering Services	11,198	12,618	13,876	15,236	17,046	19,321	20,860
金融業 Financial Intermediation	20,780	24,299	29,229	35,495	44,011	53,897	60,398
不動産業 Real Estate	17,085	18,467	20,253	22,238	26,085	30,118	32,242
賃貸、リース業 Leasing and Business Services	17,020	18,723	21,233	24,510	27,807	32,915	35,494
科学研究、技術サービス業 Scientific Research, Technical Services	20,442	23,351	27,155	31,644	38,432	45,512	50,143
水利、環境管理業 Manage of Water Conservancy, Enviroment and Public Services	11,774	12,884	14,322	15,630	18,383	21,103	23,159
家庭サービス業 Services to Households and Other Services	12,665	13,680	15,747	18,030	20,370	22,858	25,172
教育 Education	14,189	16,085	18,259	20,918	25,908	29,831	34,543
衛生、社会保障、社会福祉業 Health, Social Securities and Entertainment	16,185	18,386	20,808	23,590	27,892	32,185	35,662
文化、スポーツ、娯楽業 Culture, Sports and Entertainment	17,098	20,522	22,670	25,847	30,430	34,158	37,755
公共機関、社会団体 Public Management and Social Organization	15,355	17,372	20,234	22,546	27,731	32,296	35,326
合 計 Total	13,969	15,920	18,200	20,856	24,721	28,898	32,244

(出所)中国統計年鑑2010

Source: China Statistical Yearbooh 2010

上記を円(Yen)換算

産業別 Sector	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
製造業 Manufactur	184,236	192,389	212,560	273,375	317,160	366,060	375,340
合 計 Total	203,109	214,920	242,788	312,840	370,815	433,470	451,416
年別人民元yuan／円yenレート	14.54	13.50	13.34	15.00	15.00	15.00	14.00

(9) 中国省別従業員年平均賃金(2009年)

Average Wage of Employed Persons Urban Units by Region

省（区）別 Region			年平均賃金(単位: 元)(yuan)	円換算(円) (yen)	対全国平均比(%) Indices(average=100)
北	京	Beijing	57,779	808,906	179.19
天	津	Tianjin	43,937	615,118	136.26
河	北	Hebei	27,774	388,836	86.14
山	西	Shanxi	28,066	392,924	87.04
内	蒙	Inner Mongolia	30,486	426,804	94.55
遼	寧	Liaoning	30,523	427,322	94.66
吉	林	Jilin	25,943	363,202	80.46
黒	龍	Heilongjiang	24,805	347,270	76.93
上	海	Shanghai	58,336	816,704	180.92
江	蘇	Jiangsu	35,217	493,038	109.22
浙	江	Zhejiang	36,553	511,742	113.36
安	徽	Anhui	28,723	402,122	89.08
福	建	Fujian	28,366	397,124	87.97
江	西	Jiangxi	24,165	338,310	74.94
山	東	Shandong	29,398	411,572	91.17
河	南	Henan	26,906	376,684	83.44
湖	北	Hubei	26,547	371,658	82.33
湖	南	Hunan	26,534	371,476	82.29
広	東	Guangdong	36,469	510,566	113.10
広	西	Guangxi	27,322	382,508	84.74
海	南	Hainan	24,790	347,060	76.88
重	慶	Chongqing	30,499	426,986	94.59
四	川	Sichuan	28,149	394,086	87.30
貴	州	Guizhou	27,437	384,118	85.09
雲	南	Yunnan	26,163	366,282	81.14
西	蔵	Tibet	45,347	634,858	140.64
陝	西	Shaanxi	29,566	413,924	91.69
甘	肅	Gansu	26,743	374,402	82.94
青	海	Qinghai	32,481	454,734	100.74
寧	夏	Ningxia	32,916	460,824	102.08
新	疆	Xinjiang	27,617	386,638	85.65
全国平均		Average	32,244	451,416	100.00

(出所) 中国統計年鑑2010 Source: China Statistical Yearbook 2010

(注) 1元 = 14円 Note: 1yuan=14yen

(10)ブラジルの繭・生糸生産量推移
Cocoon and Raw Silk Production in Brazil

シルク年度 Silk Year (9～8月) (Sep-Aug)	繭生産量 Cocoon Production (トン)(Ton)
1988/89	11,470
1989/90	15,829
1990/91	17,221
1991/92	17,586
1992/93	19,134
1993/94	18,260
1994/95	16,260
1995/96	15,368 (95%)
1996/97	14,811 (96%)
1997/98	14,594 (99%)
1998/99	10,305 (71%)
1999/2000	8,473 (82%)
2000/01	9,916 (117%)
2001/02	10,238 (103%)
2002/03	9,966 (97%)
2003/04	8,005 (80%)
2004/05	7,146 (89%)
2005/06	8,051 (113%)
2006/07	8,617 (107%)
2007/08	6,266 (73%)
2008/09	4,835 (77%)
2009/10	4,439 (92%)
2010/11 〔見込み〕 [Estimate]	3,161 (71%)

暦年 Calendar Year	生糸生産量 Raw Silk Production (kg)	生糸生産量 Raw Silk Production (俵換算) (Bale value)
1988	1,748,996	29,150
1989	1,696,622	28,277
1990	1,693,206	28,220
1991	2,077,155	34,619
1992	2,296,053	38,268
1993	2,325,809	38,763
1994	2,535,440	42,257
1995	2,467,524 (97%)	41,125
1996	2,242,000 (91%)	37,367
1997	2,120,129 (95%)	35,335
1998	1,820,745 (86%)	30,346
1999	1,553,722 (85%)	25,895
2000	1,389,356 (89%)	23,156
2001	1,484,905 (107%)	24,748
2002	1,607,485 (108%)	26,791
2003	1,562,563 (97%)	26,043
2004	1,512,133 (97%)	25,202
2005	1,284,510 (85%)	21,409
2006	1,387,289 (108%)	23,121
2007	1,219,562 (88%)	20,326
2008	1,176,885 (97%)	19,615
2009	811,020 (69%)	13,517
2010	770,000 (95%)	12,833
2011 〔見込み〕 [Estimate]	557,000 (72%)	9,283

資料: ブラジル製糸協会

注: ()内は対前年比

[]内の見込みは2011年2月現在

Source: ABRASSEDA

Note: Figures in parenthesis are compared to the previous year.

Estimates are as of February 2011.

(11) ブラジル繭、生糸・絹撚糸、絹織物の生産、輸入及び輸出状況(総括表)

Production, Import and Export of Raw Silk, Twisted Silk and Silk Fabrics in Brazil (Summary)

年次 Year	生産 Production	年次 Year	輸入 Import	年次 Year	輸出 Export
	生繭Wet Cocoon (ton)		乾繭Dry Cocoon (kg)		乾繭Dry Cocoon (kg)
94/95	16,260	95	82,000	95	101,095
95/96	15,368	96	14,000	96	68,760
96/97	14,811	97	-	97	341,000
97/98	14,594	98	-	98	569,200
98/99	10,305	99	-	99	60,000
99/00	8,473	00	-	00	-
00/01	9,916	01	1,890	01	73,600
01/02	10,238	02	-	02	220,483
02/03	9,966	03	-	03	118,574
03/04	8,005	04	-	04	47,350
04/05	7,146	05	5,000	05	12,326
05/06	8,051	06	-	06	4,030
06/07	8,617	07	-	07	72,000
07/08	6,266	08	-	08	-
08/09	4,835	09	-	09	1,000
09/10	4,439	10*	-	10*	1,000
年次 Year	生糸 Raw Silk (ton)	年次 Year	生糸Raw Silk (kg)	年次 Year	生糸と撚糸 Raw Silk and Twisted Silk (kg)
95	2,468	95	1,700	95	2,321,040
96	2,270	96	6,200	96	2,174,636
97	2,120	97	1,100	97	1,892,930
98	1,821	98	1,080	98	1,678,193
99	1,554	99	863	99	1,742,670
00	1,389	00	43,653	00	1,474,225
01	1,485	01	51,822	01	1,287,693
02	1,607	02	29,524	02	1,415,284
03	1,563	03	27,493	03	1,488,333
04	1,512	04	11,943	04	1,353,551
05	1,285	05	27,571	05	1,129,838
06	1,387	06	47,455	06	1,173,284
07	1,220	07	67,686	07	1,150,297
08	1,177	08	124,831	08	994,801
09	811	09	76,478	09	866,759
10	770	10*	40,000	10*	643,000
年次 Year	絹織物Silk Fabrics (ton)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)	年次 Year	絹織物Silk Fabrics (kg)
95	128	95	168,500	95	8,000
96	53	96	129,900	96	200
97	56	97	119,600	97	550
98	97	98	55,300	98	121
99	74	99	47,900	99	2,472
00	106	00	54,701	00	488
01	106	01	63,241	01	2,699
02	163	02	44,664	02	332
03	167	03	54,282	03	1,068
04	177	04	91,078	04	2,429
05	210	05	182,725	05	9,090
06	146	06	117,426	06	16,405
07	162	07	102,906	07	26,698
08	159	08	150,837	08	4,217
09	112	09	124,192	09	2,773
10*	101	10*	110,000	10*	3,000

資料: ブラジル製糸協会

注: *印は見込み数値

Source: ABRASEDA

Note: *Forecast

※「シルクレポート」の主要記事と統計データは、当支援センターのホームページでもご覧になれます。

<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

シルクレポート 2011 年 9 月号 NO.20 平成 23 年 9 月 1 日発行

編集 / 発行
(問い合わせ先)

(財) 大日本蚕糸会 蚕糸・絹業提携支援センター
〒 100-0006 東京都千代田区有楽町 1-9-4 蚕糸会館 5 階
TEL : 03-3214-3500
FAX : 03-3214-3511
URL:<http://www.silk-teikei.jp/index.html>

製本 / 印刷 株式会社 正大印刷社

無断転載禁ず